

明治十一年第八月三十一日

西洋品行論序

中村敬宇

善ヲ行フコ急ナル東西一轍

大内青巒

幼稚園記

鹽谷時敏

養氣亭記

安藤勝任

古詩一首

同

寛厚ヲ以テ横逆ヲ遇セシ人

中島雄

ノ話

同人社文學雜誌

第貳拾七號



1. Perform whatever you promise.
2. Imitate what is just.
3. Be not a judge between friends.
4. Believe nothing rashly.
5. Return a kindness.
6. Harbour not suspicion.

- | | | | | | |
|--------|------------|-------|-----------|-----------|-----------|
| 6. | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| 莫懷疑忌之心 | 人有德於我、我當報之 | 凡事勿輕信 | 兩友中間、勿爲審官 | 公正之事、必當學之 | 契約之事、必當成之 |

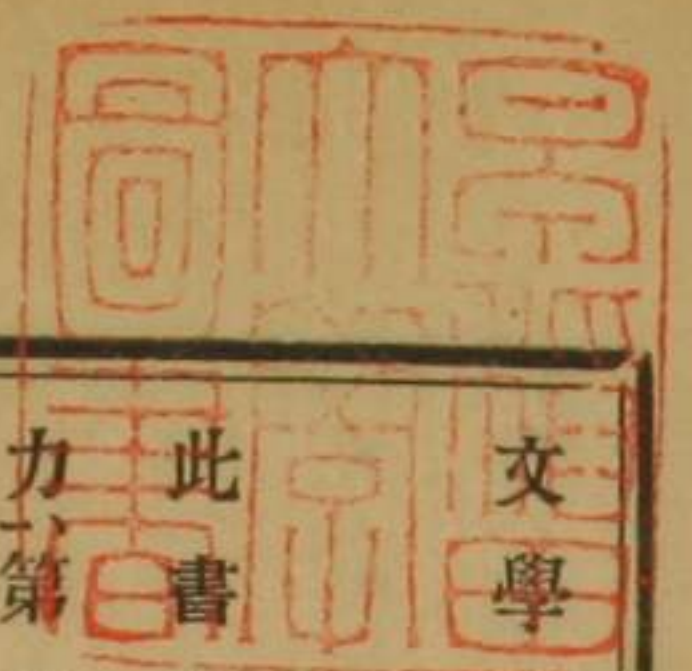
文學雜誌第貳拾七號

○西洋品行論序

此書分爲十二編、第一編、論品行之勢力感化、第二編、論家之勢力、第三編、論伴侶及儀範、第四編、論勞苦作工、第五編、論剛勇、第六編、論自治、第七編、論職分及真實、第八編、論性情、第九編、論儀容及術巧、第十編、論書籍之伴侶、第十一編、論婚娶之伴侶、第十二編、論經鍊之方法、譯書要如下九方臯相馬、舍其皮相、而觀其天機、領其精神、又要如曹將軍畫馬、經營慘淡、斯須現出、榻上庭前、屹然相向、余未能進于此、願學焉、

列子秦穆公謂伯樂曰、子之年長矣、子姓有可使求馬者乎、伯樂曰、臣之子、皆下才也、可告以良馬、不可告以天下之馬也、臣有所與共擔纏薪菜者九方臯、此其于馬、非臣之下也、

中村敬字



穆公使_二行求_レ馬、三月而反報曰、已得_レ之矣、在_二沙丘_一、牝而黃、使_二人往取_レ之、牡而驪、公不_レ悅、伯樂曰、阜之所_レ觀天機也、得_二其精_一而忘_二其粗_一、在_二其內_一而忘_二其外_一、馬至、果天下之馬也、

杜子美丹青引贈_二曹將軍霸_一詩、詔謂_二將軍拂_二絹素_一、意匠慘澹經營中、斯須九重真龍出、一洗萬古凡馬空、王花却在御榻上、榻上庭前屹相向、至尊含笑催_二賜金_一、圜人太僕皆惆悵、

○善ヲ行フニ急ナル東西一轍 大内青巒

予嘗テ敬字先生ノ西稗雜纂ヲ閱シ、羅馬王泰達士ガ其志、善ヲ行フニ急ニシテ、毎夜、ソノ日間ニ行フ所ノ事ヲ省視シ、或ハ、一善ナケレバ、自ラ懊悔シテ、嗟、我一日ヲ失ヘリト云ヒシトイフ一段ヲ讀ムニ至リ、嘆稱、欽慕、ヤム能ハズ、爾來竊ニ其平生ヲ學バント欲シ、且ニ、夕ニ、行業ノ善惡如何ヲ校量セシ

ガ、其微功、稍累積シテ、未タ多善ナルヲ得ズト雖、頗ル少惡ナルヲ得タルヲ喜ブ、然ルニ、此頃、南山ノ廣弘明集ヲ閱ミシ、淨住子ノ淨行法門ト稱スル一段ヲ讀ムニ至リ、其惡ヲ避ケ、善ヲ邀ムル、更ニ泰達士ヨリ急ナルモノアルヲ檢出セリ、予ノ嘆稱、欽慕、マタ、如何ゾヤ、因テ之ヲ抄譯シ、文學雜誌ニ掲載シテ、博ク四方ノ兄弟ト、共ニ其益ヲ受ケント欲スルナリ、蓋シ淨行法門ハ、南齊ノ司徒竟陵王文宣公蕭子良ガ、齊ノ永明八年ヲ以テ、佛教布薩、布薩ハ、梵語、譯シテ、淨住ト云フ、行業清淨ノ心地ニ住シ、善根功德ヲ長養スルノ義ナリ、義ニ依テ、三十一條ノ法門ヲ開キ、原文兩帙二十卷アリ、然ルチ、南山ノ宣師、コレヲ隱括シテ、廣弘明集ニ載セタルナリ、集ノ三十二卷ヨリ三十四卷ニ至ル、其第七門ヲ、檢覆三業門ト云フ、其文

ノ大意ニ曰ク、剋責ノ情、ナホ暗ク、審的ノ旨、未タ彰ハレズ、故
ニ、事ヲ以テ、心ヲ檢シ、其修習スル所ヲ校シテ、既ニ及バザル
ヲ知レバ、彌、悚慙ヲ増ス、何ヲカ、檢校トイフ、我此身、且ヨリ、暮
ニ至リ、暮ヨリ、曉ニ至ル、乃至、一時、一刻、一念、一頃ノ間ニ於テ、
幾心、幾行、幾善、幾惡アリト檢ス、即チ幾心カ、罪過ヲ摧滅セン
ト欲シ、幾心カ、魔怨ヲ降伏セント欲シ、幾心カ、四諦ヲ念シ、幾
心カ、苦空無常無我ヲ念シ、幾心カ、父母ノ恩慈ヲ報ゼント欲
シ、幾心カ、忍辱精進セント欲シ、幾心カ、禪定智惠ヲ證セント
欲シ、幾心カ、六道ヲ救濟セント欲シ、幾心カ、勸勵シテ、行ヒ難
キヲ行ハント欲シ、幾心カ、超求シテ、辨シ難キヲ辨ゼント欲
シ、幾心カ、苦ヲ忍ビテ、教法ヲ布演セント欲シ、幾心カ、成佛シ
テ、衆生ヲ化度セント欲セシヤト、是ノ如クニ、其心ヲ檢シ來

リテ、次ニ、復タ口ヲ檢スル、上ノ如ク、且ヨリ、已來、已ニ、幾句
ノ深義ヲ演說セシヤ、已ニ、幾卷ノ經典ヲ披讀セシヤ、已ニ、幾
回カ、佛ノ功德ヲ稱嘆セシヤ、已ニ、幾回カ、菩薩ノ行ヲ讚賞セ
シヤ、已ニ、幾回カ、人ノ善事ヲ説キシヤ、已ニ、幾回カ、人ニ德義
ヲ論セシヤト、次ニ、復タ身ヲ檢スル、上ノ時刻ノ如ク、已ニ、
幾回カ、身ヲ屈シテ、佛ヲ禮拜セシヤ、已ニ、幾回カ、法ヲ禮シ、僧
ヲ拜セシヤ、已ニ、幾回カ、手ヲ下シテ、人ヲ救ヒシヤ、幾回カ、教
法ノ爲ニ、奔馳セシヤ、幾回カ、父母ノ爲ニ、勞セシヤ、幾回カ、モ
ロモロノ善事ノ爲ニ、手脚ヲ運動セシメシヤト、此ノ如クニ、
身口意三業ヲ檢察スレバ、其理ニ會フハ、甚タ少ク、道ニ違フ
一、極メテ多ク、百淨ノ業ハ、固ヨリ、言フニ足ラズシテ、煩惱ノ
重障、森然、目ニ滿チ、闇礙ウタ、積テ、解脫、何ツ由ラシ、上ノ如

クニ、檢察スレバ、未ダ自ラ救フニ遑アラズ、何ノ時間アリテ、徒ラニ、人ノ善惡ヲ説キ、人ノ是非ヲ議セシ云々ト、淨住子ノ善ヲ行フニ急ナル、已ニ是ノ如シ、予輩、不肖、固ヨリ、其万一ヲモ望ム可ラズト雖モ、豈マタ其風ニ倣ヒ、其業ヲ學ブヲ欲セザランヤ、冀クハ、彌益、平生日夜ノ心行ヲ檢シ、日ニ、月ニ、善ヲ増シ、惡ヲ去ルノ眞道ニ進マン、因ミニ、賢者ノ心行、東西一轍ナルヲ記シ、以テ自ラ勵マシ、且ツ四方ノ兄弟ヲ誘フコト爾リ、曾子三省、亦淨住子之檢覆法也、儒釋、豈有異乎、敬字評

○幼穉園記

鹽谷時敏

人性善乎、吾弗得而知也、人性惡乎、吾弗得而知也、孔子曰、少成若天性、習慣成自然、習慣之於人也、大矣、蓬生麻中、不扶而直、沙在泥中、不染而黑、此所以孟母有三遷之教、而弗列別氏有幼穉

園之舉也、弗氏、獨乙國人、嘗患童穉未_レ能_レ就_レ學者、遊戲無_レ方、漸成_中惡習、於是創_ニ幼穉園_一、其遊戲設_ニ禮容_一、習_ニ歌咏_一、以豫爲_ニ就學之地_一、歐米諸邦、通邑大都、無_レ不_レ有_ニ是設_一、與_ニ鄉校黨序_一、相_レ爲_ニ表裏_一、以助_ニ教化_一、可_レ謂_ニ盛矣_一、明治九年六月、官新闢_ニ園于湯島_一、地方若干弓、中央構_ニ石室_一、室外雜_ニ植花卉草木_一、以透_ニ通風氣_一、園東隣_ニ師範學校_一、與_ニ女子師範學校_一、鉅構巍然、三區相望、前臨_ニ神田川_一、南與_ニ駿臺_一對、洵寬敞爽塏之地矣、凡入_ニ園男女_一、三歲至_ニ六歲_一、限_ニ百五十名_一、置_ニ保姆二人_一、助手三人、以掌_ニ保育_一、其教_レ之之法、分爲_ニ三科_一、曰_ニ物品_一、教_ニ日用器物及動植之名_一、曰_ニ美麗_一、彩繪丹青、以怡_ニ其心目_一、曰_ニ知識_一、連環三角木之類、撫玩以啓_ニ發智思_一、他至_ニ拜跪周旋算數唱歌說話體操遊戲之法_一、無_レ不_レ悉備_ニ矣_一、余一日從_ニ有司_一、後往_ニ觀焉_一、穉童少長分爲_ニ三群_一、各數十人、弄_ニ毬者_一、排_ニ算者_一、畫_ニ板作_ニ人物鳥獸之形_一者、諷詠歌詞者、

入室談話者、絕繩搖蕩者、皆熙々然娛樂、非復埋鬻竹馬之比也、夫嬰孩入園、稍長入小學、而中學、而大學、順次教之、天下雖欲有棄才得乎、弗氏之功、於是乎偉矣、抑余又竊有所感焉、今我人口凡三千萬、童穉居其半、而其就學者、蓋萬分之一、都下人口二百萬、童穉居其半、而其就學者、蓋百分之一、有就學者、而得入此園者、蓋亦百萬分之一、而況於五洲之廣、人民之衆乎、嗚呼、童穉之數無窮、而幼穉園之設有有限、以有限之園、教無窮之童穉、何怪天下有性惡之論乎哉、
實景真情描寫盡矣 敬字評

○養氣亭記

安藤勝任遺稿

余識安藤勝任君於同人社、七年於茲矣、每暇日相覲、飲酒談論、以為樂、然君性善病、向再養病於順天醫院、又優游常陸相摸之間、皆不得全癒而歸、本年六月二

十五日、將再養病於鄉國、招飲余於旗亭、叙別、臨別、徵送序、是日、余大醉、向君縱談土魯之戰狀、既極咄々激語之餘、戲笑曰、君病未全痊矣、送序豈得保不為墓碑銘乎、相笑而別、其後月餘、余步柳陰之夕陽、聽蟬聲之悲鳴、忽有人來報曰、有郵書來、從常陸之常名村、書曰、安藤勝吉、是君之嚴君也、余驟蹙曰、唉、君死矣、開之、乃曰、豚兒以本月八日午後六時遠行、余哭之慟、以為前日之生別、今日之死別、而前日之戲言、今日之讖言也、乃以其別時所見、示養氣亭記、揭出之於文學雜誌、以告訃音於同志如此、
中島雄謹識

君棟子以明治丁丑一月維吉、僦居於礪川之南、牛込神樂坂之傍、而寓焉、地位高爽、庭池蕭洒、頗有足愛者、因名曰養氣亭、蓋取

諸孟子養浩然之氣也、客詰余曰、子之名其亭、吾不知其所以、子去年獲病歸鄉里、今以其少痊、再負笈于都下、寓此亭、左藥壘、右茶爐、所伴有琴書與一燈檠而已、且其境、屋宇犬牙、大爲闢熱之地、又非有青山流水之快、豁心思者、而屋廬狹隘、且非己所有、又非有下如高堂厦屋之取快樂者、而子以養氣名其亭、則得無近妄乎、余則應之曰、子之說則是、然未知余之真意者也、夫高堂聳空、厦屋連雲、食前方丈、侍妾滿座、長夜之飲、千日之醉、無不如其意、快則快矣、而俗士有下不慊于心者、青山立前、流水遶後、奇木名卉、羅列左右、娛耳目、清則清矣、而小人不_レ能知其妙趣、蓋居高堂厦屋之貴、而不_レ傲、占青山流水之趣、而自樂者、非大英雄與大隱士、則不能也、彼俗士也、小人也、一慣富貴之習、而不知大義道德之快樂、一走貧賤之途、而不知高岩隱逸之清福、又曷足與語浩

然之氣哉、如余者、寒素之一書生、固未知高堂厦屋之快樂、又未知青山流水之清趣、然幸讀聖賢之書、聞古人之道、淡然自得、別有_レ一種快樂清福之存_レ于心者、若夫朝眠已醒、紅暎上窗、東風稍暖、把藥壘而服藥、以培養健康之氣力、向茶爐而煮茶、以培養活潑之心力、或微雨煙月之夕、伴一點之燈檠、披數卷之書冊、覽聖賢之心事、探古今之事迹、其樂蓋有不可言者矣、復何美于彼高堂厦屋與青山流水哉、且夫他日吾得志而上高堂厦屋、亦不可不存今日之清樂、或失志而退青山流水、亦又不可不存今日之清福、夫先天下之憂而憂、後天下之樂而樂、仁人君子之所事、不外于此、而是亦固無非培養于腔子裏而成者、是則吾所以住屋宇犬牙闢熱可厭之地、而自安居狹隘不容膝之室廬、而自樂且以名此亭也、言未畢、客曰、止、吾已諒子意、果然如子之說、亦使吾

培養一浩然之地也、因相對而笑、書以爲養氣亭記、

○贈中島雄君

同

男兒磊落即英雄、要將功業垂無窮、處則滿腔酒熱血、文章只當吐長虹、出則畢生當時務、經綸只當助天功、君本簪黻青雲客、常慕磊落男兒跡、寸舌敷陳縱橫畧、萬言論盡治安策、才華筆力兩相兼、不疑芳名照竹帛、君不見六國當年貧蘇秦、相印收來英聲振、又不見楊州往日狂杜牧、詞賦流傳輝千春、古人已逝雖難追、磊落今日豈無人、方今明良均在、上驢虞治化四海仰、何況五洲迫秦鹿、中原驅逐迭爭長、男兒幸逢盛運秋、須當努力報皇州、盤根好足試利器、丈夫何暇事優游、虎頭食肉非君誰、應期千里得封侯、嗚呼吾生命已薄、京城三載涉落魄、一病歸山已歷年、回顧浮世歎索漠、猶有一片葵心在、豪懷坐跨楊州鶴、期君才筆吐

芳英、一喝須是破俗情、期君英氣轉乾坤、一鞭須是掣海鯨、若使寸心長不變、皇天由來眼分明、吾亦從今起自新、思勵精償他年志、安得驚馬攀驥尾、千里與馳風雲地、聊寫胸臆代木挑、知君酬報有瓊瑤、

中島雄曰、此編係安藤君去年養病於鄉國之日所見寄者、雖推獎過甚吾不敢當、至今日見此詩、頻不堪、知己忽諸、良友寂莫之歎、

○寬厚ヲ以テ横逆ヲ遇セシ人ノ話 中島雄譯

昔シ希臘ノ雅典ニ、亞力斯底ト云フ人アリ、智畧沈毅ニシテ、學問博洽ナリ、其尤モ重ク、可キハ、清廉、公義、正ヲ守リテ、アラザルニ在リ、故ニ人咸之ニ服シ、之ヲ稱シテ、ゼ、ヂヤスト〔正人〕ト爲ス、然レモ、是ノ時ニ當リ希臘ノ治法ハ、民政ヲ尙ブノ

故ニ、聲威、素ト著ハル者ノアルアレバ、深ク政ヲ擅ニシ、國ヲ亂スナラント恐レテ、往々殺害ニ遇ヒ、或ハ境外ニ放逐セラル、亞力斯底モ、ソノ品行、學問、既ニ當世ニ推重セラレ、譽望、日ニ隆^{ダカキ}ニ由テ、國人ニ嫉マル、國人ノ言ニ曰ク、亞力斯底ハ、國權ヲ收攬スルニ意ナシト雖モ、而シテ之ニ歸スル者、日ニ衆多ナレバ、後來、國祚ヲ傾覆スル者ハ、必ラズ斯人ナラン、早ク之ガ所ヲ爲スニ如カザルナリト、是ニ於テ、民會ヲ聚集シ、亞力斯底ノ名ヲ蛤蚌ニ書シテ、之ヲ放逐セント議ス、希臘ノ國中ニ於テ甚ク威權ノ歸スル者アリト思ハル時ニハ、國會ヲ開キ、議員ヲシテ之ト疑フ人ノ名ヲ蛤蚌ニ書セシム之ヲ蛤蚌^ノ亞力斯底モ偶亦ソノ會中ニ在リシガ、爾時田舍人ニシテ、素ヨリ亞力斯底ノ顔面ヲ識ラザル者アリ、蛤蚌ヲ持テ亞力斯底ニ謂テ曰ク、余未ダ字ヲ書スルヲ習ハズ、君ヲ煩

シテ、一名ヲ代書セントス、亞力斯底之ニ誰氏ナルヤト問ヒシカハ、其人^之ニ對テ曰ク、亞力斯底ナリト亞力斯底愕キ問テ曰ク、彼ハ何ノ罪アルヤト、其人曰ク、畢竟、彼ハ有罪ノ人ニ非ズ、但彼平生餘リ善行ヲ爲シ過ルニ由テ、人皆コレヲ正人正人ト喧シク言ヒハヤシ、吾輩、既ニ之ヲ聽聞スルニ厭厭セリ、是ニ由テ、之ヲ放逐セント欲スルノミト、亞力斯底コレヲ聞キ、慨然トシテ、書シ訖リ、之ヲ還ス、而シテ、絶テ自己ノ姓名ヲ以テ、之ニ告ゲザリシガ、翌日ニ至リ、果シテ、放逐ニ遭ヒタリ、亞力斯底乃チ天ニ向ヒ、跪テ祝シテ曰ク、願クハ皇天佑チ本國ニ垂セ玉ヒ、本國ヲシテ、長ク太平ヲ享ケ、援チ我ニ求ムルニ用ナカラシメヨト、遂ニ去テ、海島ニ謫行セリト云フ、而シテ近世迪通羅ノ行狀、マダ亞力斯底ニ似タルヲアリ、迪々

羅ハ法蘭西ノ人ナリ、夙ニ文學ヲ擅ニシ、遠近、著作ヲ以テ、就
テ正ス者多シ、一日、少年アリ、來リテ、其文稿一冊ヲ呈ス、迪迪
羅時ニ偶マ冗務アリシカバ、之ヲ案頭ニ置キ、他日ヲ以テ、會
晤スルヲ期ス、少年ノ去ル後ニ迨ビ、暇ニ乘ジテ、之ヲ披閱セ
バ、則チ皆ソノ瑕疵ヲ評スルノ語ナリ、迪々羅殊ニ怒ラズ、少
年ノ至ルヲ俟テ、之ヲ坐ニ延キ、從容トシテ、謂テ曰ク、向ニ未
ダ罪ヲ開カズ、何ヲ以テ、斯クバカリニ、謗ラル、ヤト、少年曰
ク、實ハ、貧因ナルノ故ニ、頽顔シテ、之ヲ爲スモノハ、閣下ノ必
ラズ將ニ資財ヲ投ジテ、コノ稿ヲ買ヒ、之ヲ毀タルレバ、以テ
數十金ヲ得ル可シト圖望セリト、迪々羅默然トシテ、深思セ
シガ、頃クシテ、曰ク、君ノ爲ニ計ルニ、更ニ此ヨリ善キ者アリ、
プリン名某氏ハ、吾ト畢生ノ仇ナリ、君盍ア更ニ一序ヲ製

シ、篇首ニ冠シ、盛ニソノ功德ヲ稱セザル、彼必ラズ大ニ喜コ
ビ、厚贈ヲ爲ス可シト、少年曰ク、然リト雖ヒ、拙筆、ソノ意ヲ達
スル能ハザルヲ奈何セント、迪々羅曰ク、然ラバ、之ヲ代書セ
ント云ヒ、遂ニ序ヲ製シテ、之ニ付シタルハ、少年ハ、慚謝シテ、
去リシト云フ、君子曰ク、亞力斯底己ノ放逐セラレ、ト聞キ、
怨ミズシテ、以テ其名ヲ書セシモ、已ニ得ルニ難キトス、
而シテ、迪々羅ノ肯テ己ヲ毀ル者ノ爲ニ、序ヲ製シテ、以テ之
ヲ資クルニ至テハ、則チ更ニ難シトス、是ノ如キ者ハ、道ヲ知
ルニ近シト謂フベシ、

編輯兼出版人 木平 讓

官准明治九年七月 毎月二回發兌

東京小石川江戸川町十七番地

本局同人社

東京小日向第六天町同人社外塾	石本長造	東京神田美土代町四丁目	立花屋作太郎
達兼		同虎ノ門外琴平町二番地	靜霞堂
東京兩國藥研堀町三十八番地		同春木町三丁目	中屋民次郎
別方		同牛込肴町	深野彌兵衛
東京兩國藥研堀町三十八番地		橫濱辨天通四丁目	中屋銀次郎
別所	報知社	同所	池田幸吉
同本町三丁目	瑞穂屋卯三郎	越後長岡	大橋佐平
同室町三丁目	中外堂	同所	山野長兵衛
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地	紀伊國屋源兵衛	越後長岡	越後國龜田町二十七番地
珊瑚閣	富士屋金十郎	同所	佐々木儀平
大坂心齋橋通道修町	報知社支局	同所	東京芝新櫻田町十一番地
大坂本町四丁目	河內屋真七	同所	新井源吾
甲府八ヶ岳町壹丁目	內藤傳右衛門	同所	
武州熊ヶ谷本町	博文堂	同所	
阿州德島中通貳丁目	坂井萬吉	同所	

明治十一年第九月十九日

唐宋八大家讀本序	中村敬宇
西洋品行論之しがた	三田葆光
遊含滿淵記	土居光華
遊大日堂記	同
無主權論	吾妻兵治
書民撰議院集說後	中島雄

同人社文學雜誌

第貳拾八號

1. Once a use & ever a custom.
2. Prayer prevails against temptation.
3. Labour brings pleasure; idleness, pain.
4. Judge not of men or things at first sight.
5. Ill-will never spoke well.
6. A little neglect may breed great mischief.

- | | | | | | |
|--|--|---------------------|--|-------------|------------|
| 6. | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| 小怠 <small>ハカセ</small> 釀 <small>ニ</small> 大謬 <small>ヲ</small> | 藏 <small>ニ</small> 惡 <small>チ</small> 於心者、不能發 <small>ニ</small> 善言 <small>ヲ</small> | 可否 <small>ナ</small> | 人物器具、不可 <small>ニ</small> 一見即判 <small>ニ</small> | 勞工生快樂、懶惰生苦痛 | 祈禱者、克勝誘惡 |
| | | | | | 一回用之、終身成慣習 |

文學雜誌第貳拾八號

○唐宋八大家文讀本序

中村敬宇

事業文章、一以貫之、唐宋八大家皆然、按韓、爲監察御史時、上疏極論宮市、貶陽山令、有愛在民、憲宗將平蔡、御史中丞裴度、具言賊可滅、與宰相議不合、韓爲中書舍人、亦言淮西必敗、及度以宰相節度彰義軍、宣慰淮西、奏韓行軍司馬、韓乘遽先入汴、說韓弘、使協力、淮西平、憲宗迎佛骨入禁中、韓上表極諫、憲宗大怒、貶潮州刺史、移袁州、有政績、鎮州亂、殺田弘正而立王廷湊、詔韓行宣撫、衆皆危之、韓遂疾驅入、以言語屈廷湊、使息叛謀、其焯々大節、有如此者、按柳、貞元時、爲監察御史裏行、善王叔文、擢禮部員外郎、欲大進用、俄而叔文敗、貶邵州刺史、元和時、徙柳州、設方計、贖奴婢、其爲政仁矣、柳少時、嗜進、謂功業可就、既坐廢、遂不振、蓋命

之窮也、非其才之罪也、按歐、爲館閣校勘、及范仲淹、貶知饒州、諫官高若訥、獨不言、歐遺書責之、坐謫夷陵令、仁宗用天下名士、召歐知諫院、會保州兵叛、歐出爲河北都轉運使、後復爲諫議大夫、未幾、參知政事、歐立朝、讜直不回、身任衆怨、屢困蹙而不改其操、學者未見、與語未嘗及文章、惟談吏事、謂文章止于潤身、政事可以及物、此足見其志之所存矣、按三蘇、老泉、不得大用、僅止于修下禮書、撰太常因革禮一百卷、然志存經綸、念切民物、非徒弄筆翰者比也、子瞻、自爲舉子、至出入侍從、必以愛君爲本、挺々大節、每爲小人忌惡、知杭州時、饑疫並作、治之有法、浚二河、完六井、築湖堤、民多便之、家有畫像、飲食必祝、作生祠云、子由、始宮屬三司條例、爭青苗法、使契丹還、後爲御史中丞、會調停之說起、上疏斥其非、遂已爲門下侍郎、時西邊騷然、極論帥臣生事、用兵非直、後蔡

京當國、致仕不復與人相見、以至於歿、生平愛君、知無不言、酷肖其兄、按曾、通判越州、轉知齊州、徙襄及洪州、知福州、後徙明毫滄三州、皆有政績、饑歲諭富人出糶、貸民種糧、隨秋賦納、疾姦、急盜、使民出入保伍、相譏捕盜、又出奇計、使盜爭自首、爲洪州時、王師萬人、征安南、先期區畫供頓、迄過市里不知、官至中書舍人而卒、其政事之才、豈多讓文章哉、按王、仕至宰輔、行新法、以是毒天下、然此非獨王之罪、當時激成之者、亦不得不任其咎、要之王亦一代人豪、非區々文墨之士也、由是觀之、文章事業、曷嘗有二致哉、若夫八家之外、漢則晁錯賈誼、唐則魏徵陸贄、宋則韓范司馬、明則劉基王伯安、其最表々者也、後之學文者、苟於是致思、則庶乎其不誤于所嚮矣、唐宋八大家文讀本刻成、因序以是言、

○西洋品行論之しかり

三田葆光

過ぎにし比、中村大人のおのれより入りたまひつゝ、お
やよそ、學問のこと、人の目より入るもの、十の八九にして、
耳より、いるもの、十の二三にすぎずと、その目より入ると
いふ、おにそ、書を讀て、心よ、まゑるし、まづ、おもひうるをいふ、
耳より、おの、師友の口授講説をきゝて、さとり、まゑるといふ、
り、此、さとし、言ひし、もいど、ことすく、まゑるもの、から、う、ま、
味ひ、ありて、深き、こと、お、ま、をつく、せり、といふべし、人の師、
らん、もの、よく、教へて、う、む、こと、ま、く、弟子も、また、よく、つと、
て、學ひ、ぬ、ども、口、つ、お、ら、授ること、ま、の、あ、より、問ひ、あ、き、ら、
る、こと、お、か、ま、み、ま、お、た、り、ある、ま、さ、あり、その、お、され、と、大人、
も、ら、心、を、著、述、ま、お、た、ね、世、に、益、ある、書、と、も、く、ま、く、梓、ま、
り、と、め、世、よ、ひ、ろ、く、もの、せ、ら、る、い、多、く、の、人、を、し、て、か、の、目

より、入ら、ま、め、んと、の、す、さ、ひ、ま、ま、有、る、た、と、へ、り、千、部、の
書、世、に、行、た、れ、む、に、お、ま、と、り、つ、た、へ、て、よ、み、ま、む、人、の、あ、
す、三、四、千、人、の、あ、り、ぬ、べ、く、万、部、あ、ら、ま、し、う、り、四、五、万、人、に、
あ、ま、り、ま、ま、し、ま、う、の、み、あ、ら、す、其、書、と、も、り、百、年、の、後、ま、
世、に、傳、へ、り、ぬ、べ、た、も、の、ま、し、あ、れ、り、年、を、お、ひ、て、よ、み、ま、む、人
の、數、り、い、く、千、万、と、も、ま、ら、れ、ぬ、あ、る、べ、し、大人、さ、た、に、西、國、立
志、編、を、あ、ら、り、され、し、に、その、す、り、卷、を、書、肆、ら、が、う、け、つ、ぎ、て、
ひ、さ、た、し、數、を、と、く、一、萬、部、に、お、よ、び、櫻、木、も、す、り、そ、ま、ま、
た、れ、り、さら、に、活、字、ま、も、の、せ、し、を、あ、か、ま、ひ、も、と、む、る、人、今
ま、い、たり、て、猶、た、へ、す、と、ま、む、ま、た、つ、た、く、著、され、し、自由、の
理、共、和、政、治、ま、ど、世、に、行、り、る、書、と、も、數、多、あ、れ、ば、そ、れ、ら、を
も、よ、む、ら、ん、人、の、數、と、り、す、へ、て、り、い、く、万、人、に、か、お、よ、び、つ、ら

む、あこれ大人、一臂のちうらもて、千万人の學問をすまやか
に、目より入らしめたまひしこと、よその千万人ごまのあた
り、おしへ、口づから、諭されんふと、さばうりいみした大人
といふとも、いゝてか、つとめあへむ、かくてゐる、大人の著
述よ、いそしまるゝいさを、世にしるく、こた後進のため、
志のあつきほども、さらよ、おもひえられて、いよゝ、有ぶたく
とふとく、いありたれ、此ころまた、西洋品行論の譯述あるに
よりて、いさゝか、おのう耳底に残れる大人の一言を、とりい
て、此卷のとしに、えるす、

○遊含滿淵記

土居光華

觀背瀑南一里、有含滿淵者、晃山八景之一、而盛夏驟雨之觀、尤
宜云、十一月初五、晨起開戶、雨雪交下、余謂冬夏雖異、雨則一也、

何不遊含滿記之、乃鼓勇出、已抵含滿、雨亦晴、入門、々々右乃溪、石
皆奇異、頭各戴雪、臥者如虎、起者如豹、如床、如盤、而水注射於其
間、轟然雷動、意氣為爽、沿溪而上、百餘武、有護摩壇遺趾、小亭翼
然臨淵、々々幅員甚隘、上流衝激、水石相擊、有巖掩之、長一丈許、方
凡五六尺、頂安不動尊石像、面刻一大梵字、々々體髣髴、可辨音、即
含滿、是其所以得名、相傳、僧空海、隔淵投筆自現、不知然否、從是
西、石愈出、水愈急、而觀亦愈奇、然以雨雪新晴、寒氣殊甚、手足凍
欲裂、不可窮而歸、誠可惜也、因志以待盛夏再遊云、

待盛夏再遊、人之處斯世、不可無此懷抱、遊云乎哉、敬字

○遊大日堂記

同

含滿之歸路、日未斜、乃進西行一里、至大日堂、有階、老杉夾之、拾
而下、有二堂焉、隔池相對、上者曰地藏堂、下者乃大日堂也、池廣

可_レ一畝、水極澄徹、堂倒映_レ之、恍如入_二仙境_一也、庭之三面、樹圍_レ之、只西南之隅缺焉、就_レ缺而立、乃西南之諸峰林巒、可_レ隔_レ川仰觀、川乃含滿之上流也、時夕陽已啣_レ山、煙霞流動、峯巒隱_レ見、出沒於其間、愈變而愈奇、使_二人愛惜忘歸_一、余嘗聞、山水有_二可愛可弄者_一、又有_二可愛而不可弄者_一、而如_二大日堂_一、則佳麗可_レ入、所謂可愛可弄者也、或曰、於_レ人亦然、然寧使_二人可_レ愛、不宜見_レ弄_二於_レ人也_一、

不_レ宜見_レ友_二於他人_一、與_二此結末_一、同_二其妙趣_一、敬字

○無主權論

吾妻兵治

凡_レ少_レ多_レ少_レノツヴェンナ_一〔無上ノ大主權ト譯ス〕ナ、人間ニ附スルモノハ、完全ノ政體ニアラザルナリ、何ニトナレバ、其樹立スル所以ノモノ、既ニ真理ニ悖戾スルガ故ナリ、蓋シ、大主

權ハ、宇宙間、獨リ完全無缺全知全能者ノ特有スル所ニシテ、君民貴賤ヲ問ハズ、到底、人間ノ手ニ屬スベキ者ニアラズ、今夫_レ獨裁ノ政ヲ惡ミテ、立憲ノ制ヲ善ニスルハ、何ツヤ、其主權ノ一人ニ專ラナルト、衆庶ニ分ル、ノ故ヲ以テスルニアラズヤ、夫_レ專權ノ一人、若クハ、衆庶ニ歸スルト、君民共同ニ歸スルト、歸スル所ニ、多寡アリト雖モ、其均シク人間ニ歸スルニ至テハ、則チ二致ナシ、一人ノ專權ハ、數人ノ專權ニ若カザルヲ知ラバ、數人ノ專權ハ、衆庶ノ專權ニ若カザル所以ヲ知ルベシ、衆庶ノ專權ハ、數人ノ專權ニ愈ルヲ知ラバ、衆庶ノ專權ハ、寧ロ無專權ニ若カザル所以ヲ悟ルベキナリ、嘗テ疑フ、英米ノ政制、其實ハ、無主權ニ歸シテ、而シテ、學士論者ノ言フ所、往々有主權ニアルヲ免レズ、今且ラク米國ノ政制ニ就

テ、之ヲ徵セシ、大統領ハ、政府ノ首長ナレトモ、其職ニ就クヤ、國人民ノ公撰ニ出デ、在職ハ、則チ僅カニ四ケ年ヲ限り、且ツ終始憲法ニ率由セザルベカラザル義務ヲ負擔シ、議員ハ、立法ヲ司サドルト雖モ、其草案ハ、實ニ内閣ノ手ニ起リ、議員ハ徒ニ其議定者タルニ過ギザレバ、俱ニ無上ノ主權ヲ有スル者トイフベカラズ、大統領ノ意見モ、議事院ノ可認ヲ得ザレバ、舉行スルヲ得ス、議事院ノ議決モ、大統領ノ允准ヲ得ザレバ、憲法トナルヲ得ザル等、彼此相制シ、自他互ニ屈スルノ制度ナルヲ以テ、畢竟米國ノ政制ニ、主權ノ痕迹ヲ存セザルコトナリ、然ルニ、西儒極座ノ言ニ曰ク、世ノソウエレンチーヲ論スル者兩説アリ、其一説ハ、専ラ大主權、即チアブソリュートパウワー〔專權〕ヲ尊信シテ、他ノ一説ハ、斷然之ヲ擯斥ス、此レ俱ニ一方

ニ偏着シタル空理論タルヲ免レズ、若シ其實際ヲ問ハバ、古今各國ノ政體、皆多少此兩説ノ混和ヲ以テ成ルモノコ外ナラズ、就中專權ヲ斟酌折衷シテ、善ク其適用ヲ得タル者ハ、代議ノ政制ニ若クハナシ其故ハ、該制ニ於テ、大主權即チ專制ノ權ハ、凡ソ國政ヲ執ル者ノ手ニ專歸セズシテ、國總體ノ上ニ泛歸スレバナリト、余以爲ラク、然ラズ、國ノ人々、各自ニ自由ノ權アリテ、然後ニ之ヲ自由ノ國トイフ、國ノ人、一人モ、專權ヲ有スル者ナキハ、乃チ之ヲ無主權ノ國トイフベキノミ、國トハ、人衆相ヒ聚合スルノ稱ナリ、主權、人ニナクシテ、國ニ在リトスルハ、抑モ、牽強不通ノ論トイハザルベカラズ、又曰ク、人民ハ、撰舉人ヲ撰定スルノ專權アリ、撰舉人ハ、議員ヲ撰舉スルノ專權アリ、議員ハ、國法ヲ議定スルノ專權アリ、

其外、主長(君主若クハ大統領)ヲ始メトシ、各省各務ノ擔任者ニ至ルマテ、各其職掌ニ就テ、應分ノ專權ヲ有セザルハナシ、然リ而シテ、在職期限、憲法及ビ其外ノ關係アリテ、之レガ制限ヲナスニヨリ、所謂ル、專權ナル者ハ、制限ノ内ニ行ハレテ、制限ノ外ニ出ル能ハザルナリ云々、余ハ乃チ謂フ、凡ソ制限アル以上ハ、專權ノ名目ヲ附スベカラズ、況ヤ真正ノ代議制ニ於テ、曾テ專權ヲ存スル道理ナキニ於テチヤ、或人云ク、所謂ル、專權ハ、執政者ニ在ラズシテ、閩國總體ノ上ニ在リトハ、專權ヲ全國人民ノ共有物トスルノ意ニシテ、制限アル專權トハ、獨裁政ノ專權ニ對シテイフナリ、且ツ米國ノ如キハ、假リニ有司ノ手ニ主權ヲシトスルモ、夫ノ官民共ニ、遵奉セザルベカラザル憲法ハ、即チ儼然タル大主權ナルニアラズヤ、

余曰ク、既ニ專權ヲ以テ、閩國ノ共有物トスル以上ハ、復タ何ゾ、各省各務ノ擔任者各其專權ヲ有セザルハナシトイフヲ得ンヤ、此レ自家撞著ノ論ナリ、又憲法ハ、稍主權ノ如ク見ヘレトモ、元來、專權ヲ有セザル有司ノ手ニ制定セラル、而已ナラズ、時々人意ニ從テ、變更スル者ナルガ故ニ、畢竟、憲法モ、亦タ眞ノ主權タルヲ得ザルナリ、或人又云ク、然リト雖モ、職任アリテ、其專權アリトイヘハ、言ニ順ニシテ、事ニ便ナリ、必ズ言フ所ノ如キハ、所謂ル膠柱鼓瑟、畢ニ事ニ補ナシト、余曰ク、專權ノ二字、或ハ一時ノ言事ニ便ナル者アリトスルモ、其世道人心ニ害アル淺少ナラズ、余ガ見ル所ヲ以テセバ、專權ノ字ニ代フルニ、責任ノ字ヲ以テスルノ更ニ大ニ便ニシテ、且ツ眞ヲ得ルニ若カズ、之ヲ詳言スレバ、官守アル者ハ、毫モ其

專權アルニアラズ、即チ職分アルニヨリテ、其責任チ有スル
ナリ、擔任ノ事務アルニヨリテ、之チ全フスベキ義務チ荷フ
ナリ、特行專用ノ權チ保有スルト太ダ相ヒ逕庭スルヲナリ、
要スルニ、代議政ノ蘊奧本義ハ、「政^{メニス}以爲^{メニス}民」トノ公理ニ基キ、
「共同保護」ノ公義チ旨トシ、齊民ハ、力チ勞シテ、其費用チ給シ、
有司ハ、心チ勞シテ、其責任チ盡シ、人間社會ノ人間社會タル
所以ノ義務チ全フシテ、以テ上帝降民ノ意ニ稱^{カチ}ハントスル
ニアルノミ、故ニ、夫ノ權姦ノ爪牙タル專權主權ノ如キハ、固
ヨリ、代議政ノ目的ト並立スル能ハザルヲ明カナリ、蓋シ世
ノ開進スルニ隨ヒ、主權、漸ク其勢力チ損シ、喪亂、亦隨テ減少
スルヲナリ、何ニトナレバ、未開ノ世ニ在テハ、腕力ニ富ム者、
以テ主權チ收ムベク、主權チ收ムル者ハ、以テ無上ノ欲チ逞

ウスルチ得ベケレトモ、開進ノ時ニ在テハ、則チ唯タ才德ニ富
ム者ニ限り、以テ主權チ保ツベク、主權ナルモノハ、嚴ニ憲法
ノ制限スル所トナリテ、之チ保有スル者、復タ昔日ノ橫肆チ
施シ得ザルチ以テ、主權ニ、柔順スル者、大ニ減少シタルガ故
ナリ、嗚呼、主權ノ途、絶タズンバ、大亂息マズ、何トナレバ、宇宙
間、當サニ、一アルベクシテ、二アルベカラザルノ主權チ人類
ノ手ニ僭竊スル間ハ、亂臣賊子、大姦巨盜、凡ソ以テ大利チ私
シ、勢威チ逞ウセント欲スル者、到底、其非望心チ絶ツベキ理
ナケレバナリ、詩ニ云フ、「唯其有^レ之、是以似^レ之、」ト今坤輿ノ中、
喪亂虛日ナクシテ、生靈塗炭ニ苦ム者、蓋シ由^{ヨシ}アルナリ、世亂
チ厭ヒ、救濟チ望ム、無主權論チ作ル、

○書民撰議院集說後

中島 雄

天下本無事、庸人擾之耳、不獨天下之事、天下之議論、亦然、天下固初無可議可論者、而夫庸人者、每有一舉設、輒囂々嘈々、遂使天下擾然於議論、吾今於諸氏之論民撰議院、亦云、夫民撰議院、防君主之專制者、制有司之專橫者、開民情之沮格者、實治國平天下之大根本也、故人苟一知有民撰議院之說、則宜願創立之、之不暇、尙何有乎囂々嘈々之議論哉、且夫民撰議院之說、古固有之矣、孟子曰、左右皆曰不可、勿聽、諸大夫皆曰不可、勿聽、國人皆曰不可、然後察之、見不可焉、然後去之、由此觀之、雖孟子、亦既有民撰議院之說也、而當今之時、人猶謂之尙早、全早、然則及何時、始為可乎、其持重竣時、豈有終極哉、嗚呼、自古天下之美舉、為庸人之議論所擾、中道沮止者、千百何限、豈獨今日之民撰議院而已乎、吾讀此編、有深慨矣、

栗本鋤雲翁評、戰國爭亂之世、孟軻氏既能言之、而文化開明之今日、尙且不行焉、天下最不可解之極點也、此篇抉出無遺、何等痛快、

編輯兼出版人 木平讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

東京小石川江戶川町十七番地
本局同人社

東京小日向第六天町同人社外塾	石本長造	東京神田美土代町四丁目	立花屋作太郎
東京兩國藥研堀町三十八番地	同兼	同虎ノ門外琴平町二番地	靜霞堂
東京兩國藥研堀町三十八番地	同兼	同春木町三丁目	中屋民次郎
同本町三丁目	瑞穂屋卯三郎	同牛込肴町	深野彌兵衛
同室町三丁目	中外堂	同濱辨天通四丁目	中屋銀次郎
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地	紀伊國屋源兵衛	同所	池田幸吉
同珊瑚園	富士屋金十郎	越後長岡	大橋佐平
大坂心齋橋通道修町	報知社支局	越後長岡	山野長兵衛
大坂本町四丁目	河內屋真七	越後長岡	文心堂
甲府八ヶ町壹丁目	內藤傳右衛門	越後長岡	佐々木儀平
武州熊ヶ谷本町	博文堂	越後長岡	新井源吾
阿州德島中通町貳丁目	坂井萬吉	東京芝新櫻田町十一番地	

明治十一年第十十一月十六日

日本列女傳叙

學ヲ論ズ

愛敬歌和韻一首

改教論未レ可ニ遠行ニ説

記ニ仁熊事

中村敬字

神津專三郎

吉田泉達

東條世三

信夫恕軒

同人社文學雜誌

第貳拾九號



1. Sweet often comes from sour.
2. Learn justice.
3. Fortune favours the bold.
4. Secrets are never long-lived.
5. A good conscience is the best law.
6. Humility is the high road to honour.

1. 甘者屢由酸而來、樂者多、
由苦而得、
2. 宜學公平、
3. 福運者、好從勇剛之人、
4. 秘密者、不能長生、
5. 良心之全者、律法之善者也、
6. 謙讓者、光榮之大路也、

文學雜誌第貳拾九號

○日本列女傳叙

中村敬字

余嘗謂婦人平時為良妻、為善母者、不幸遭禍、則為烈婦、為節母、譬如薔薇花盛開、暖日蕩漾、艷光映軒、春風披拂、濃香滿庭、及至揉碎壓榨而為香水、則芬烈馥馥、薰衣裳、透簾帷、經久而不散、蓋境有順逆、命有吉凶、其為良妻善母、與為烈婦節母、非有二也、魏徵謂太宗曰、願陛下使臣為良臣、勿使為忠臣、亦知忠良一也、遭遇使之異也、由是觀之、國之有忠臣、國之不幸也、家之有烈婦節母、家之不幸也、雖然、古人有言曰、安樂、非聖人難居、又曰、生於憂患、死於安樂、夫順境、如易居、而時至于蕩逸、心思、逆境、如難處、而或得以砥礪名節、然則、良妻善母、未必易為、而烈婦節母、未必難為、而幸不幸之際、亦有難定者、正直曰、古來婦女所遇、蓋不出于

順逆二境焉、故幸而遇無事之日、則貞靜持己、勤儉持家、爲夫內助、爲子儀範、不幸而當艱難之際、則堅剛心志、扶植品行、善耐辛苦、久忍艱難、此有識者之所望于世之婦女也、夫人居斯世、境遇百變、吉凶如晝夜、禍福相循環、安樂勿溺、恐其化而爲殃、辛苦宜忍、庶可轉而爲祥、唯有信天命、以盡職分、從良心、以應境遇之變而已、不爲良妻、則爲烈婦、不爲善母、則爲節母、有一手此、則芳香芬烈之流、播邦國者、其必遠矣、小島玄壽君、著日本列女傳、余欲此種書之行于世、故弁言之請、不敢辭也、

○學ヲ論ズ 培根文集ヨリ抄譯ス 神津專三郎

學ナル者ハ、快樂トナル者アリ、采飾トナル者アリ、能幹トナル者アリ、快樂トナル者ハ、其用、專バラ閑坐隱逸ニ在リ、采飾トナル者ハ、談論ニ在リ、能幹トナル者ハ、事務ハ、判決、處置ニ

在リ、蓋シ事ニ老練ナル者ハ、能ク之ヲ料理シ、且逐一、事理ヲ究極スルヲ得ベシ、然リト雖モ、普通ノ討論、評議、事幹ノ謀畧、理平ニ至テハ、獨リ之ニ習熟スル者之ヲ能セリ、夫光陰ヲ讀書ニ消スルノ其分ニ過ギルハ、之ヲ懶惰トイヒ、學業ヲ采飾ニ用ヰルノ其分ニ過ギルハ、之ヲ虛飾トイヒ、古法ニ拘泥シテ、之ヲ判決スルハ、之ヲ學者ノ僻トイフ、學ナル者ハ、天賦ヲ修成シ、而シテ、經驗ハ、修成スル所ナリ、蓋シ天賦ノ才器ハ、恰カモ天生ノ樹木ノ如シ、必ズヤ學以テ之ヲ疏通スルヲ要セリ、學ナル者ハ、其教訓スルトコロ、固ヨリ、普通ニシ、且多キニ過グ、故ニ、マタ經驗ヲ以テ、基趾トセザルヲ得ザルナリ、狡者ハ、學ヲ輕ンシ、愚者ハ、之ヲ怪シ、智者ハ、之ヲ用ユ、學ナル者ハ、其一己ノ用ヲ教ユルニ非ズ、其教ユル所ハ、其域ヲ出デ、其等

チ踰へ、則チ經驗ニ依テ得ル所以ノ神智ナリ、書ヲ讀ムヤ、辯
難駁論ノ爲ニスル勿レ、談話講說ノ爲ニスル勿レ、宜シク之
ヲ斟酌商量スベシ、書或ハ嘗テ而シテ可ナル者アリ、或ハ吞テ
而シテ可ナル者アリ、或ハ咬嚼消化シテ而シテ可ナル者アリ、書
亦其諸部ヲ畧讀シテ而シテ事ノ足ル者アリ、謹讀ヲ要セザル
者アリ、勤勉注意シテ而シテ全讀スベキ者アリ、マダ、委員ヲ用
テ代讀シテ而シテ可ナル者アリ、他人ノ拔萃ニ就キ讀テ而シ
可ナル者アリ、書ノ蒸溜セル者ハ、ナホ氷ノ蒸溜セル者ノ如
ク淡泊甚シ、讀書ハ、ヨク人ヲノ博識ナラシメ、商議ハ、ヨク人
ヲノ敏辯ナラシメ、鈔錄ハ、ヨク人ヲノ詳細ナラシム、是故ニ、
人モシ鈔錄スル所少ナレバ、則チ強記ナラザルチ得ズ、商議
少ナレバ、則チ活才ナラザルチ得ズ、讀書少ナレバ、則チ狡猾

ニシテ而シテ其智ヲ文ラザルチ得ザルナリ、史ハ、人ヲノ賢智ナ
ラシメ、詩ハ、人ヲノ談諧ナラシメ、數ハ、人ヲノ精微ナラシメ、
理ハ、人ヲノ深遠ナラシメ、修徳ハ、人ヲノ謹慎ナラシメ、論理
文理ハ、人ヲノ巧論ナラシム、所謂「アピリアント、スチューシア、
エン、モールス」學ナル者ハ品行ヲト、洵トニ然リ、ソレ活才ノ
窒礙スル所ナシト雖ヒ、當然ノ學ノ成就セザル所ナシ、投球
ハ、砂淋腎病ノ爲ニ可ナリ、田獵ハ、胸肺ノ爲ニ可ナリ、徐歩ハ、
脾胃ノ爲ニ可ナリ、騎馬ハ、頭腦ノ爲ニ可ナルノ如キ、人身ノ
疾病、各適宜ノ治療ヲ要スル所以ナリ、是ヲ以テ、才智浮虛ナ
レバ、則チ其人ヲノ數理ヲ學バシムベキナリ、蓋シ數理ヲ論
ズルノ際微ニ精神ヲ散ゼバ、則チ再起セザルチ得ズ、才智事
理ヲ識別スル能ハザレバ、則チ其人ヲノ中古ノ神理學者ヲ

學ハシムベシ、彼ノ理學家ハ、「サイミナイ、セクトルス」割裂ス
ノ者ナリ、人ノ事ヲ處スルニ適セズ、且一ヲ以テ、二ヲ説明ス
ル能ハザル者ハ、之ヲノ、狀師ノ論例ヲ學ハシムベシ、苟モ、此
ノ如クセバ、心意ノ短ナル所、ミナ其時修ヲ得ベキナリ、

○讀下敬字先生與恕軒先生唱和愛敬歌、依其韻、賦以示兒、

吉田泉達

愛敬又愛敬、不_レ物無_レ愛敬、終身持_レ守之、將_レ不見滅性、始_レ親及_レ犬馬、
人生德_レ斯盛、若_レ先_レ施_レ他人、悖德非_レ孝行、前輩云_レ務_レ本、本是須_レ堅硬、
唯非_レ有_レ大過、曲從_レ至親令、此意未_レ嘗了、少年勿_レ早娉、人子存_レ此心、
氣和忘_レ強橫、齒敗前行廢、舌存晚節勁、本立及_レ家國、安_レ分萬事定、
十歲我喪_レ父、識_レ面不_レ如_レ鏡、直因無_レ受_レ教、通識何問_レ聖、一生鄙野民、
無_レ文只質勝、垂老何所_レ成、無_レ圖書半乘、往時慈母在、旦夕親_レ帶柄、

示_レ我以_レ知_レ耻、不_レ使_レ至_レ鼻_レ貌、閭巷如_レ歌曲、淫聲尤禁_レ鄭、栖遲筆海南、
僻境古百姓、曾不_レ聞_レ有_レ學、何是知_レ温清、唯_レ纔因_レ慈訓、晚年獨自_レ傲、
上都近貴_レ學、聞_レ有_レ安車、聘_レ處處學宮上、赤白徽號映、愛敬本已立、
政道深遠亘、孝弟有_レ不時、我言無_レ可_レ證、縱_レ我失_レ愛敬、請_レ爾致_レ愛敬、
恨此文治日、已無_レ具_レ家慶、但喜_レ愛敬意、四海布_レ寬政、在家又在_レ國、
此意上下聽、死生何_レ可_レ論、富貴天所_レ命、

高口子曰、全局不_レ失_レ愛敬二字之義、老手老手、

敬字曰、鄙作賜_レ高和、不堪_レ感謝、刻以示_レ同好、

○改教論未_レ可_レ遽_レ行_レノ說

東條世三

吾輩嘗_レテ教法論ヲ草シ、教法ハ、社會ノ一大要具ナルヲ、諸宗
教中、耶蘇教ノ最モ選_レフベキヲ、然_レシテ該教ノナホ大ニ改革
セザルベカラザルヲトテ論ゼリ、載セテ、文學雜誌第二拾四

號ニ在リ、然ルニ、今如斯論題ヲ掲ケ來ルキハ、論者或ハ云ハ
ン、果シテ子ガ言ノ如ク、教法ハ、今日我邦ニ緊要ナリ、西教ハ、
ナホ改革ヲ要スト、サレバ、何ゾ斷然路悵ガ後舞ヲ行ハザル、
義ヲ見テ爲サバ、勇ナキナリト、吾輩之ニ對テ曰ン、西教
ノ改革ヲ要スルノ時勢ハ、已ニ到リタレト、之ヲ行フベキノ
時機ハ、ナホ未ダ來ラザルナリ、何ヲ以テ、之ヲ言フ、先ヅ試ニ、
今日、我邦人ノ西教ニ於ケル情態ヲ看ユ、之ヲ崇信欽慕スル
ノ徒、果シテ、幾許カアル、之ヲ蔑視忌嫌スルノ黨、又幾許カア
ル、西教ノ漸ク我邦ニ勢力ヲ得ントスルノ徵候アルハ、已ニ
世人ノ知ルトコロナルモ、尙ホ之ヲ信仰シ、之ヲ嘉納スルモ
ノ、三千五百万人中、万分ノ一ニダモ及バザルハ、固ヨリ、言ヲ
待ザルナリ、今我四民ヲ上中下ノ三等ニ區分シ、其思想意見

ヲ熟察スルニ、文化ノ先導者ヲ以テ自任スル中等以上ノ堂
々タル學者紳士中、多クハ、外面ノ開化ニノミ心醉シ、醉月巖
花ノ歡樂ヲ極メ、醜態汚行、粗暴驕慢、教法道德ハサテ捨キ、應
對進退ノ禮儀ニ至ルマデ、之ヲ迂トシ、遠トスルノ輩ニノ、宗
教論ナドハ、決シテ、御構ヒナキナリ、偶仁義道德ヲ唱フルモ
ノアルモ、孔子教ナリ、佛法ナリ、神道ナリ、ソノ之ヲ崇信スル
者、各先祖傳來ノ舊習ヲ墨守シ、其偏見ヲ以テ、西教ヲ容レザ
ルノミナラズ、甚シキニ至テハ、偏ニ、之レガ缺典ヲ探リ、事ア
レバ則チ其釁隙ニ乘シテ、該教ヲ除滅センコトヲ謀ラントス
ルノ徒ナキニ非ズ、眼ヲ轉シテ、下等社會ヲ視ルニ、偏見陋習、
只管テ、傳來ノ舊教ヲ推尊シ、何ソツ教法ノ變通ヲ知ラシ、且
ツ往昔西教ノ我邦ニ渡來シ當時ニ在テハ、邪教視セラレ、德

川氏ノ時ニ至リ、嚴法酷刑ヲ以テ、痛ク之ヲ禁止セシヨリ以
來、彼等ガ所謂切支丹ノ名稱ヲ聞クモナホ之ヲ避嫌スルニ
至レリ、今日ニ至テ、尙此餘孽ナキニ非ズ、概シテ、之ヲ言ヘバ、
中等以上ハ、該教ヲ蔑視シ、中等以下ハ、之ヲ嫌忌ス、且ツ夫レ
外人ハ、今日ノ耶蘇教ヲ以テ、何トカスル、吾輩ガ視ルトコロ
ニ依レバ、各派、持論ハ異ナリト雖、大率、傳來ノ定規ヲ守リ、
陋習ニ安ンシ、少ク、異ヲ表シ、新ヲ述フル者アレバ、則チ斥
ケテ異端邪說トナスノ風アルガ如シ、如斯ノ時ニ當テ、彼ノ
西教改革論ヲ主張スルモ、我内國人ノ之ニ於ケル、馬耳東風、
對岸ノ火災ヨリモ甚シキノミカ、彼ノ平生之ヲ忌嫌スルノ
徒ニ至テハ、之ニ乘シテ、彼此辨論ヲ逞フシ、後日邦國ノ爲メ、
教法ノ爲メニ、噬臍ノ悔ヲ生ゼシメシモノモ、未ダ知ルベカラズ、

又外國ヨリ來テ、傳道ニ熱心スル法教師等ハ、虚心平氣、宜シ
クソノ論旨ヲ斟酌シ、相與ニ之ガ商議ヲ遂ゲ、ヨク時勢人情
ヲ察シテ、教ヲ播ンナド、ハ、思ノ外、ソノ新說ヲ聞テハ、痛ク
之ヲ辨難攻駁スルニ出ルカ、將タ聖經バイブルヲ手ニシ、十字形ヲ肩
ニシテ、離別グライバイヲ告ルニ至ランカ、到底内外信者ノ間ニ、無用ノ
乖離軋轢ヲ生ゼンノミ、全國ノ教徒、同心戮力、之ヲ勉ムルモ、
其結局、恐ラクハ、斯ノ如ケン、況ンヤ、信者中、多少才學ヲ有シ、
稍、勢力ヲ得ル者スラ、法師ノ教示スルトコロ、唯命コレ從ヒ、
弊風陋習ニ甘ンズル者多キニ於テチヤ、況ンヤ、教師ノ扶助
ヲ受ケ、彼ヲ離レテ、事ヲ爲シ難キ者ナキニ非ザルニ於テチ
ヤ、果シテ、如斯ナレバ、今日ニ在テ、西教改革論ヲ唱フルハ、却
テ日本ニ聖教ノ撲滅ヲ招クニ近シ、凡ソ大人豪傑ノ事ヲ成

スヤ、ヨク時勢ノ如何ヲ視、人心ノ向フ所ヲ察シ、機ニ投ジテ、
 事ヲ舉レバコソ、其功ヲ奏スルナレ、路悞ノ新教ニ於ケルモ、
 亦タ茲ニ出シ、史冊ニ就テ、明知スベキナリ、滔々宗教改
 革論ヲ主張シ、遂ニ之ヲシテ、成就セシメシハ、路悞之レガ首
 唱タルニ係ルト雖モ、是ヨリ先キ、ウヰツクリフ、シラマーノ如
 キ、或ハ、ハイブルヲ翻譯シ、或ハ、コレガ注解ヲ著シ、改革ノ精
 神ハ、ハヤ陰ニ歐洲一般ニ傳播シ、卓眼遠識ノ碩匠鴻儒ハ、一
 ニ茲ニ著目スルノ機ニ投ジテ、全洲ヲ聳動セシヨリ、靡然ト
 シテ、之ニ傾向シタリシナリ、故ニ、今コノ重大ナル事ヲ試ミ
 ノリテ欲セバ、究メテ好ク之ヲ察セザルベカラズ、吾輩、近頃、
 某教會ニ於テ、内外教徒ノ間ニ軋轢ヲ生ジ、分離云々ノ事ヲ
 聞キ、竊ニ之ヲ憂フルナリ、今日ノ情況、已ニ前文ニ陳述スル

ガ如キヲ以テ、西教、ナホ完全ナラザルニモセヨ、現ニ、風俗ノ
 頹敗ヲ救ヒ、人心ノ浮薄ヲ戒メ、奢侈ノ風ヲ矯メ、敦厚ノ俗ニ
 移ラシムルニ至テ、其功德、マタ大ナルモノナレバ、先ヅ外人
 ノ爲ストコロニ任セ、早ク其教化ヲ全國ニ浹カラシムルコ
 ソ、今日ノ得策ト云フベキナレ、或ハ、下等社會ニ至テハ、ソノ
 弊風陋習ニ固着シテ、將來多少ノ障害トナルカハ知ラテモ、
 同時ニ、學ヲ勉メ、智ヲ研キ、漸ク無氣無力ノ汚名ヲ脱スルナ
 ラン、今日歐洲開化ノ花ニ迷ハサレ、ソノ片足ナル智ニノミ
 走り、コレト併行スベキノ徳ヲ忘レタル中等以上ノモノニ
 至テモ、ナルホド、實ニ、人民ノ風俗ハ、邦國ノ盛衰ニ關係ス、教
 法ハ、社會ノ一大要具、且ツソノ時勢ニ適シ、人情ニ應ゼシメ
 ザルベカラザルノ理ヲ悟リ、上下、茲ニ歸著スルノ時ニ當テ、

滔々改教論ヲ唱へバ、人心ノ向フトコロ、水ノ下キニ就クガ
如シ、孰カ能ク之ヲ禦ガン、然ルチ、今日、漸ク萌芽ヲ出サント
スルノ西教コ向テ、妄リニ、彼此ノ言論ヲ逞フシ、將ニ綻ビ
トスルノ花神ヲ瘦損セシムルガ如キハ、吾輩ノ取ラザルト
コロナリ、故ニ曰ク、耶蘇教ノ改革ヲ要スルハ、時勢ハ、已ニ到
リタレ、之ヲ行フベキハ、時機ハ、ナホ未ダ來ラザルナリ、

○記仁熊事

信夫怨軒

作文之難、不在議論、而在叙事、蓋欲其詳、或失諸煩、欲
其簡、則失之於疎、若夫簡而不漏、詳而不麗、如盲史腐
傳、筆々飛動、可謂能事畢矣、余每讀下柴栗山紀、那須與
市中井履軒紀、猿島復讐、及安積良齋紀、霧島山、未嘗
不歎其模寫之妙也、平素欲倣此作一文、執筆輒罷、偶

閱北越雪譜、載巨熊活人、其事頗奇、因紀之、亦唯醜婦
倣擬耳、

越後魚沼郡妻有邨、樵夫九右衛門者、冬日冒大雪、往伐木于山、
已束爲薪、載樵而歸、一跌誤墜巖谷、積雪埋身、時維昏黑、自分必
死、見側有洞窟、廣可容數人、乃口中念佛、匍匐而入、稍覺微燭、愈
入愈熅、遂進觸獸毛、愕然膽落、知其熊也、意欲遁、不可得、不如從
容授命、於是斂襟端坐、謂熊曰、熊也善聽、吾是妻有村九右、今誤
落谷底、不虞侵汝棲處、汝欲啖速擊、若有一點仁心、則請救吾命、
淚與言共下、股栗齒戰、徐撫其背、熊稍起身尻推九、若欲使其入
輿者、因坐、殆似近爐、而飢腸雷鳴、不可自禁、熊又舉掌當九口、九
謂熊者、夏日摩擦蟲蟻于掌上、以供冬蟄之食、是蓋令吾舐之也、
試舌嘗之、大甘小苦、因頻舐之、遂忘其飢、心氣爽然、已而熊寢、鼻

息齣々、九始知其無害心、背焉而睡、及覺窟口微明、出而眺望、巖壁一白、無復歸途、熊出飲于濕、暗算其全體、七個犬之大也、熊還、九獨佇立、欲聞樵牧之聲、以卜其方向、四顧寂寥、無一禽之鳴、惟飛瀑深々徹耳而已、既而日晚、復入窟、免飢於熊掌者、數十日、遂與熊相馴、如同胞、然而九歸思甚切、一日出窟、曝背捫蝨、熊口其袖引之、若將誘行者、乃尾而往、熊爪積雪、啓徑、行里餘、始得入跡、驚喜厚謝熊、熊一逸而去、不知其所往、九合掌禮拜、目送久之、遂得歸家云、

怨軒氏曰、吾聞窮鳥入懷、則仁者不殺、餓狗搖尾、則惠人憐之、今人文酒相交、往來過從、視猶同胞、一旦窮阨、棄去不顧、甚者則從而擠之、况於其瀕死乎、今夫熊獸類之不近于人者也、而能爲仁者、惠人之所爲、如斯其厚、宜乎、詩人稱爲男子之祥矣、余嘗紀義獸、世之殘刻無人理者、其亦無地縫之可容哉、

中島雄曰、古人云、叙事譬之、如造明堂辟雍、門階戶席、皆有程式、雖一楹一牖、不可妄移、易、議論、如空中樓閣、不厭出新意、故難易迥異、今如此編、從容說去、不見其苦心、非下深于文者、不能如此、敬服々々、
敬字曰、事奇而文、足以傳之、

編輯兼出版人

木平讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

東京小石川江戸町十七番地

本局同人社

東京小日向第六天町同人社外塾

配達兼 石本長造

賣方 東京兩國藥研堀町三十八番地

印所 報知社

同本町三丁目 瑞穂屋卯三郎

同室町三丁目 中外堂

同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 紀伊國屋源兵衛

大坂心齋橋通道修町 富士屋金十郎

大坂本町四丁目 報知社支局

甲府八ヶ町 河内屋真七

武州熊ヶ谷 本町 內藤傳右衛門

阿州德島中通 博文堂

所 坂井萬吉

東京神田美土代町四丁目 立花屋作太郎

同虎ノ門外琴平町二番地 霞堂

同春木町三丁目 中屋民次郎

同牛込肴町 深野彌兵衛

橫濱辨天通四丁目 中屋銀次郎

同所 池田幸吉

越後長岡 大橋佐平

姫路俵町十六番地 山野長兵衛

上州高崎田町三丁目 文心堂

越後國龜田町二十七番地 佐々木儀平

東京芝新櫻田町十一番地 新井源吾

明治十一年第三月十九日發兌

紀恩碑

東西聖賢ノ格言要語ヲ撰ビ
脩身教化書ヲ編成スルノ意見

西稗雜纂跋

入清記自序

雜文三道

熱海誌題辭

中村敬字

全

沈子星

中島雄

吾妻兵治

中村敬字

同人社文學雜誌

第三拾號



1. Cunning is the ape of wisdom.
2. A wise man will make a good use of his knowledge.
3. The heavens reveal the honour of god.
4. He seldom lives frugally, who lives by chance.
5. Before destruction, the heart of man is haughty, and before honour is humility.

5.	4.	3.	2.	1.
辱隨驕泰、榮繼謙遜、	微倖得利者不儉節、	辰宿列張、自見帝尊、	善用才識之謂智者、	奸猾者良知之獼猴、

文學雜誌第三拾號

○紀恩碑

中村敬字

伊賀國阿拜郡、今爲三重縣第九區、天嶽直其南、長田川界其西、而東北則服部柘植二川環之、至于郡西三川會合、是爲木津川上流、當其匯流之衝、巨巖橫焉、水不能順流而奔注也、成齋曰、不包遺、每遭霖潦、逆浪汎濫、安政地震以後、其害更甚、津藩主藤堂氏以郡屬其封內、卹念民瘼、屢濬淤塞、起隄防、鑿巨巖、竭力糜財、百方施功、而水害猶未已也、及至明治三年九月、水大溢、流屍蔽野、邑市田廬、蕭條一空、於是始有徙民之議、會藩廢爲縣、今縣令岩村君始至、首察民害、聽衆庶請、遂以舊城址一萬二千餘步爲徙居之地、又請于官金四千圓給其費、民歡愉趨功、小田村人村田順造、奉命董役、十年七月功竣、自是厥後、嚮被災之諸村、如上

野市小田木與淺宇田與市幸阪馬苦勞清水盡皆化為良田、收
穫數倍、而城址之新邑、比屋連棟、煙火蕃盛、鷄犬相聞、民得聊其
生、較諸曩時、蕩產失財、死亡且不能救、其苦樂災祥之相去、奚啻
霄壤、宜乎闔郡人民之頌道恩德、而不能已也、又曰入題、順造與
衆謀欲立碑以錄其事、傳之無窮、請余作銘、其辭曰、

惟昔之災 水浸阡陌 下民昏墊 每葬魚腹 惟今之祥
安居聚族 孝弟力田 天降豐熟 粒我育我 緊誰之力
今我不錄 終忘恩德 藩政惻怛 疏濬盡策 縣治忠厚
遷徙相宅 轉災為祥 易苦以樂 厥謀允臧 厥恩罔極
重野先生曰。叙事不着議論、簡老典雅、錘練之功至矣、

○東西聖賢ノ格言要語ヲ撰ヒ修身教課書ヲ
編成スルノ意見 同

方今小學ニ用フル教課書ハ、簡易明白ニシテ日用ニ切ナレ
ハ、今ヨリ後モ繼テカクノ如キ書ヲ著ハシ、更ニ一層ノ善キ
者ノ世ニ出ントナ望ムナリ、但シ、余ガ意ニハ、ソレハ、ソノ儘
ニ居テ置キ、又別ニ今少シ六ヶ敷、文字ノ有用ナルモノヲ童
子ニ記憶サセタク、且ツ修身ノ益トモナルベキ聖賢ノ格言
要語ヲモ童子物覺ノ善キ間ニ誦誦サセ度、思フナリ、カク申
シテモ、大學中庸ノ素讀ヲ是非、セテバナラヌト云フニハ非
ズ、イハハ言忠信行篤敬トカ、己所不欲勿施於人トカイフ様
ナル短簡ニシテ意味深キ語ヲ抄録シ蒐集シテ、甲ノ冊子ト
ナシ、サテ其上ニ乙ノ冊子ヲ捺ラヘ、箇條ヲ書キ立テ見ルナリ、
譬ヘバ、己ヲ治ムルノ務メ、人ニ對スルノ務メ、神ニ事フルノ
務、トイフヤウナルヲ、又良心ノ論、職分ノ論、トイフヤウナル

一ナ箇條トシ、ソレヨリ格言要語ヲ仕分シテ、ソレ々々ノ條
下ニ繫ゲ、カクシテ成丈澤山ニ集メ、コレヲソノ稿本トナス、
此レ最初手ヲ下スノ始メナリ、
童子ニ教フルニ、難易各々ソノ中ヲ得ルヲ貴トブ、是固ヨリ
然リ、サレドモ愈々後來ノ益アルト見ルトキハ、些ト、難クテ
モ、些ト、時日ヲ費ヤシテモ、之ヲ教フルハ知識上ノ經濟ニ
於テハ損ノ行ヌナリ、サルカテニ、今日小學課書ヲ卒業ス
ル時ハ、算術ヤ理學ノ間ニ皇朝史畧、ヤ、進ンデ日本外史、マ
タ時ノ流行デ文章軌範ナドヲ讀シムルナリ、コレハ實ニ已
ヲ得ザル今日進學ノ初歩ノ路程ナリ、小學課ヲ卒業シタル
ハカリテ、直ニ藝術ヲ學ブハ、畫工トカ、雕像工トカ、體操ノ
教師トカニ成ルニハ、ソレニテモ間ニ合フベケレドモ、小學課

書ニテ讀ミ覺ヘタル文字ノミニテハ、後來假名讀新聞ノ外
ハ何ノ新聞紙デサヘモ讀ミ難カルベシ、コノ一段ニ差支ヘ
テ支那ノ字ヲ識リ、旁々日本ノ歴史ヲ覺ヘルノ利益ヲ謀リ
小學教課書ヲ仕舞ヘバ、漢文ノ歴史ニ取掛ルトハナリタ
ルナリ、
又四書五經ノ素讀ノ止タルハ、昔シ童子、三字經カ、孝經カ
ヲ讀ミ畢レバ、直ニ四書五經ヲ讀シメラレ三ケ年ヤ四ケ年
ヲ經ザレバ讀ミ切ラヌナリ、コレハ餘リ六ケ敷ニテ、ソレ
ヨリハ手短ナル教育モガナト、遂ニ枉チ矯メ、直ニ過ルヨリ、
今日ノ教課書トハ變シタルナリ、然ルニ今日トナツテ見タ
トコロデ、マタ齊則失矣楚亦未爲得也トイヘル情形ニナリ
タリ、コレ余カ此說アルヲ致ス所以ナリ

○西稗雜纂跋

沈子星 清客

天下惟好道者能以道為美、以道為樂、取有道者之言、不以地限、不以人殊、萃而為文、譯而成帙、不啻出自心裁、創由手筆、人之才學識耶、己之才學識耶、大道自在霄壤、物我之見形、道不在是矣、

大日本 向君文卿、我同道良朋也、以敬字先生所著西稗

雜纂兩集見示、讀既竟、覺片紙微言真道寓焉、短篇隻字至理存焉、東西途遙、古今代異、人同此心、同此理、德、慧、術、智、若合符節、以之淑身、以之覺世、或作或述、言不朽、人亦不朽、覽之者、傳之者、苟悉心體驗、一字一句、不輕放過、則又同為不朽之人矣、是書也、迥異夫小說者流、余願六幕民生、入於目而達於志、咸奉為載道之瑤編、明道之寶鑒也可、

光緒四年歲次著雍攝提格上元佳節南京沈子星謹跋

○入清記自序

中島 雄

余嘗與愛知萱生奉三君譯英人馬加利氏雲南紀行、掩卷歎曰、馬氏妙齡服官、入三萬里不測之外國、瘴癘喝暑之所、侵蝕淫霖狂颺之所、摧擿蛇虎盜賊之所、脅伺野泊郵羈、僮父山鬼之所、椰榆而激觸、辛苦間關、終之不免為身死、賊手骨朽、異域則其間、當日夜魂飛魄褫、鞠躬盡力、只救身之不暇、而今見其雲南紀行、山河之阨塞、風俗之醇醜、至戶口之衆寡、物產之貧富、描寫歷々、細大不漏、自非有勤勉忍耐之大勢力者、安能得如是哉、今年冬奉命清國北京、海陸千有餘里、雖如甚遠、要皆得下因舟車之便、安坐高枕、優遊經過、則當是時、欲有所記載、山海經、風俗通、何等書有不成、而僅々入清記二卷、不詳戶口、不舉物產、至若夫山河風俗、曖昧糝糊、殆不異癡人說夢、僮父評劇、嗚呼、何余懶怠粗卒之甚歟、

余顧此書若傳至故國、營生君將見而言焉、入清紀、畢竟不及雲南紀行、此言也、余無如之何而已矣、

明治十一年冬十二月二十有九日於清國北京

日本帝國公使館 龍山居士中島雄自識

○讀西史

吾妻兵治

世道之變、猶秋天之陰、霽無常也、歟、一治一亂、否泰相乘、而其所
以然者、常伏行乎彼此冥々之間、推援代謝、以成寰宇之沿革、蓋
如此而爲秋候、如此而爲人事也、余初讀和漢之史、每觀其興廢
理亂之所由、輒嘆曰、盛衰之理、雖曰天命、亦人力可以制之、爾、禁
此弊、彼亂何由馴致、某盛舉所以致某隆治也、當時謂治理皆可
以類推而已矣、洎後讀西國之史、而后有知其不必然也、昔羅馬
之亡也、四方蠻民、陸續雲聚、古來文明之境、一旦爲魑魅之窟、當

是時、外則無君民上下之義、內則無父子昆弟之親、人々孤立、各
圖自主、搏噬哮嗽、以爭一日之命、上下幾一千歲、西人謂之暗世、
生民以來、壞亂之極、未有甚於是時者也、其後世運漸就緒、一變
爲封建、再變爲立憲、爲共和、而昔時兇殘之俗、蕩然斂迹、相加以
愛厚保安之道、自持以行、己盡職之要、而嚮之所謂特立自主者
始得達其真處、於是乎、水火天文之理、制度文藝之精、日月加新
美、以致大有今日之隆盛矣、西人有言曰、現時隆盛、由于人民有
自主之志行、而其志行即所以陶成暗世者是也、然則自主也者
壞亂之源、而又兼至治之基也、大弊巨病之餘、乃反開至盛也、嗚
呼、至衰未可以棄、雖衰有可興者存焉、至盛未可以安、雖盛有可
亡者存焉、天下之理、罔極、而人事之不可測也、如此、雖然、苟有志
於斯民者、亦何可不致力於救濟乎哉、敬字先生曰、一

敬字先生曰、均是火也、或一炬燒阿房、或照千家之暗、煖萬室之爐、古人曰、人民始喜得自由、猶小兒燒人家、以爲笑樂、其危莫甚焉、洵然、雖然、至其達其真處也、文明之基、不外乎此、

○大勇如怯 泰西小學讀本

同

彌理堅戰爭ノ際、一小武官其麾下ヲ督シテ、將ニ巨大ノ材木ヲ壘上ニ引キ登セントシタルニ、其材量ノ重キ、殆ント少衆ノ堪ユベキコアラザレバ、武官ハ聲ヲ涸シテ、アラ傾ムクツ、ソラ持上ケロト、噪キ立ツル折リシモ、偶々戎服ヲ着セザル官吏ノ通り掛リ、何が故ニ小シクモ加勢ナサラヌヤト問ハレシニ、其人意氣揚々トシテ、拙者ハ押伍ノ職ヲ辱フスルデ御坐ルトイフモ畢ラズ、彼ノ官吏ハ、押伍君トハ夢ニモ存ゼズ、ツイ失禮致シタリトテ、帽ヲ脱キ、拜俯シテ宥恕ヲ乞ヒ

直チニ馬ヨリ下リ、流汗額額ニ洽チキナ事トモセズ、衆ト力ヲ合セテ、遂ニ之ヲ壘上ニ打上ケ了リ、偕テ押伍君ヨ、今後亦箇様ナル拵工ノ起リテ、力ノ足ラヌ節ハ、遠慮ナク貴殿ノ元帥ヲ呼ビ出サレヨ、拙者ハ復々加勢トシテ欣然參ヲ待ラント、聞クモ畢ラズ、押伍先生愕然一驚、反顧スレバ、コハ何かニ、我彌理堅聯邦ノ大元帥華盛頓公ナリ、

法朗西米蠻ノ戰役、既ニ畢リ、始メテ偃武ノ運ニ至リケレバ、今ヤ華盛東ハ其兵權ヲ解キテ國會ノ議員ニ列シタリ、然ルニ議事院ノ發議ニ因テ、議長ハ總員ニ代リ、其國家ニ盡シタル大造ヲ華盛東ニ謝スヘキノ命ヲ受ケ、華公ノ始メテ席ニ就クヲ窺ヒ、充分ノ威儀ヲ備ヘテ感謝ノ意ヲ陳ベタレト、其際、自然感恩ノ餘リ、氣勢凜々、覺ヘス聲色ヲ動シケレハ、左十

キダニ謙遜ノ華盛東、慚愧自ラ失シ、坐チ立チテ其光榮ヲ答謝セントシタレヒ、如何セン、赧面戰慄、胸迫リ、語滯リテ、暫シ片辭モ出テザリシ、議長ハ此ノ狀ヲ見、感嘆シテ曰ク、華君、坐ニ復サレヨ、我輩今ニシテ貴殿ノ謙德、其勇武ニ併ビ、口舌ノ能ク稱贊スヘキ所ニアラザルヲ見得タリトゾ、
醒軒氏曰、天下之事、體用率殊ニ其情、故守約者其施必博、至柔者乃能制天下之剛、此理也、亘古今、微萬世、確其不可易也、昔霍光黜昌邑之亂、存漢祚於將絕、而其人則小心謹慎、如無爲者、武侯卓立於三國群雄之間、展大義於既滅之後、而問其生平、則不過曰、謹慎靜修、華盛東鴻業威名、百歲之下、尙如斯、遽而思之、其人宜如猛虎悍鷲、而謙遜卑退乃如此、然則謂天地間大英傑之偉業、唯在謙謙二字、豈不可乎、世俗多蔽於其所見、錦衣玉食謂之

富、緩言徐行謂之德、以跳踉叫呼爲勇、而以辨給輕利爲才、人皆曰予智、而自欺於掛羊、甘食狗肉者何也、

○書青丹譜卷端 應人需

同

由摸其物而成形、雲龍風虎、過筆下則死、此爲拙工耳、由寫其神而自賦形、一點一畫之妙、使霜葉雨花便含生氣、此豈徒巧於筆者之所及哉、故良工必先求之於物形之外、假手筆以發其胸臆、然後其所畫者可觀也、俳優長某嘗語人曰、吾不事技也、但心誠憂喜、而自笑泣、如此而止耳、噫、可以知畫道、

技也進于道矣、莊周斯言信矣、敬字評

○熱海誌題辭

中邨敬字

負山抱海形勝雄、異人流謫長此中、一洗簪紳華奢習、別開霸府無限功、武門執權今已矣、地出靈泉永不已、治效神奇甲扶桑、年

年救活萬人死、昔有七泉、今倍蕪、田野所穿見清泚、况有好景怡心目、造物布置妙乃爾、江城六月暑燠、金朱門甲第汗成涔、競來此地、取休沐、冠蓋車馬相追尋、招引王公輕羈旅、賺得洋商傾囊貯、况療其病、施以恩、權勢何曾減、霸府、我久欲往浴靈泉、塵途局促苦無緣、忽讀巒公好記筆、遊意勃然骨欲仙、我知靈泉有神通、借手大雅廣其傳、人間勢力浮漚耳、嗟汝熱海有真權、

本誌每月二回發兌ノ處事故アリ遲滯シタリ今後例ニ從ヒ連綿發兌スヘシ看者ソレ之ヲ諒セラレヨ 編者白

編修兼印刷人 木平 讓

官准明治九年七月 每月二回發兌

東京小石川江戸川町十七番地 同人 社

- | | | | |
|----------------|---------|-------------|--------|
| 東京小日向第六天町同人社外塾 | 石本長造 | 東京神田美土代町四丁目 | 立花屋作太郎 |
| 東京兩國藥研堀町三十八番地 | 同所 | 同虎ノ門外琴平町二番地 | 同所 |
| 同本町三丁目 | 瑞穂屋卯三郎 | 同春木町三丁目 | 中屋民次郎 |
| 同室町三丁目 | 中外堂 | 同牛込肴町 | 九番地 |
| 同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 | 紀伊國屋源兵衛 | 同濱辨天通四丁目 | 深野彌兵衛 |
| 同珊瑚園 | 富士屋金十郎 | 同所 | 中屋銀次郎 |
| 大坂心齋橋通道修町 | 報知社支局 | 越後長岡 | 池田幸吉 |
| 大坂本町四丁目 | 河內屋真七 | 姫路俵町十六番地 | 大橋佐平 |
| 甲府八ヶ町壹丁目 | 内藤傳右衛門 | 上州高崎田町三丁目 | 山野長兵衛 |
| 武州熊ヶ谷本町 | 博文堂 | 越後國龜田町二十七番地 | 佐々木儀平 |
| 阿州德島中通町貳丁目 | 坂井萬吉 | 東京芝新櫻田町十一番地 | 新井源吾 |

明治十二年第四月三十日發兌

女訓序

中村敬宇

演說ノ主義ヲ論ス

全

淺井畏卿墓碣銘

岡千仞

二種ノ離斷

佐藤麟角

送勵芳上人序

吾妻兵治

爲雨宮彌兵衛賣天機硯引

中村敬宇

同人社文學雜誌

第三拾一號



- I Fame is like a magnifying glass.
- II Do nothing you would wish conceal.
- III Past labours are present delight.
- IV Who gives unseen, is sincere.
- V None are so deaf as they that will,,
"not hear.

- 1. 聲名者、似影大之鏡、
- 2. 欲隱之、不如不爲、
- 3. 過去之苦者、今日之樂也、
- 4. 施而不見者、施之誠也、
- 5. 不欲聞者、聾莫甚焉、

コレヨリ

文學雜誌第三拾一號

○女訓序

中村敬宇

有二人焉、各誇林園之美、其大小廣狹、同也、花木禽魚、多寡同也、然而乙之林園、不及甲者何也、曰、氣韻不侔也、風致不同也、夫氣韻風致者、猶人之有德望、其得之本於自然、非可強而求也、今有一園地而入焉、人或告曰、此司馬公之獨樂園也、則衰松殘柳、不堪慕愛、敗址頽墻、猶覺可敬、嗚呼、人之家室、亦有然者也、歟、層樓疊閣也、或望之而不覺高、茅屋竹籬也、或瞻之而可仰止、此亦氣韻風致之所使然、而其優劣、大有關於人品家風也、易曰、家人利女貞、又曰、觀盥而不薦、有孚顒若、夫有貞正婦人、善助其夫、治家事、勤勉以教兒子、使下其身體強健、智德交進、又顒若之孚、以虔事上帝、則天日之照其家、熙々乎、多有精光、而和風之入其室、藹々

然、饒有_二芳香_一、使_レ人望而歎_二其家之氣韻風致邈乎不可_レ及者、庶_下乎其不_レ求而得_レ之矣、萩原君著_二女訓_一、而大石君懲_レ懇刻_レ之、其亦知_レ女訓之可以_レ善_二其家_一、并可_レ以善_二其邦_一乎、余何得_レ不_レ美_二茲舉_一而繫_レ之辭、

重野成齋曰、藹然仁者之言、

○演說ノ主義ヲ論ス

全

今日ハ東京第一中學、即チ此所ニ於テ始メテ演說會ヲ催ウサレベキ旨ニテ、我ハソノ教員ヨリ招カレ、何ゾ一席ノ話說ヲナスベキ由チ囑セラレタリ、

凡ソ物ハ、始メアレバ必ズソノ繼續關係アルコトナレバ、演說會、コノ後モ續テアルヘキコト思フ、故ニ演說ノ主義ヲ言ハント欲ス、

凡ソ論說トイフモノハ、思想ヨリ發スルモノナリ、心中ニ思

想スルコト口外ニ發ス、思想ハ一己ノ中チ出テス、談說ハ他人ノ前ニ演ス、演說ハ他人ノ前、即チ廣人稠衆ニ向ヒ、己カ思想ヲ十分ニ發シ、自己ノ唇ヨリ聲音言語ヲ出シ、他人ノ耳根ニ徹シ、心裡ニ入り、他人チシテ己カ談說ヲ理會セシメント欲スル者ナリ、ソノ甚シキニ至テハ、他人チシテ吾カ說ニ感服シ聽從シテ、吾ト同シキ意見トナラシメンコトヲ期スルモノナリ、

カク論シテ見ルトキハ、演說ハ言語ノ敷衍擴張セルモノニシテ、人ト我トノ間ニ關係ヲ有_レテル者ナリ、我ニ意見ナク、思想ナク、及ヒ我ニ意見アリトモ、思想アリトモ、自分ニ陰カニ隱ストカ、或ハ自分ノ中ニ止マリ、他人ニ話シ聞セタキト思ハサレハ、演說トイフモノハ之レナキナリ、由_レ是觀_レ之ハ、演說

ハ要シテ之ヲ言フコ、我カ意思ヲ伸ベ、他人ニ被ムラシメン
トスルヨリ生ス、前後ヲ論スレハ、ソノ動力ハ我ヨリ發スル
ナリ、他人ノ心意ヲ鑿カシムルコ非ス、我自ラ思想議論ヲ世
人即チ聽衆ニ言ヒ顯ハシ、以テ我カ心意ヲ快ウスルナリ、譬
ヘハ旨キ物、自己ニ食スル計ニテ事足ラスト思フコ由テ、我
カ家内ノ人ニモ分チ與ヘ、鄰家ヤ親類ニモ分送セントスル
ナリ、結句、人ニモ旨キ物ヲ食ハセテ以テ吾カ心意ヲ鑿カシ
メ、自ラ満足スルヲ求ムルニ外ナラサルノミ、
コノ他人ニモ旨キ物ヲ食ハセント思ヒ、分送スル如ク、コノ
自ラ旨シトシ、自ラ喜ブ意見議論ヲ他人ノ前ニ演述スルハ、
其心、虛ナリヤ、實ナリヤ、其事、假ナリヤ、真ナリヤ、其意、偽ナリ
ヤ、誠ナリヤ、余曰ク實ナリ、真ナリ、而シテ誠ナリ、

易ニ曰ク、修辭立其誠、トイフハコレナリ、ソノ詞ヲ金玉コシ、
ソノ文ヲ錦繡コスルトモ、誠ナキノ言辭ハ、コレヲ剪採ノ花
ニ譬フ、美觀アレトモ、特ニ一時ニ炫耀セルノミ、毫モ生氣ナシ、
光色ナシ、芬香ナシ、故ニ一席ノ話タリトモ、單言隻辭ナリト
モ、務メテ胸中ニ思フトコロノ實、心底ニ存スルトコロノ眞、
口頭ニ言ハント欲スルトコロノ誠、ヨリ出ルヲ期セサル
ヘカラス、誠トイフモノハ、自然ニ外ニ見ハル、モノナリ、何
ホト隠サントシテモ、隠シオフサレヌモノナリ、火星カ爆^{ハチ}テ
綿ノ中ニ入ル如ク、初ハ見ヘサレトモ、暫ラクスル際ニ、キナ
臭クナツテ、忽チ火ノアルトコロノ露顯スルガ如シ、夫レ隠
スヲサヘ出來ヌハ誠ナリ、コノ誠ヲ立テ、コノ誠ヲ存シ、コノ
誠ヲ蓄ハヘ、サテ言辭ニ發スレハ豈ニ天ヲモ鬼神ヲモ動か

サ、ランヤ、

易ニ又、言有物而行有恆、トアリ、有物トハ、言語ニ實事實物ノ
アルヲ言フナリ、偽ハリ飾リテ、何モ真味ノナキヲ戒メテ
カクハ言レシモノト覺ユ、
右ノ如ク論シ來ルト、演説ハ六ヶ敷モノニテ、妄リニ出來ヌ
様ニ見ユレトモ、決シテ然ラス、タ、演説ハ、何テモ我カ思フ
トコロノ實ヲ外ニ言出スヲ主義トナスヘシトイフノミ、狐
ヲ黒トイフナカレ、烏ヲ白トイフナカレ、鹿ヲ指シテ馬ト爲
スナカレ、議論ノ調子ニ乘シテ平生ノ説ヲ變スル勿レ、心ニ
是トシ口ニ亦是トイフ、心ニ非トスレハ口ニ亦非トイフ、カ
クスレハ演説ハ忠信ヲ道達スル器具トナルニ庶幾カルヘ
シ、然リト雖モ、コ、コ着眼スヘキヲアリ、我ニ一是非アリ、彼

ニ一是非アリ、コノ渺茫タル世上ハ真理ノ大海ナリ、我カ一
己ノ説ヲノミ是トシテ、妄リニ他人ヲ非トスベカラズ、但シ、
今日我等ノ見識ハ、是トスルトコロヲ認メサルヘカラズ、故
ニ一學校ニ居ルトモ、一社會ニ列員タルトモ、ソノ時、ソノ處
ニ際シ、利害、是非、公私、曲直ト兩ニ形ハレ出ルトキハ、細心ニ
思慮シ、事況ノ顛末ヲ察シ、自己ノ良心ニ原ツキ、認實スルト
コロノ考按ヲ立テ、十分ニ論辨ヲ爲スナリ、或ハ後日ニ再考
シテ是非ヲ誤ルトモ、其時ニ至リ、改ルヲ憚ル勿レハ可ナリ、
カクスレハ決シテ吾自己ヲ欺クノ罪ニ非ス、良心ニモ愧サ
ルナリ、良心ニ愧サレハ天地神明ニモ愧サルナリ、故ニ曰ク、
論説ハ務メテ胸中ノ實ヲ吐クヘシ、コレヲソノ主義トナス、
演説ハ動力ノ機ヲ己ヨリ發スルモノナリ、故ニ己ヨリ他ヲ

廻轉スヘシ、他人ニ徇カヒ之カ爲ニ廻轉セラルベカラズ、

○淺井畏卿墓碣銘

岡 千仞

淺井生名威、字畏卿、陸中閉伊郡人、世事遠野邑主、年甫十五、來仙臺、執贊余門、余試其所學、畧涉經史大義、居年餘、弟徒無出其右者、余私以爲有望于後來矣、戊辰、與羽連盟抗官軍、屢爭其非、遂不行、慨然曰、余既不能以大義自振、將下修技藝、成中名天下矣、遊東京、入福澤氏之門、脩洋學、刻苦數年、究其要領、既而曰、所取於洋學、大艦巨砲爾、世爲洋學者、唯學其舌、何益國家、赴橫須賀、入造船局、日混役卒、熾炭鍛鍊、鋸巨材、運大石、手足皸瘃、自晨至昏、不少憚勞、會局撰生徒、請試者百餘名、君混衆就試、漢洋二學、應答如響、試者大驚、舉爲第一、此夏余赴橫須賀、看造船場、君指諸器械、說運用方法、余驚其巧妙、慨然曰、魯帝彼得混役夫、學造船、

實有謂也、君大息曰、我國四陲皆海、而無船舶中用者、使英佛乘我隙、何以敵之、余因舉彼得、勵君留宿、盡歡而歸、是秋、君羅脚疾、寓余家、施治、尋瘥、歸橫須賀、一日、郵書報病大發、余驚使首藤生與疾、就治、下谷病院、翌日往視、施治無功、口渴不能言、猶曰、余刻苦所學造船各科、畧就端緒、而死期已逼、此生不足惜、唯慈父慈母縮衣食、資兒遊學、一朝聞兒逝、哀慟可如何、言淚共咽、余屬之曰、士死學、猶兵死戰、何於嗚之爲、君首肯、收淚執余手、爲永訣、哽咽而出、翌日、猪飼生報差劇、遣姪易直往視、竟以是夜、瞑、翌日、余率弟姪數輩、臨哭、買椁棺葬之、三緣山金地院、實明治六年十一月四日、享年二十有六、君敏慧好學、能耐刻苦、余嘗與弟徒講格物入門、君參之洋書、縷分節解、瞭如照燭、聞者悚服、其盡力造船學、將有大所爲也、而不及一試其所學、溘然而逝、嗟亦命也、翌春

二月、君父信懋來自郷里、建墓石、泣請余曰、亡兒、生從先生而學、死就先生而歿、而今得先生銘辭、勒之墓石、則生者死者、皆無憾也、余不覺潸然、作之銘曰、

四。陞。皆。海。尤。急。造。船。使。君。達。志。巨。舶。巍。然。垂。天。奮。翼。搏。傳。地。垠。以。濟。不。通。何。有。輸。扁。若。人。不。壽。彼。邈。者。天。

沈文煥先生曰、哀惋動情、激昂有氣、二者皆備、此文足不朽矣、

士死學猶兵死戰、名言也、君其可以瞑矣、但如君者、不盡其用而沒、則可下爲國家而惜也、讀此文、愴然者久之、敬字評

○二種ノ離斷

佐藤麟角

大凡ソ歐羅巴ト阿細亞トノ人民ハ、離斷ヲ以テ長スル者ナリ、一チ極成離斷トイヒ、一チ不極成離斷トイフ、極成離斷ハ、

事必ズナルヘク、意必ズ達スヘシト云フナ意味ス、歐羅巴ノ人民コレニオル、不極成離斷ハ事必ズ達セズ、意必ズ盡セスト云フナ意味ス、阿細亞ノ人民コレニオル、

抑モ歐羅巴ト阿細亞トハ、ソノ人種ノ異ナルノミナラス、其心ヲ異ニス、何ソヤ、吾コレヲ知ル、即チ自業ナリ、即チ自得ナリ、歐羅巴人ノ言ニ曰ク、物必ズ對スルニ不成チ以テスヘカラズ、事必ズ不達チ以テスヘカラズト、阿細亞人ノ言ニ曰ク、慾念ニスヘカラズ、事不滿チ要セヨト、外邊ノ制、却テ内心ヲシテ局量シ、内心ノ制變シテ外邊チ濶大ナラシム、物ノ偏倚セザルト、事ノ通達スルト、蓋シ亦コ、ニ基ヒセサルチ得サルナリ、

今假造チ以テ嶮岨チ示シテ曰ク、斯丘攀ツベカラズ、東人必

ズ之ヲ諾セン、岐路數十條、又示シテ曰ク、斯路行クベカラズ、西人必ズ之ヲ諾セズ、行クニ方アリ、登ルニ術アリ、奇怪珍異、物大小トナク、事淺深トナク、ソノ盡ス處ヲ竭シテ已ムノミ、往時支那ニ諸侯アリ、路ニ西瓜ヲ得タリ、乃チソノ西瓜ナルヲ知ラス、之ヲアル哲人ニ問フ、教テ曰ク、コレ水草ノ果ナリト、始メテソノ食用品ナルヲ知ル、若シコノ哲人ナクンハ、即チ門ヨリ入者ハ家珍ニ非ズトシテ捨ンカ、吁亦事ノ究メサル甚シ、コレ微物ト雖モ、ソノ大要ヲ知ルコ足ル耳、

近來政事教法ノ事ニ至テ、峻崖攀ツベカラサル者アリ、岐路行クベカラサル者アリ、而シテ或ハ行キ、或ハ登リ、或ハ行カズ、或ハ登ラズ、ソノ懸隔スルニ至テハ、亦甚シト云フヘシ、雖レ然、東西ノ人、豈心ヲ二コセシヤ、阿細亞人ノ心モ即チ心ナ

リ、歐羅巴人ノ心モ即チ心ナリ、ソノ差異アル所以ノ者ハ、則チソノ差異アルコ非ズシテ、ソノ極ムル處ヲ究メサルノミ、ソノ盡ス處ヲ竭サ、ルノミ、何ノ二種ト云フカ之レ有、

識見高峻、議論精確、殆可謂ニ上乘之文字、

又曰ク、愚ハ更ニ一步ヲ進メテ不二門上ヨリ之ヲ看下セハ、二種ノ離斷、畢竟不二、所謂極成離斷ナル者、果シテ本際ヲ徹窮スル歟否ザレバ第二言下、早ク必ズ梗塞スル所アルヘシ、假令ヒ、姑ク言チ自然本然、若クハ天爲等ニ假ルモ、畢竟、本際ニ暗キ時ハ、猶ホ不極成タルヲ免レズ、若シ夫レ心性ノ本際ヲ究盡シテ、妄想ノ所見ヲ打破セハ、當々處々即チ是レ實相、窮ト不窮ト等シク是レ極成也、亦何ノ所ニカ所謂不極成離斷ナル者ヲ認メン、故ニ

愚ハ毎ニ云フ、苟クモ事物ノ本際ヲ窮盡セントセハ、宜ク先ツ心性ノ本源ニ遡リ、而後ニ形器ノ末流ニ下ルベシト、彼ノ天ニ後ル、者ハ固ヨリ天ヲ知ルニ難ク、天ニ先ツ者モ、亦天ヲ知ルニ難シ、要、天ト共ニ相照シテ始テ萬物ノ眞源ヲ究極スルヲ得ヘシ、姑ク書シテ大雅ノ高批ヲ仰ク耳、

鳥地默雷妄言

○送勵芳上人序

吾妻兵治

勵芳上人、越後頸城郡人、嘗與吾敬字先生、同受業於香山井部翁、客歲遊東京、始訪予、其後源々來、予未嘗不款語移晷也、一日來告曰、歸期在近、幸惠一篇、雖然、吾素無功業足傳者、患君之無可着筆耳、遂爲予叙其所從來曰、吾縣舊俗、僧侶徒奉先輩之說、傳寫曰講錄、其流弊之極、至於一據講錄、以斷經義、其所不通、則

置而不復究、吾年十七八時、深慨之、就一老僧、問匡正之計、答曰、匡正豈有他術乎、誠究明佛經、然後關之而已矣、然經元係漢譯、宜先從大家先生、而講儒學、於是奮然負笈來江都、投井部翁之門、尋歷遊京坂之間、業未及成、俄以家累歸鄉、事緒百端、雖欲再遊、勢不能脫去、今年五十、志氣既衰、不能復有爲、願提誘骨肉年少、使有所成就、亦所以自償也、予曰、何言成敗之跡乎、豫讓雖志不伸、史猶與專諸曹昧同其傳、何者、志譬則形也、功譬則影也、吾固有形、可以生影者焉、不幸月黑燈滅、雖無影之可見、終不失其所以爲形也、今上人憾宿志之不遂、欲必收成於後生、其設心之篤乃爾、吾則謂之成事也、上人笑曰、善、遂書以爲贈、

淡々着筆、而見交情之甚濃 敬字評

○爲雨宮彌兵衛賣天機硯引

中村敬字

昔年余秉_二鐸_一甲府、一日硯工兩宮鈍齋來訪、延_二之座_一、則年可_二六十_一、
 頹然、偉丈夫也、貌朴野、氣度軒昂、音如洪鐘、重野成齋曰、示_二其所_一、
 製天機硯、質不_レ下_二端溪_一、彫_二書若_レ畫_一、或嵌_二玉石_一、精巧可喜、其後屢來
 見、余未_レ嘗不_レ歡然移_レ晷也、客歲內國賽珍會、陳_二其所製_一、得_二花紋賞_一、
 牌、今茲其孫來云、鈍齋已死、余爲_レ之惋惜不_レ已、鈍齋嗜_レ飲、立_二盡_一、巨
 觥、余嘗於_二席上_一、見_二其運_レ刀_一、酒氣拂々然、出_二于指頭_一也、又曰、進_二其孫_一、
 曰_二彌兵衛_一、克繼_二其業_一、余視_レ之猶_二鈍齋_一、因_レ爲_二延_一譽於臺閣、江湖諸名
 家、冀_二望其硯之大售_一、雖然、至_二于鬻_レ之_一、則王公、息、隸、不_レ二_レ價也_一、又曰、
 帶_レ謔_二併見_一其_二人高致_一、妙
 重野成齋曰、澹岩有逸氣、蘇長魏叔距_レ我不遠、
 正誤 本誌第三拾號三葉後面七行心下脫_二心_一字、六葉前面
 四行待_レ當作_レ侍、六葉後面十行斯_レ是_レ新_一之誤、

官准明治十二年四月

編修兼印刷人 木平 讓
每月二回發兌

本局同人社

- | | |
|----------------|-------------|
| 東京小日向第六天町同人社外塾 | 東京神田美土代町四丁目 |
| 達兼 | 立花屋作太郎 |
| 賣配 | 同虎ノ門外琴平町二番地 |
| 東京兩國藥研堀町三十三番地 | 同春木町三丁目 |
| 賣印 | 靜霞堂 |
| 同本町三丁目 | 同牛込肴町 |
| 瑞穗屋卯三郎 | 中屋民次郎 |
| 賣 | 同濱辨天通 |
| 同室町三丁目中外堂 | 深野彌兵衛 |
| 同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 | 同所 |
| 珊瑚閣 | 橫濱辨天通 |
| 大坂心齋橋通道修町 | 池田幸吉 |
| 富士屋金十郎 | 越後長岡 |
| 報知社支局 | 池田幸吉 |
| 全 本町四丁目 | 大橋佐平 |
| 河內屋真七 | 山野長兵衛 |
| | 越後長岡 |
| | 池田幸吉 |
| | 大橋佐平 |
| | 山野長兵衛 |

甲府八ヶ町壹丁目
武州熊ヶ谷内藤傳右衛門
阿州德島中通博本町文堂
坂井萬吉

上州高崎田町三丁目
越後國龜田町二十七番地書肆文心堂
東京芝新櫻田町十一番地佐々木儀平
新井源吾

明治十二年第五月三十一日發兌

萬國史記序

中村敬宇

爭競と和睦との論

全

上帝說

植村俊平

英人ノ話ヲ記ス

東條世三

詩一首

中村敬宇

同人社文學雜誌

第三拾二號



二錢五厘

- I To rule one's anger is well,
to prevent it is better.
- II Better be a fool than obstinate.
- III Attempt not, or accomplish thoroughly.
- IV Step by step, one goes a long way.
- V Not by whom, but how.

1. 正^ス怒^ハ氣^ヲ則^チ善^シ不^レ如^ク閉^ル之^ヲ之^更
 善^キ
 2. 雖^モ昏^ト愚^ト愈^レ於^テ執^シ拗^ラ自^ラ好^ム者^ニ
 爲^ル事^ヲ必^ズ遂^ケ之^ヲ否^レ則^チ始^メ勿^レ爲^ル
 3. 積^テ跬^ヲ步^ヲ致^ス千^ニ里^ノ之^遠
 4. 須^ラ說^ク行^ハ迹^ヲ如^ク何^レ勿^レ問^フ其^ノ人^ノ之^爲
 爲^ル誰^レ

文學雜誌第三拾貳號

○萬國史記序

中村敬宇

古詩云、一日看除目、三年損道心、余則曰、一日讀歷史、三年長道心。川田瓊江曰、長道禍福之跡、詳於史、試觀於古今萬國之史、太剛者折、恃強者蹶、守柔者久、居弱者全、智小而謀大者敗、積薄而發驟者滅、養厚而蓄久者成、計密而慮深者存、驕傲自用、罔有不亡、虛己納諫、罔有不興、奉崇天道、福祥薦臻、器任人智、災害踵起、又曰、層々排列、不覺兵謀、庭約而言之、盛衰盈虛、如晝夜四時之迭至、吉凶禍福、莫非善惡邪正之應、而萬不誤一矣、蓋史者、與易相爲表裡、而易理深奧、淺學難窺、至于史、則事蹟昭然、易得而見、其所以下防邪思而長道心者、實具於其中焉、余之作是言、夫豈苟乎哉、岡本章庵好讀

文學雜誌 第三拾貳號

書、善文辭、足跡遍海內。乘槎而西。歷古齊魯。過涿泗之鄉。吊楚漢故跡。既歸而閑居。索落意少。所合。遂著萬國史記。屬余以叙。余因理前言。以冠其首。冀世之讀是書者。有以長其道心。而驗余言之不誣也。又曰。歷齊魯涿泗。吊楚漢故跡。暗應三日讀歷史。而閑居處。痕跡。索落與看除目。反映遂說。到長道心。結構布置。妙在下不見處。

○爭競と和睦とノ論

全

余今日コ、ニ於テ談論セント欲スルモノハ、爭競と和睦と并ビ行ハレテ、一身一家、一國天下ノ情形ノ日新日進スルノ事理ナリ、争ノ字、善キ意味ニ用フルモアリ、惡キ意味ニ用フルモアリ、忿争ヤ争奪トイフ時ハ、惡キ意味ナリ、父有争子則身不陷于不義ナド、イフ時ヤ、又ハ諫諍ナド、イフ時ハ、固ヨリ善キ意味ナリ、争競トイフ如キハ、善キ意味ニモ、惡キ

意味ニモ、ソノ争競スル人ノ心ニ從ツテ、イヅレナルナリ、何ノ事業、何ノ地位ヲ論ゼズ、競フテ先チ争ヒ、他人ヲ推倒シ、蹴倒サント欲シ、飽マデモ、相手ヲ惡ミ、幸ニシテ勝バ、則チ己レ自ラ驕慢ニナリ、不幸コシテ負レバ、則チ相手ヲ嫉妬ス、カクノ如キ争競ノ心ハ、惡意トイハザルヲ得ズ、之コ反シテ、文藝ナリ學術ナリ商賈ナリ官途ナリ何ナリトモ、己レノ職分ヲ盡シ天賦ノ才徳ヲ發達スルノ主意ヲ以テ、世路ニ馳驅シ人海ニ揚帆シ、己レ肯テ人ノ後ニ落ツベカラズト、争競シテ進取シ、以テ一身ヲ善クシ遂ニハ社會ヲモ善クセント欲スル所ロノ争競ハ、誰カ之ヲ惡意ニ出ヅトイフヲ得ンヤ、善意ニ出ヅルモノトイフヲ、萬口一辭ナルハ勿論ナリ、然レバ争競ニ、善アリ惡アリトイフベシ、他言ヲ以テイハバ、公私ア

リ小大アリ明暗アリトイフモ可ナリ、正トイヒ明トイヒ公
トイヒ大トイフハ、善ノ部内ニ屬ス、私トイヒ小トイヒ邪ト
イヒ暗トイフハ、惡ノ部内ニ屬ス、抑モ争競ノ惡キモノハ、余
ガ今日論セント欲スルノ主意ニ非レモ、争競ノ善キ者ト比
較シテ言ハシテ、争競ノ惡キ者ハ正大公明ナラズ、一時成就ス
ルモ、其事決シテ廣大ナラズ、繼續スルコト久シカラズ、蓋シ忿
戾ノ氣多ク、自己ニ注意スルコト疎ニナリ、他人ヲ顧ミル意ノ
爲ニ、自己ノ心手ニ透間出來ルコトナレバ、争競ノ善キ者ニ愈
ルコト難キ道理ナリ、争競ノ善キ者ハ自己ニ注意スルコト周密
ニシテ、只、一心不亂ニ己レガ天與ノ職業ヲ盡サント欲スル
コトナレバ、内視ノ意多ク、外顧ノ心少ナク、或ハ全ク無キコト
、眼前ノ一刻ヲ空シク費サズ、手ニ到ル小事ヲ觀ンセズ、手

元ニアル職業ヲ勉強シ、遠ク明日明年ヲ妄想セズ、其身ヲ取
リ圍ム艱難ニ耐ヘ、許可ヲ良心ニ求メ、佑助ヲ上天ニ求ム、其
心大、其志壹、其量廣、其膽剛ナリ、カクノ如キ人ト争競スルコ
トハ、善ノ又善ナル者ニ非ザレバ、ソレ豈之ニ勝ツコト得ンヤ、
争競ノ時ニ當ツテ、他人ヲ顧ミル者ハ必ズ負ク、コレ他ノ故
ニ非ズ、他人ニ氣ヲ付ケ目ヲ屬スル間ニ、己レノ手が留守ニ
ナリ、彼ノ一生懸命ニ自分ノ事ニ骨折ル人ニハ負ル道理ナ
リ、昔シ、何カノ古書ニテ見タルコトアリ、或日ノ合戦ニ、敵ハ負
ル味方ハ勝トイフ勢ニナリタル時、敵ノ兵車ヲ追ッ駈ケタルニ、
逃レルコト早クシテ追付ガタシ、然ルニ敵ノ御者、後ヲ振り返
リ見タレバ、味方ノ追フ兵車ノ御者曰ク、追付ンコト必セリ、彼
ハ後ヲ顧ミタリト、余毎ニ人力車ニ乗ルニ、人力車夫ガ、ノロ

ノロト曳キ居ル時ニ、後ヨリ人力車が、ガラガラト近ツキ來レバ、急ニ速クナリ、争競心起ツテ、奮發力出ルナリ、カクノ如キ場合ニテ、強キ車夫ナラバ、後ニ頓着セズ、ヅンヅント先ニ走り、遂ニ追付カレザルモノナリ、弱キ奴ハ、弱キクセヨ、又タ瘦我慢テ、後ノ車が右ヨリ越ントスレバ右ニ塞ガリ、左ヨリ越ントスレバ左ニ塞ガリ、以テ後車ヲ妨ゲ、先ダ、シメズ、サテ狭キ路盡テ廣キ大道ニ至ルト、後ノ車ニ遂ニ超乗セラレタリ、嚮キノ妨ケタル何ノ益アラシヤ、争競ノ惡キハ即テ争競ノ拙ナキナリ、争競ノ小ナルモノナリ、コレヨリ轉ジテ争競ノ善ナル者ハ、實ニ邦國ノ文明ヲ進ムル所以ニ於テ、少ナカラザルヲ言ハシ、夫レ人生ハ大戰場ナリ、亦大樂園ナリ、若ハ樂ヨリ生ジ、樂ハ苦ヨリ産ス、靜ハ動ノ極ナリ、動ハ靜

ノ根ヲリ、古今宇宙ノ歴史ヲ觀ヨ、亂レテ治マリ、治ツテ亂ル、戰ツテ和シ、和シテ戰フ、コノ二ツノ者ハ、皆至上造化主ノ冥々ノ中ニ之ヲ默運轉變ナサシメ、以テ人類ヲ次第ニ修繕上テ新ナラシムルモノナリ、近ク一家ヲ言ハシ、妻子好合如鼓瑟琴、トイフヤウニ和睦スルハ宜シケレド、徒ニ婦子嘻々トイフガ如ク、ゲタゲタト、笑フバカリニテハ、ソノ家ノ幸福トハイフベカラズ、夫ハ外ニ出デ、稼キ、婦ハ内ニ居テ働ラキ、互ニ負ケズ劣ラズト競ヒ、以テ兒子ノ教育モ出來ルヤウニ、ソノ家ヲ可ナリニ富スコソ、幸福トハイフベケレ、夫婦共ニワレ勝ニト競ヒ、汗ヲ出シテ甘キモノヲ得、身體ヲ勞シテ精神ヲ樂シマシム、勞苦争競スル晝間ハ、人生ノ戰場ナレド、夜中夢安ク、毎曉寐覺ノ善キハ、豈人生ノ樂園ニ非ズトイハシ

ヤ、コレハ家中夫婦ノ相爭競シテ和睦スル形狀ヲ言タルナリ、又國ヲ言ヘバ、政論ノ黨分レ、爭競シテ和睦スル者ハ、ソノ民、日ニ文明ニ進ミ、ソノ國、必ズ強シ、必ズ福ナリ、縱ニハ守舊黨アリ急進黨アラソコ、コノ二ツノ者、何レモ眞理ノ一半ヲ持テリ、特ニ時勢ニ因テ偏輕ノ差ヲ生ズルナリ、又老人アリ少年アリ、老人ハ持重ニ過ギ、或ハ機ヲ失シ、少年ハ進取ニ勇ニシテ或ハ事ヲ誤ル、然ルニ老少トモニ皆一段ノ好處アリ、故ニ新舊老少、相ヒ爭競シテ相ヒ交和シ、以テ中正ノ處斷ヲ得ベシ、コノ類一々枚舉ニ遑アラズ、水火ヲ見ズヤ、潤下炎上、其性全ク相ヒ反ス、然レモ水火ノ間ニ、金屬ノ器、之ガ中保ヲ爲スルハ、米ヲ炊キ、湯ヲ沸シ、或ハ蒸氣ヲ作り百般ノ功用ヲ做セリ、水火ノ爭競ヲ妙用シ水火ヲ和同セシメテ、人世機關

ノ王(蒸氣機器)ヲ作りタリ、一身一家、一國モ亦然リ、人々ノ爭競心人々善ク之ヲ用フルルハ、百工藝業、日ニ良善ニ進ミ然シテ互ニ相ヒ和睦愛敬スベク、以テ我國ヲシテ文明日ニ進ミ、東方君子國ノ名ニ負カザラシメ、又遂ニハ他國ノ文明富強ト相ヒ爭競シテ、ソノ後ニ落ザラシメ、ソノチコレ吾カ今日ノ聽衆ニ望ムトコロナリ、

○上帝說

植村俊平

西教有言曰、上帝創造大地、懸之於大虛、而未_レ有_レ光也、故懸_二日月星辰_一以照_レ之、於是晝夜始別、而地上空茫無物也、故備_レ之以_二風雨霜雪禽獸草木之類_一、於是大地之體始成、而后造_二成人類_一、使_レ之得_二生息於地上_一、此說可信乎、曰、不可也、如_上上帝創造天地萬物、而後生_二人類_一云、固非_二有_レ人而傳_レ之、又非_二有_レ文字_一而記_レ之、即不過_下後世之

人推測其狀態、姑立附會之說而已矣、或曰、上帝何為哉、大地之運轉、日月星辰之照、風雨霜雪禽獸草木之備、人物之終始、是皆出於自然之理、上帝何所與乎、此說可信乎、曰否、吾知其決不可信也、夫如地球之運轉、萬物之具在、人畜之生死、有一定之理、而天地者譬如一大機器、不可無使用之者也、上帝之形不見于目、其聲不聞于耳、聖賢之明、不能窺之、帝王之貴、不能致之、然而其靈妙之力、填充宇宙之間、自人物之始終動靜、以至寒暑風雨之變、一塵細屑之微、凡宇宙間事物、無一不由其主宰者、今夫舟車之行、人皆知其非自動、何則舟車者死器也、風馬者活力也、無活力之使之之、則死器終不可自動也、大地之運轉、何以異焉、亦在活力之使之之也、夫知大地之運轉、非其自為、則可知人物之死生消長、禍福壽夭之因、寒暑風雨之變、皆出于上帝之為也、或曰、然

則天地萬物、非上帝造之乎、曰、不然、創造之在上帝、固勿謂也、然人智唯可推其創造之功、而不可知其次第也、故西人之說創造是也、語其次第妄也、

教下生 吾妻升 頓首、敬字先生帷下、右一篇、中年察生徒植村某所作、自去秋特設作文科來、生徒靡然趣之、至今其文往往有可觀者、如是篇即其一、雖非曰優等、而理確辭達、自備一文體裁、以其為升之所授讀、叨不自謏、正其尤不可者二三、繕寫以進焉、區々之心、竊冀先生自愛其薰陶之效、驗育才之實、若以為可取、幸賜筆削、使得充文學雜誌、庶足以為獎勵之一助、

○英人ノ話ヲ記ス

東條世三

英京倫敦ニ一園アリ、世界萬國ノ珍禽異獸、大小トナク、猛馴

トナク、皆此處ニ飼養ス、園中ニ丘陵アリ、藪林アリ、圃河之ヲ
繞リ、遊舟之ニ浮ビ、尤モ佳勝ノ處ト稱ス、一日一箇ノ運漕船
アリ、許多ノ「スピリット」酒ヲ積ミテ、コノ圃河ニ漕ギ來リケル
ガ、其船手過テ煙草火ヲ點セシカバ、忽ニシテ、數多ノ酒樽、一
時ニ破裂シ、其響キ天地モ爲メ崩ル、カト思フハカリニテ、
圃中鳥獸ノ廬宇、搖リ倒サル、モノ少カラス、百鳥四方ニ飛
散シ千獸東西ニ奔逸シ、擾亂煩雜、言ハン方ナカリキ、時ニ一
猿猴アリ、東走西馳、同シク狼狽シ居タリシカ、忽チ思附キ、イ
ヤ斯クアルベキ時ナラス、抑モ獸類ノ帝王ト稱セラレ、此圃
中ニ於テ、最モ尊重敬畏セラル、モノハ、獅子公ニ非スヤ、吾
曹小民、直ニ往テ其安否ヲ問ハサルヘカラスト、且ツハ憂ヘ、
且ツハ懼レ、獅子ノ居ニ馳セ至リ見ルニ圖ラザリキ、公ハ駟

睡熟眠、毫モ之ヲ知ルノ狀ナシ、於是、猿猴、獅子ノ座近クヘ進
ミ、大聲ニテ、起ヨ、公、コノ大震動ヲ知ラズヤ、コノ大騒動ヲ覺
ヘズヤト、呼ビ立テケルニ、獅子始メテ眼ヲ開キ、泰然トシテ
曰ク、何ッ狼狽スルノ甚シキ、何ニ事ノ起リタルニヤト、猴大
聲ニ對テ云ク、ソハ他事ニ非ス、過刻、非常ノ震動アリ、山嶽モ
崩レ、河海モ裂ケントセシニ打驚キ、公ガ安否ヲ問ヒ奉ラン
トテ來リシナリト云ヘハ、獅子冷笑シテ曰ク、子ハ響ヲ聞テ
驚懼スト云フカ、何ッ怯懦ノ甚シキヤ、抑モ英國ノ響キタル、
余ニ於テハ、甚タ珍ラシカラヌ事ト思ハル、請フ坐シテ暫ク
余カ言ヲ聽ケ、試ニ觀ヨ、當國人民、常ニ相ヒ語テ曰、我女皇帝
陛下ハ至賢至明、古今万国未曾有ノ明君ナリ、女王ゾイクト
リアノ管治シ玉フ版圖ハ、日ノ没スルヲ見ズ、ナド、張大ニ

言ヒ立ツレハ、世界ノ廣キ、万国ノ多キ、グイクトリアト雖モ、
一婦女ニ過ギス、何ソ獨リ之ヲ明君ナリ、賢主ナリト言フナ
得ンヤ、是所謂英國ノ空響ニシテ少シクモ驚クニ足ラス、少
シクモ懼ル、ニ足ラサルナリ、又當今グラットストン氏ノ如
キハ、英人ノ囂々稱賛スルトコロニシテ、天下第一等ノ人傑
ノ如クニ思フモノアレハ、眼ヲ開テ天下万国ノ景況ヲ熟觀
セヨ、日耳曼ニハピスマルク氏アリ、米國ニハ格蘭ト氏ア
リ、聲名赫々、宇内ニ轟クト雖モ、是亦タ英國ノ虚響ニ異ナラ
ス、其ノ他、朝トナク、夕トナク、港口ノ邊ニ爆發スルモノハ、船
艦ノ往來ニ放ツトコロノ空砲ナリ、何ソ虚響ノ爲メニ驚嚇
セラル、ヤ、子モ亦少シク沈思默慮スル所アレ、猿カ曰ク、實
ニ然リ、實ニ然リ、公カ言ノ如ク、當國ノ空聲怪ムニ足ラスト

雖モ、今ノ響聲ハ「スピリット」ノ破裂セルモノニテ、實ニ常ナラ
サル音ニテアリキ、獅子之ヲ聽テ悟レル色アリ、掌ヲ拍テ嘆
ノ曰ク、嘻「スピリット」ノ破裂セルニヤ、果シテ然ラハ、例ノ虚響
ニハ非サルヘシト、

譯者曰ク「スピリット」ハ英語酒精ノ義ニシテ、又精神ノ義ア
リ、獅子「スピリット」ノ破裂スト聞テ、釋然悟ルトコロ有リシ
ハ、英人古來ノ虚榮ヲ棄テ、一時ニ精神ヲ擡揮スルヲ喜ブ
ノ意ナリ、獸類尙ホコノ嘆アリ、万物ノ靈タルモノ、之ヲ聞
テ、豈ニ奮勵興起セサル可ケンヤ、

○送中島君之北京

中村敬宇

人之情思見于言、言之精者見于文、識文字而通言語、始得談笑
共樂、群我邦兒童學漢學、壯者筆陣掃千軍、及其與清人相接、有

明治十二年第八月二日發兌

磐溪大槻先生墓表

中村敬宇

自得堂文鈔序

全

早起說

柳澤信大

政體論

吾妻兵治

讀磐翁文鈔

信夫恕軒

譯詩十五首

吾妻兵治

詩二首

中村敬宇

同人社文學雜誌

第三拾四號



- I Virtue is bold, and goodness never,,
"fearful.
- II Still waters are usually the deepest.
- III Forgiveness is the noblest revenge.
- IV The tongue must not run before,,
"the mind.
- V That which was not honest could
"not be truly useful.

- 1. 仁者有勇、善人無懼
- 2. 深淵之水常湛靜
- 3. 寬恕報讎之最貴者也
- 4. 勿使舌先心而馳
- 5. 事不出於正者、不為寶益

○磐溪大槻先生墓表

中村敬字

先生諱清崇、平姓、大槻氏、字士廣、號磐溪、通稱平次、考諱茂質、稱玄澤、仙臺藩醫員、實為我邦蘭學者之祖、先生學于昌平蠻十年、後歷遊東海畿內、及長崎、下筆敏妙、才華富贍、為中外名流所推重、其客京師也、賴山陽延之於山紫水明樓、對酌論文、山陽於人少許、可特奇先生才、一見如舊、世傳為佳話、天保壬辰、先生三十二歲、藩侯擢列儒員、以季子別起家、住江戶、為侍講、弘化嘉永間、先生夙講西法砲術、究其蘊奧、闔藩師之、嘉永癸丑、米國使節伯理始至、先生建議、主張開港、是時議者多主攘夷、朝野嚮々、人或為先生危之、先生夷然、文久壬戌、移于仙臺、為養賢堂學頭、尋致仕、明治戊辰之亂、與羽諸藩、合從舉兵、仙臺為之盟主、起先生司

軍國文書事及事敗、以此下獄、既而被赦、時年七十、辛未復住東
京、文酒談讌、優遊自適、世以騷壇老將目之、戊寅六月十三日病
歿、距其生享和辛酉五月十五日、得年七十八、葬于高輪東禪寺、
先生軀幹長癯、性情真率、奉公謹慎、持身清儉、與人藹然、可親、然
至論大事、則侃侃有不可回者、天才清絕、晚年詩文、歸于簡淡雅
潔、嘗曰、吾讀經、自抉出手、眼、文章、則有得于葛西、因是松崎慊堂、
詩、則有得于梁川星巖、其推重前輩、而不高自標置、如此、著有孟
子約解、古經文視、近古史談、寧靜閣詩文集等數十種、配大野氏
長子修二、次文彥、各成家、二子以下、余與先生有舊、請表其墓、先生
事蹟、具載家傳、茲揭其大要如此、

重野成齋評、簡淡雅潔、與磐翁晚年詩文同歸、
川田夔江評、磐翁爲人、洒洒落落、絕無道學先生自重修飾之

態、此篇輕々著筆、寫出其狀、何等工妙、敬々服々、

○自得堂文鈔序

全

信濃入生野子慶、寄示其所著自得堂文鈔、徵余序、曰、欲得下文壇
執牛耳者、一言、吁、余非其人也、然而知己之請、有不可辭者、蓋文
章之道、與人之立品、同有所自得於中、而後發見于外、故能傳世
而不朽、古之善文章者、無非由是道也、吾觀世之人、大率不務出
於此、以爲可襲而取、故極力摹倣古人、謂文如此而足矣、嗚呼、縱
令幸而成、不過過古人、再出、求其自得于己者、蕩然毋有也、尙何望
其能傳于世哉、今子慶之文、直抒其所見、不顧世人毀譽、其成于
卒然者、亦皆發於自得之餘、雖以良齋爲師、無一句似良齋、夫文
如此、豈有不傳者乎、而亦足以知子慶之人品矣、余年三十餘、遊
于海外、閱時世之變、奔走風塵、不能多讀書、偶有所作、獨抒胸臆、

而已、不復違摹擬古人、然而、人或不答余狂悖、乃如子慶者、謬以序見托、儻有下一二近于文章之道者耶、培本而潛源、深造而自得、願與子慶益勉之、

重野成齋評、不務本、而欲襲取之、今時文人之弊、一言道破、又評、縱令幸而成、不過古人再出、名言不磨、

○早起說

柳澤信大

早起ヲバ人莫不善之者、而實行之甚難、何者、晏眠加一時之快、而若無大害者、然每日所得之時與所失之時、在一生間、其爲差甚大矣、每日二十四時中十六時間寤而勞作、八時間寐而休息、是爲人之常習、每年三百六十五日、若勉強之人每日勞作加一時、休息減一時、則於一年中長三百六十五時、便是十六時爲一日、而得勞作二十三日也、今姑以人之一生爲四十年、而因勤惰或增

焉、或減焉、夫一日八時間休息者、一年得三百六十五日也、故一生享四十年矣、九時間、則一年得三百四十二日也、故一生享三十七年半矣、若十時間、則一年得三十九日、而一生僅享三十五年而已矣、反之、減一時、則一年得三百八十八日也、故一生享四十二年半矣、若更減一時、則一年得四百十二日、而一生享四十五年矣、由是觀之、一日二時之加減、於一生之際、爲五年之得失也、五年之久、而未足以爲許多事業、歟、若夫一生之畢、忽然多得五年、則豈可不爲一事而止乎、ナシテ蓋試一思焉、

○政體論

吾妻兵治

夫政體者爲政之大本、所以維持邦國、統治生靈、可不慎哉、亂邦衰國之民、創板蕩、否塞之餘、動變更其政體、而反速亡滅者、世往々而有焉、此不知本之禍也、蓋嘗論之、政體之類不一、而君治民

治爲之要領、此俱根祇于建國之情勢、確其不可易也、至如專制アリツテツドアリストクラシ立憲、侯權之比、則其支派節目、從時勢沿革者而已、要政理之道、在下于由其不可易者、利導之而止耳、今且以彌理堅、法朗西徵之昔英、信利王侵虐異教之民、無所不至、其徒不堪命、率家累及親黨、出奔絕域、披草萊、墾荒野、協同和輯、相俱爲全身奉教之計、而閱年之久、戶口蕃衍、事物漸備、以至於創建彌理堅聯邦、其嘗爲英王之羈屬者、出於勢之不得已、而其終離叛、以樹民治之制者、乃復其天然之勢也、是故雖時有奸兇、運有否泰、未嘗有謀轉其舊制、以起君治政者、猶本邦開國而來、曾無異姓之朶、頤神器者、此所以其政體之適國勢、協民情、而國威益振張也、如法朗西則不然、其開國之初、固已有君主統治之者、爾來因襲、自成君治之制、至西曆一千七百九十一年、一旦弑其君路易王、始起民治

政、從是僅々數十年之間、兩政迭興、展轉反覆、凡至七八、而今也實爲民治政、然而物情常不穩、如聞所謂拿破翁黨者、方稍長勢、欲意者、政體之變動、又將發于近也、議者多云、法國之政、非終復其舊、治安決不可得矣、此所以其乖建國之勢、致喪亂不息也、公輸不下撓規矩、以作方圓、師曠不下變六律、以正五音、唯慎其所由、而後巧聘從焉、譬之用兵、勝于得其道、而敗于不得其道、非兵之不同也、所用之異、則勝敗判焉、彼政體何以異於此、亦在下于慎其所由、而用得其道也、已、彼法國者、歐洲之大邦、制度文物之盛、稱雄於宇內、尙且不免于懲噎而廢食之禍、況其下於此者乎、今也西法日行、政治之論、頗藉々于朝野之間、則我邦之政、益完全周備、遂至於爲宇內諸邦之所矜式、亦可以庶幾也、世之論政者、先審其所由、然後講制宜、投可之道、乎、國家之利、將有不可勝言者也、

不然、生民之大患、豈待_レ求_二于敵國外患之遠乎哉、

此篇係_二客歲季冬所作、如其言拿破翁黨云々、稍有與_二現今形勢不相符者、看者幸諒焉、自記

○讀磐翁文鈔

信夫恕軒

憶昔從_二磐翁師于采女原、寧靜之閣、晡時侍酒、縱_二譚古今詩文、以為常、嘗曰、余年甫十六、始作文、請_二正葛西、因是一閱、曰、前程可期、後西遊、示_二賴山陽、山陽亦批曰、後來有望、前程可期、後來有望、豈不一雙佳聯乎、吾今讓_二汝其一也、音三溪曰、好典故、又曰、磐翁言已在_二二十年前、客歲訪_二鶴梁老人于麻溪、老人以文自任、目下無人、余乃出文稿于懷、老人就_二其中讀_二一二篇、曰、善、自今二十年後、亦莫_二說_レ我者、吾子勉焉、又曰、伯樂一顧、良馬增_レ價、不啻幾萬金、余曰、方今以文名家者何限、以翁觀_レ之、誰為_二巨擘、老人顛頭曰、無々、余強問_レ之、乃曰、

安井息軒之嚴而爽、大槻磐溪之清而快、惟其是爾、而磐溪則紆餘、淡岩風致有餘、最不易及焉、又曰、評_二磐夫鶴梁、齡過古稀、脾_二睨、一世於文、少_二許可、而其言如此、山陽因是、既評_二之於五十年前、其言如彼、則磐翁師之文之月旦、於是乎定矣、今茲戊寅、老人與師相踵_二溢逝、哀哉、嗚呼、余年已過_二不惑、百事無成、碌々偷_二生於蠹卷間、追_二懷其盃酌、提_二耳之勤、其能無愧乎、適讀_二其文鈔、慨然記_レ之。

中村敬字曰、此篇風致有餘、徘徊賞_レ之。

成島柳北曰、此文亦紆餘、淡岩風致有餘。

菊地三溪曰、公文章之美、世業已有_二定價一矣、今移_下評_二磐文之語、以評_二公之文、恐不_レ為_二溢美一也。

○譯詩

ヒーマンライフ
人生

吾妻兵治

ベレイ

吾人ハ事業ニ生存シテ歲月ニ生存セズ、思索ニ生存シテ呼
吸ニ生存セズ、感悟ニ生存シテ日晷ノ數字ニ生存セズ、吾輩
當ニ心臓ノ動氣ヲ以テ時刻ヲ數フヘシ、蓋シ人思索スル者
極メテ多ク、感悟スル者極メテ高尙ニ、行事極メテ善良ナル
ハ、誠ニ善ク生存スト謂フベシ

全

ドッドリッ

庸俗小人毎ニ曰フ、存命ノ間生存ス、須ラク當日ノ快樂ヲ取
ルヘシト、牧師カ曰ク、存命ノ間生存ス、須ラク、閒時ヲ將ニ逸
シ、去ラントスルニ操テ、盡ク上帝ニ献委スヘシ、蓋シ禮拜ニ
從事スレハ、則チ快樂ヲ覺フ、是レ一舉兩得ノ道ナリ、
人ハ一生ハ宛モ一部ノ歴史ハ如シ、日數ハ其枚數ナリ、日常

全

ジョン、マスソン

行爲ハ其文字ナリ、上帝ハ褒譽ハ其題号ハ如シ、

以レ善報レ惡

ナルロット

殘害ノ行人ニ發シテ仁愛ノ行ヒ方ニ我ニ作ル、凡ソ勝利ニシ
テ最モ光榮アリトスル者、天下コレニ勝ル者アラズ、

自足

シェーキスペイア

我カ冕旒ハ(帝王)吾ノ胸中ニ在リテ頭上ニ在ラズ、金剛石ノ
飾、梵石ノ粧アルニ非ラズ、見レモ觀ルヘカラズ、捕フレモ操
ルヘカラズ、之ヲ名ケテ「コン」ト「ノ」ト「自」ラ「足」テ他ト曰フ、是レ
ハ此ノ帝王ハ享有セザル一種ハ尊器ナリ、

行善

セネカ

善ヲ人ニ施ス者ハ亦必ズ善ヲ己ニ施コス、之ヲ行フガ爲メ、
シテ行フ、專ラ其報應ヲ望ムガ爲メニスルノミニアラズ、蓋シ

自ラ其善行タルヲ知ルハ莫大ノ賞報ナリ、

娛樂

ボルンス

娛樂ハ譬ヘハ豊粟花ノ如シ、小シク觸ルレバ輒チ解散ス、又雪片ノ水面ニ降ルガ如シ、瞬間ノ頃ニ皓々シクテ、無窮ノ久キニ漸消ス、

人事之潮水

シエーキスベイア

人事ノ中ニ潮水アリ、其汎濫洋盪ノ際ニ乗スレハ、以テ福運ヲ致スヘシ、乗ゼザレバ、則チ終身ノ航行ハ、都テ淺灘ノ中ニ、間關セシ、故ニ務メテ流勢ヲ注視シ、其當ニ用ユベキノ時ニ、依ラザルベカラズ、依違顧望スレバ、則チ冒險投會ノ機ヲ失フ、

卑賤之幸福

全

微賤ノ家ニ生レ、自足ノ賤人ト相ヒ伍スルハ、夫ノ炳耀タル憂愁ニ粧飾シテ、黄金ハ哀痛ヲ被ルニ勝レリ、

力勤

フランクリン

怠惰ハ萬事ヲシテ重難ナラシメ、力勤ハ萬事ヲシテ輕易ナラシム、晩ク起ル者、疾行セズンバアルベカラズ、而モ尙ホ夜ニ入テ課業ヲ卒フルニ甚タ希レナリ、偷懶ナル者、徐行緩歩、早ク既ニ貧鬼ノ爲ニ追及セラレ、

良心

フォルレル

爾唯一己ヲ懼レヨ、爾ノ良心ヲ除クノ外、曾テ他物ヲ懼ル、勿レ、人皆己ノ行爲ヲ監察スル嚴密ナル警吏ヲ具有ス、此吏ノ裁決ヲ遵奉スル人ハ、必ず懺悔スベキ所業ヲ做ザルベシ、

全

ミルトン

明光ヲ其清淨ナル胸裏ニ具有スル人ハ常ニ中央ニ公坐シ、
晴朗タル日ヲ享ルヲ得ヘシ、若シ夫レ内ニ暗黒ナル心魂
ト、汗穢ノ思意トヲ包藏スル人ハ、白晝ニ夜行シ、其身ハ、即チ
自家ノ罔圖トナルナリ、

懶惰

吾春ヲ怠慢遊惰ノ間ニ消費スルヲ欲セズ、我當ニ吾壯年ニ、
花サキ、老年ニ果ヲ結ムベキ、良種子ヲ今日ニ蒔カザルベカ
ラズ、

貴人之憂慮

王公ハ名号ヲ以テ光榮トシ、内心ヲ勞シテ、外尊ヲ取ル、而
往々多事ニ苦シミ、憂慮世ヲ厭フニ至ル、由是觀之、其貧苦
賤民ト相距離ルヲ僅ニ外部ノ虛号ニ過ギズ、

自敬

信實ヲ自己ニ盡クセヨ、果シテ然ラバ、必ズコレニ繼テ人ヲ
欺キ得ザルニ至ルベキハ、夜ハ必ラズ晝ニ繼クガ如シ、

西人嘗譯廬陵醉翁亭記、有言、原文如玉、譯文如泥、夫異邦
殊俗、文思不同、趣、拘原書、則不成章、泥文、則悖于原意、是譯
述之通患、况今以庸筆、俚文、強寫泰西傑作、婉曲可喜、微奧
可味之詩歌、其爲泥、何足言、雖然、離群索居、不厭俗子之訪、
今也西學未洽、欲聞其說者、不爲寡矣、此文雖無可觀、苟遇
其人、則未必不當俗子之用云爾

自記

中村敬宇

○ 黃公度先生以絹囑繪於東京女子師範學校教員及生徒、
各經寫就、并綴俚言、伏希鑒政、

畫法來中夏、俊逸貴高雅、泰西巧寫生、但覺氣韻寡、有耕靄女史、能事兼二者、進境何可量、精神常傾瀉、婀娜女弟子、丰姿生筆下、相與繪羣芳、五色燦如也、嶺南黃贊府、下交情不假、徵畫感虛懷、因之各力寫、吾亦妄塗鴉、題詩愧庸野、工拙且休論、欲附騷人社、伴來奉到尺書並素絹、此詩此畫、可稱雙絕、將永藏篋笥、爲中子孫寶、豈第屏幃生輝已也、詩稱耕靄女史、兼中東西能事、果然不謬、畫家有南北合法、今更上一籌矣、乞先寄聲致謝、容下日將覓土物、附以拙詩、親詣學校謝之、梅雨連綿、涼燠不定、惟珍衛爲禱、卜日當偕二三友人、來觀學校、再圖良晤、不宣、

中村敬宇先生左右

○浪華記行題辭

黃遵憲頌首 清人

翠堂老人我夙好、六旬矍鑠盛容貌、有子襟堂盡孝養、果然善人

受善報、郎君才俊官裁判、浪華大府足奏效、暑天得暇來江都、一堂聚首交歡笑、父子爲伴至京攝、遍訪名山搜古廟、亦遊泉播觀戰場、晴則曳杖雨則橋、欲察情況詢風俗、非是醉狂恣嘯傲、我驚老人氣力健、把筆記之曲折到、題言見徵豈得辭、此書可知郎君孝、

編輯長兼印刷人 吾妻兵治

官准明治十二年四月

每月二回發兌

東京小石川江戸町十八番地

本局同人社

所	捌	賣	賣印	賣配
東京芝日影町一丁目一番地 永盛堂池田	阿州德島中通町貳丁目 坂井萬吉堂	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	東京小日向第六天町同人社外塾 達兼 東京兩國藥研堀町三十三番地
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 珊瑚閣	甲府八ヶ町壹丁目 河內屋眞七	同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 富士屋金十郎	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	東京神田美土代町四丁目 立花屋作太郎
大坂心齋橋通道修町 報知社支局	武州熊ヶ谷 本町 內藤傳右衛門	同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 富士屋金十郎	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同虎ノ門外琴平町二番地 靜霞堂
全 本町四丁目 報知社支局	阿州德島中通町貳丁目 坂井萬吉堂	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同春木町三丁目 中屋民次郎
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 珊瑚閣	東京芝日影町一丁目一番地 永盛堂池田	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 九番地 中屋民次郎
大坂心齋橋通道修町 報知社支局	同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 富士屋金十郎	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 深野彌兵衛
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 珊瑚閣	武州熊ヶ谷 本町 內藤傳右衛門	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 中屋銀次郎
大坂心齋橋通道修町 報知社支局	阿州德島中通町貳丁目 坂井萬吉堂	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 池田幸吉
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 珊瑚閣	東京芝日影町一丁目一番地 永盛堂池田	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 大橋佐平
大坂心齋橋通道修町 報知社支局	同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 富士屋金十郎	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 山野長兵衛
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 珊瑚閣	武州熊ヶ谷 本町 內藤傳右衛門	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 越後國龜田町二十七番地 佐々木儀平
大坂心齋橋通道修町 報知社支局	阿州德島中通町貳丁目 坂井萬吉堂	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 東京芝新櫻田町十一番地 新井源吾
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 珊瑚閣	東京芝日影町一丁目一番地 永盛堂池田	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 越後長岡 池田幸吉
大坂心齋橋通道修町 報知社支局	同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 富士屋金十郎	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 同所 越後長岡 池田幸吉
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 珊瑚閣	武州熊ヶ谷 本町 內藤傳右衛門	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 同所 越後長岡 池田幸吉
大坂心齋橋通道修町 報知社支局	阿州德島中通町貳丁目 坂井萬吉堂	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 同所 越後長岡 池田幸吉
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 珊瑚閣	東京芝日影町一丁目一番地 永盛堂池田	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 同所 越後長岡 池田幸吉
大坂心齋橋通道修町 報知社支局	同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 富士屋金十郎	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 同所 越後長岡 池田幸吉
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 珊瑚閣	武州熊ヶ谷 本町 內藤傳右衛門	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 同所 越後長岡 池田幸吉
大坂心齋橋通道修町 報知社支局	阿州德島中通町貳丁目 坂井萬吉堂	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 同所 越後長岡 池田幸吉
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地 珊瑚閣	東京芝日影町一丁目一番地 永盛堂池田	同室町三丁目中外堂	同本町三丁目洋書問屋 瑞穗屋卯三郎	同牛込肴町 同所 越後長岡 池田幸吉

明治十二年第八月二十九日發兌

活法經濟論
支那論
記替僧事
徵稅ノ増加
雜說一

中村敬字
同
望月 綱
東直之介
吾妻兵治

同人社文學雜誌

第三拾五號



- I Envy shoots at others and wounds herself.
 II Men give nothing so liberally as their advice
 III A good conscience is the best law.
 IV A good cause makes a stout heart.
 V Guilt ever carries his own scourge along ;
 virtue, her own reward.

1. 嫉妬者欲射人而自中傷
 2. 人之不惜施予者勸戒也
 3. 良心即極善法律
 4. 好舉使人心一剝剛
 5. 篋楚常隨罪過之所之
- 褒賞必陪德行之後

文學雜誌第三十五號

○活法經濟論序

中村敬宇

二宮尊德翁以經濟名于世。常語人曰。禽獸之有爪蹄者。皆知爪向內焉耳。唯人則能以指爪撥向外矣。翁之爲此言。其意蓋曰。禽獸知取物于己。而不知予物於他。人之所以異於禽獸。在于能取能予。能積能散而已。嗚呼。可謂能近取譬矣。翁一生行仁善之事。勤儉致富。又好賑給貧民。結報德社。率先行良法。及門之士。化其厚德者不少。而如遠江岡田氏父子。其表表者也。父無息軒功德著于世。子廉夫續其師父之志。務行善事。近著活法經濟論。余讀之。有感于其立論著實明白。發於誠心。成于多年研究之後也。如其曰。人人宜甲餘四分之一。爲開國資本。最爲方今必要之論。但貿易條中曰。宜定輸出之度。曰。賣米外人。價不厭低。則余之所容疑

也。要之。著書之旨。在于勤儉以富國。存贏餘以興產。使中人務其本業。而不逐末利。其裨世道。非細也。余願世人果能以指爪撥四分一向外。而不與禽獸同歸。則可得享福利于無疆矣。豈翅富國云乎哉。

○英人韋廉臣支那論

全

法國ノ理學者コウシン氏曰ク、何レノ國ニテモ、我若シソノ土地ノ情形ヲ聞キ得バ、我必ズソノ國ノ未來ヲ前言スルコト、龜兆ノ如クナルベシト、コノ言ヤ、我之ヲ支那ニ用ヒテ後來ヲ預言セントス

支那ハ、北緯十九度ヨリ起リ、四十一度ニ訖ル、東經九十七度ニ始リ、一百二十二度ニ達ス、コノ中ニ含メル土地、一百三十萬方里アリ、即チ八億(萬々チ億トス)三千二百萬アツレナリ

コノ中ニハ、種々ノ地味アリ、種々ノ氣候アリテ、一モ備ハラザルナシ、或ハ、法國白耳義ノ如キ高爽ノ地アリ、或ハ荷蘭ノ如キ卑濕ノ地アリ、或ハ瑞士ノ如キ亂山矗立ノ地アリ、滿州蒙古等版圖ニ属スル廣大ナル土地ヲ除キ、支那本土ノ中ニ在ル諸ノ山川澤藪ヨリ産出スルモノ、實ニ多ク、人生日用ニ供給スル者、求メテ獲ザルナク、取テ盡ルコトナシ、就中、礦物ノ採出スルモノ、最モ盛大ナリ、歐羅巴^{アラスカ}豪斯答拉ニ超過シ、亞米利加西部ニ頡頏セリ、一千八百七十一年、英國ニテ展觀場ヲ開キシ時、學士安斯迭^{アンズ}目錄ヲ作り、諸國ニ在ル所ノ煤炭坑地ノ廣狹表ヲ著ハセリ、ソレニ據レバ、大不列顛煤炭坑ノ地、一萬二千方里アリ、亞米利加合衆國煤炭坑ノ地、十三萬方里アリ、支那北省ノ煤炭坑ノ地、八萬三方里アリ、但シ北省ノミニシテ、

ソノ廣キカクノ如シ、支那南省ト西省トハ、コノ算内ニ在ラズ、

鐵礦ハ、十八省有ザルトコロナシ、而シテ各省皆多シ、其最モ驚クベキハ、支那ノ黑磁石坑(ブレツキマグネチツクナール)ナリ、世界第一等ノ礦トイフベシ、其他、金銀銅鉛錫、甚ハダ多シ、コノ五種ノ金屬、何レノ府ニテモ、ソノ一ヲ產出セザルナシ、水ニ由テ運漕スルノ便利ニ至リテハ、支那各地方、有ザルナシ、而シテ萬國コレニ超過スルモノナシ、人民ノ才智力量ヲ論ズレバ、支那人ハ、事務ヲ辨理シ、才能ヲ有スルヲ、彰々トシテ見ルベシ、フレデリツキ。普路士名曰ク、支那ノ大臣(廟議ニ參スルモノ)ハ、歐羅巴ノ何ノ國ニモ比肩シテ立ツナリト、實ニソノ言ノ如ク、支那ノ大臣ハ、我英ノ使

節ニ對シ、ソノ自己ヲ保テ失ナハズ、支那ノ商人ハ、我英商ト交易ヲ角シ、何ノ物ニ於テモ、損失ヲ取ラズ、毎ニ上流ヲ占メ贏利ヲ得タリ、文學上ニ於テ、ソノ智識聰慧ナルヲ、歐羅巴人ト異ナルヲナシ、支那書生ノ英米ノ學校ニ在ル者ヲ觀ルニ、高等ノ級位ニ達シ、榮名ヲ受ルヲ、何ゾ英米ノ書生ニ讓ランヤ、高尚ナル歐米ノ書籍ニ熟達スル支那人、既ニ少カラズ、洵ニ驚感スベシ、コ、ニ又尋常ノ民ヲ論ゼンニ、才智アリ、艱難ニ耐ヘ、辛苦ヲ事トセズ、我ハ支那ノ各地方ニ遍ネク遊ビ、日ニ益、支那人民ノ心智アリテ、規則ヲ好ミ、教訓ニ服遵シ、後來ニ望ミアルヲ稔知セリ、支那ノ言語ヲ論ゼンニ、支那ハ書字ノ言語アリテ、闔國ニ通ズベシ、口語ニ至リテハ、地方ニ由テ殊異アリト雖モ、官話ノ

一類アリテ、西ハ印度境ニ至リ、北ハ黑龍江ニ至ルマデ、皆通
ゼザルコナシ、而シテ官話マタ書字ニ書スルコトヲ得ルナリ、
教育ノ事ハ、全國ニ普及セリ、少年ノ心ヲシテ、德行ヲ修メシ
ムルコト、決シテ等閑ニ非ズ、蓋シ凡ソ國家ヲ幸福ニスル諸ノ
原素、一モ富有ナラザルナシ、蒸氣ノ用トナリテ、煤炭ノ盡ザ
ルアリ、機器ノ用トナリテ、鐵礦ノ盡キザルアリ、萬事ヲ規畫
スルニハ、人民ノ頭腦アリ、工事ヲ倣作スルニハ、人民ノ両手
アリ、而シテコレ等ノ上ニ超エテ、人民ノ心志アリ、以テ萬事
ヲ動轉シテ、自國ノ利益トスル者アリ、
嗚呼、土壤ハ肥沃ナリ、煤坑ハ、支那北省ノ外、西南ノ未ダ知ル
ニ及バザルモノアリ、コレニ加フルニ、滿洲ノ土地ヲ以テセ
バ、果シテ如何アヤ、蓋シ土地ノ肥沃コシテ廣大ナル、カクノ

如ク、人民ノ才智アリテ衆多ナル、カクノ如キヲ以テ、後來ヲ
算測スルニ、東方全亞細亞ヲ統括スル者ハ、支那ノ命運ニ歸
スベシト曰ハザルヲ得ズ、

コノ原本ハ「ジョールチース、イン、ノリス、チャイナ」トイヘ
ル二冊ノ書ニシテ、ウイリアムソン氏ノ著ハスモノナ
リ、一千八百七十年出版ノ書ナリ、余近エロ瑞穂屋ヨリコ
ノ書ヲ購ヒ得タリ、ソノ中ノ一則ヲ譯シテ、同好ニ示ス

○記替僧事

望月 綱

浦賀港有ニ一替僧。口技天成。鷄鳴狗吠。一作其聲。鷄犬皆應。其學
人語。對南人則南音。對北人則北音。南北人聞之。以爲眞南北人
也。然特不過叙尋常寒暄茶飯語耳。至下人生嬉瞋歌哭。種々情態。
如街官演史所陳說者。片言學不得。隻語曉不得。偶一爲之。語次

不倫。以故技終不售。日吹簫市上。爲人折枝以老。此誓蓋具唇舌。沒心肝。具唇舌。故尋常語可學。沒心肝。故言之。自肺腑發者。不可學。其一身不具。非特無目也。雖然世固存。并唇舌心肝而無之者。雖欲爲此誓。不可得焉。

○徵稅ノ増加

東直之助

專制政府ハ單ニ徵稅ヲ輕減スルヲ以テ出格ノ仁政ナリト誤認シ、其ノ臣民タル者モ亦タ特例ノ君恩ナリト妄斷シ、苟モ徵稅ヲ増加セントスル者アレハ、其目的ノ如何ヲ問ハズ、直ニ之ヲ評スルニ絞血ノ套語ヲ以テシ、虐政ヲ行フ者ナリトスルノ甚シキニ至リタリ、余輩ハ此ノ事實ヲ想回シ、當時ノ君民カ政理ニ暗キヲ弔セザルヲ得ザルナリ、專制政府ノ君主ハ自己ノ慾心ヲ満足スルニ汲々トシテ、公

衆ノ利益ヲ計畫スルヲ好マザル者ナリト云ハザルヲ得ズ、自己ノ慾心ヲ満足スルニハ、酒池肉林ノ豪華ヲ極ムルコアラザルヨリハ、徵稅ヲ輕減スルモ非常ノ痛痒ヲ感ゼズト雖モ、公衆ノ利益ヲ計畫スルニハ、事太タ多端ニ屬スルヲ以テ、徵稅ヲ已ムヲ得ザルニ増加セザル可ラザルナリ、專制政府ニシテ徵稅ヲ輕減スルヨリハ、自由政府ニシテ徵稅ヲ増加スルヲ以テ人民ノ幸福ナリトス、何ントナレハ、一ハ自己ノ慾心ヲ満足スルニ汲々トシ、一ハ公衆ノ利益ヲ計畫スルニ汲々タルガ故ニ、設ヒ納稅ノ義務ニ多少ノ別アルモ、私利是レ營ムノ政府ニ屈服スルヨリハ、公益是レ計ルノ政府ヲ奉戴スルノ幸福ナルニ若カサルノ實アレハナリ、且ツヤ自由政府ハ營業自由ヲ貴重スルガ故ニ、人民カ財產ヲ得ル

ノ方法ニ富メルヲ以テ、増税ノ爲メニ困マズト雖モ、專制政
府ハ營業自由ヲ牽制スルガ故ニ、人民カ財産ヲ得ルノ手段
ニ乏キヲ以テ、輕税ノ爲メニ窮ムルヲ免レザルハ、蓋シ數
ノ道レザル所ナリ、
徵税ノ昔日ニ輕キハ、其ノ政府ノ目的ハ、自己ノ慾心ヲ満足
スルニ過キザレバナリ、徵税ノ今日ニ増セルハ、其ノ政府ノ
目的ハ公衆ノ利益ヲ計畫スルニアレバナリ、然ルニ我國ノ
頑民ハ此ノ隆世ニモ拘ラズ、砲彈ヲ官兵ニ試ミ、白刃ヲ顯職
ニ刺ムカ如キ兇變ノ絶ヘザルハ、其源由太々多シト雖モ畢
竟其ノ政理ニ暗キカ故ニ、徵税ノ増加セルヲ皮相ノ其ノ目
的ノ如何ヲ問ハズ、我自由政府ヲ以テカノ絞血ノ虐政ヲ行
フ者ナリトスルニ由レリ、我政府増税ノ目的ハ即チ吾人公

衆ノ利益ヲ計畫スルノ目的ナルヲ悟了セシメバ、カノ砲彈
白刃ヲ弄スルノ頑民ト雖モ、ソノ前非ヲ慚悔シ、俄然ソノ固
有ノ良心ニ復ルベキハ余輩ノ信スル所ナリ、

我政府増税ノ目的ハ、實ニ公衆ノ利益ヲ計畫スルコアルハ、
已ニ前演セル如クナレトモ、公衆ノ利益ハ容易ニ得ラルベ
キ者ニアラズ、久遠ノ星霜ヲ經ルニアラザレバ克ハザルナ
リ、今日ノ計畫ヲ明日ニ結果セシメントスルハ、到底架空
ノ希望ナリト云フベキナリ、コノ故ニ増税ノ因ヨリ公利ノ
果ヲ得ントナラハ、久遠ノ星霜ヲ經ザルヲ得ズ、今日ノ如キ
ノ隆世ニ不長ヲ企ツル者ノ迹ヲ絶タザルハ、増税ノ目的ヲ
知ラザルニ由ルハ勿論ナリト雖モ因ヨリ果ニ達スルノ星
霜中ニ起ルノ困難ニ堪ヘザルニ出ツル者ナキニシモアラ

ザルナリ、

已ニ頑民ノ不良ヲ企ツルハ、我政府カ増税ノ目的ハ實ニ吾人公衆ノ利益ヲ計畫スルニアルヲ悟ラズ、又タ増税ナル源因ヨリ公利ナル結果ヲ得ルマデノ困難ニ堪ヘザルニ源由スルヲ知ラバ、此ノ目的ヲ悟ラシメ、此ノ困難ニ堪ヘシムルノ方策ヲ今日ニ建ツルハ、愛國志士カ政事徳義ノ兩點ニ於テ蓋シ避ク可ラザルノ責任ナリト云フ可キ也、是レヲ之レ顧ミズ、徒ニ頑民ヲソツノ非ヲ遂ケシメ、之ヲ率テ善ニ遷ラシメザルハ、寧ロ無情ノ甚シキ者ナリト云ハザルベケンヤ試ニ維新前後ニ兵備ノ精粗、讞斷ノ正邪、警察ノ疎密、及ヒ學校病院ヨリ電信郵便ノ迂便ニ於テ果シテ如何ノ別アルカヲ觀察セヨ、三才ノ兒童モ、維新前後ニ若カサルヲ證覺ス

ルニ苦マザルヘシ、是等ノ事物ハ、ミナ國安ヲ保維シ、權理ヲ衛翼シ、智識ヲ開達シ、疾病ヲ治療シ、交際ヲ至便ニスルニ要用ナル事物ニシテ、即チ吾人公衆ノ利益ヲ計畫スルノ一大機關ナリト云フベシ、然リ而シテ、此ノ機關ヲ購フニハ、納税ノ一途アルノミナレハ、徵税増加ノ厭フベカラザルハ、常人ノ知ル所ナルヘキ也、然ルニ單ニ増税ノ一事ヲ皮相ノ政府ヲ怨恨シ、政圖ヲ障碍スルハ、即チ怨ヲ以テ徳ニ報ユル者ナリト斷言スヘキナリ、頑民コソ此ノ單純ナル一理ヲ悟了セバ、ソノ前非ヲ慚悔シ、愛スベキノ良民タルニ至ルハ、太タ難カラザルベキ也、

○雜說一

吾妻兵治

世不可死者亡幾。而可死者比々皆然。此生有損無益。生則糜天

下之粟。死而無所失于世。是謂棄才。天下雖大。不容棄才。富厚自
恣。淫荒終一生。可以死也。位班顯要。徒營身圖。可以死也。哀求請
託。賴他人之憐恤。可以死也。曲藝末技。損民間風俗。可以死也。搯
亢拆背。陽唱世益。陰肥豪中。可以死也。憧々往來。不事。可以死
也。飢食渴飲。苟且偷生。可以死也。辨佞緣飾。餌虛聲。釣實利。可以
死也。如是之類。不可一二數。要皆良民之累。人中之蠹。將焉用彼
生矣。今夫衆商結會。其中必有一二之不可缺者。自餘則碌々鼠
輩。別人皆可以代之。推而至於家國天下。無不悉然。父母安之。兄
弟賴之。一家不可無斯人。比鄰交遊。有所矜式。鄉黨不可無斯人。
進則昌。退則衰。一國不可無斯人。五洲蒼生。與受其賜。宇內不可
無斯人。仁義溢當世。德澤垂無窮。萬世不可無斯人。雖有淺深廣
狹之差。其所以不可缺。則無二致矣。嗚呼。均是人也。而人或祈其

壽考。或厭其生。此豈非人生榮辱之極乎哉。嘗聞之鄉先生曰。英
雄秘訣。唯在于素位。行三言。今之年少。動任其銳氣。置目前當務
之急。而漫言天下國家。使其幸得所欲。或可以沒前過。否則竟在
廝養牧兒之下。有味哉言也。夫畫虎不成。尙類狗。登高者。步步不
謹。則取不測之禍。故志可遠大。而職守不可廢忽。以快樂之心。盡
力於所遇。無往而不爲有用之人。庸衆之所不爲。我則斷行之。庸
衆之所不敢。我則忍就之。百折不屈。取敗彌振。毀譽不能動。貧苦
不能移。循序漸進。必極其所期而止焉。此至堅鐵鉞。豪傑之士所
以破天下之難門也。噫。士知棄才之爲耻。然後可以爲有用之人。

編輯長兼印刷人 吾妻兵治

官准明治十二年四月 每月二回發兌

東京小石川江戸川町十八番地
本局同人社

賣配	東京兩國藥研堀出三十三番地	石本長造
賣印	同本町三丁目洋書問屋	瑞穂屋卯三郎
賣	同室町三丁目中外堂	紀伊國屋源兵衛
捌	同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地	富士屋金十郎
全	大坂心齋橋通道修町	報知社支局
所	甲府八ヶ岳町壹丁目内屋真七	河内屋真七
	武州熊ヶ谷本町	内藤傳右衛門
	阿州德島中通町貳丁目	博文堂
	東京芝日影町一丁目一番地	坂井萬吉
		永盛堂池田
賣配	同虎ノ門外琴平町二番地	立花屋作太郎
賣印	同春木町三丁目	靜屋民次郎
賣	同牛込肴町	九番地
捌	同橫濱辨天通	深野彌兵衛
全	同所	中屋銀次郎
所	越後長岡	池田幸吉
	姫路俵町十六番地	大橋佐平
	上州高崎田町三丁目	山野長兵衛
	越後國龜田町二十七番地	書肆文心堂
	東京芝新櫻田町十一番地	佐々木儀平
		新井源吾

明治十二年第十月二日發兌

不知姣齋詩稿序

雅俗文法序

勞力ハ尊貴ナリ

書土井子弘文卷後

詩二首

雜說二

論處士

中村敬宇

同

東條世三

奧宮庸人

齋藤 幹

吾妻兵治

同

同人社文學雜誌

第三拾六號



- I Affliction is the wholesome soil of virtue.
- II Virtue is the foundation of happiness.
- III Anger and haste hinder good counsel.
- IV When we wish to employ a physician, a lawyer, a tradesman, or servant, the first, thing we regard, is his character.

1. 患難困苦者修德之良田也

2. 福祥之基礎者其德行矣乎

3. 忿怒與急躁實阻人之忠言

4. 凡欲使用人須先視其爲人

文學雜誌第三十六號

○不知姣齋詩稿序

中村敬字

津山馬場不知也。君介大村桐陽翁。以其詩稿見示。讀之。意氣雄豪。情致清高。好以新事入題詠。而流麗典雅。不見窘迫勞苦之態。余既聳然異之。又由翁聞君之生平大畧。知其瞽而志益壯。驚歎者累日。嗚呼。君自稱不知也。而其所知何其多也。彼曰不知。子都之姣者。止於視官之所及耳。視官之用大矣。抑知精神之用其大無涯。而瞽者於是一無所欠乎。抑知瞽者視官之失。他官足以補之。而精神之思想深奧。無微不入。無遠不屆。非有目者之所能及乎。請近取喻。江戶之人見余面者。不啻千百也。而彼非必皆知余者也。乃如君者。隔在千里之外。知余而辱以詩見示。蓋君之所以知余者。不在其形骸。而在其精神。余之讀君詩而驚異者。亦不在

文學雜誌 第三十六號

于形骸。而在于精神。此所謂神交者也。神交者不由形存而存。故不由形滅而滅。君之知余。既非由君之目。故君與我。雖至形滅之後。而其神則不滅。而得相交于無窮也。必矣。然則較諸世之全于形。而缺于神者。其所得不已多乎。君失明。在元治元年。而明治以後之事。多見于題詠。電信鐵道。瀛燈馬車。以至世事之變態。描寫自在。情景宛然。嗚呼。君自名其齋曰不知姦。而知天下萬物之姦者。一何多也。抑余則更有進矣。天下萬物之姦。非自造者。必有造之之主宰。乃一神也。神者唯靈無形。故人不能以目見之。唯可以精神而知之。君苟能知有此主宰。而敬信之。則君之知益宏矣。知益宏。而樂愈深。樂愈深。而福滋盛。形雖壞。而神則全矣。身雖歿。而生則永矣。如此。而君尙雖欲曰不知也。其可得乎。君屬余爲序。因理前言。以題卷首。

○雅俗文法序

同

豐前里見翁精於本邦語學。嘗慨方今文章淆雜。而無人能定其法。頃撰雅俗文法一書。又掇其要。著便覽。將刻以問世。屬余叙蓋余少窺西籍。而有感于西洋各國。言語文章之同一焉。夫發諸口爲言語者。筆諸書。則爲文章。故言語有法。則文章斯有法矣。語法文法。其則不遠。讀書作文。一以貫之。此其人民之所以易于學問日進也。我邦則否。勿論下言語與文章不同。即言語亦有古今土俗之異。識者每以爲病。而亦未有能救之也。余謂使下我邦言語文章。畫一有法。而二者相同。是至難之事。非一人獨力可得而能成也。雖然。甲勤勉從事于茲。乙亦如之。後人陸續不輟。其功則積年時之久。豈其有終不可成者乎。故今日之學者。唯病于其下手之不早而已。余懼於語學。何能贊一辭。特以喜下翁。茲著惠迪後人。匪細

樹也。欣然爲之序如此。

○勞力、尊貴也

東條世三

凡ソ事ヲ成就スルハ、瑣々タル小事ヨリ、絶大ノ事業ニ至マ
デ、皆ナ勞力ニ由ラザルハナシ、唯多ク之ヲ用フルト、少ク之
ヲ用フルトノ差異アルノミ、今日見ルトコロノモノ、用フル
トコロノモノ、皆ナ勞力ニ由テ成ルトコロノモノナリ、蓋シ
勞力ヲ盡シテ、職業ヲ做スコトハ、各自主自立スルコトヲ保存シ
得ルノミナラズ、身體ヲ壯強ナラシムルノ益アリ、且ツ邦國
一般ノ財ヲ生シ、用ヲ利シ、經濟ノ大道ニ於テ利益アルコトナ
リ、土地コレニ由テ次第ニ開闢シ、人民コレニ由テ蠻荒野鄙
ノ俗ヲ免ル、コトナリ、所謂文明開化ナルモノモ、特ニ人民ノ
勉強勞苦ニ由テナレルモノナリ、勞力ハ未ダ曾テ人ノ移住

セザル荒廢ノ地ニ至リ、森林ヲ拂ヒ、沼澤ヲ汲干シ、田畝ヲ置
キ、村落ヲ建テ、都會次第ニ見ハレ、市井ニハ廣厦大屋、櫛ノ齒
ヲ並べ、港口ニハ漁船帆船、群ヲナシ、帆檣森ノ如ク、鐵路綾ヲ
ナシ、電線蛛網ノ如キヲ致ス、カク寂然タル荒野ヲシテ彼ノ
美麗ナル薔薇ノ如ク咲カシムルモ、特ニ勞力ノナストコロ
ナリ、工人ノ巧機ヲ作テ、邦國ヲ利スルモ、勞力ナリ、學者ノ好
書ヲ著ハシ、天下ヲ益スルモ、勞力ナリ、勞力ハ豈ニ尊貴ナル
モノニ非ラズヤ、法言ニ「勞苦ハ百事ニ勝ツ」ト云ヘル如ク、人
苟モ善良ノ心情、善良ノ品行アリテ、專心勞苦セバ、凡百ノ事、
成シ得ザルハナシ、且ツ職業ヲ勉メ做スコトハ、乃チ人タルモ
ノ、本分ヲ盡スノ道ナリ、抑モ天ノ人ニ賦スルニ耳目鼻口、
兩手兩足等ノ至妙至巧ナル器具ヲ以テシ、而シテ好ク之ヲ

勞動セシメ、且ツ靈魂ヲ與ヘ、以テ過去ヨリ未來ノ事ヲ思慮シテ、豫シメ自ラ備フルヲ致サシムルヲナレバ、吾ガ手足ヲ勞シ、心志ヲ苦メテ自ラ衣食シ、自主自立ヲ保存スルハ、是レ則チ各人ノ職分ナリ、カク努力ヲ盡シテ職事ヲ勉ムルハ、乃チ我輩人間ノ當然ナル職分タルヲ知リ、正經ノ道ヲ以テ之ヲナストキハ、絶大ノ事業ヲモ成シ得ベシ、努力ノ斯ク尊貴ナルヲ知ルトキハ、豈ニ奮勉勞苦セズシテ、懶惰ニ日ヲ度タルベケンヤ、

○書土井子弘文卷後

與宮庸人

天暮夜闇。咫尺不辨。突然遇刀光。則莫不愕然。以驚焉。是無他。事出其所不思故也。往年余訪土井子弘于淺草。子弘喜而引余。盛討論時事。或慷慨而憤。或涕泣而悲。余一見知其為奇士。然而未

レ知其為文人也。頃偶觀其所著文。法度謹嚴。筆力雄健。純手作家也。嗚呼。余識子弘既三年。未嘗知其有文字。而今乃觀此文。是猶闇夜突然遇刀光。豈得不驚乎。然忠義大節也。詞章小技也。以詞章傳于後。固不若以忠義傳于後也。子弘之奇士。豈欲以文人傳于後哉。而其所以著此文者。蓋餘事焉耳。然則當國家有事之時。子弘慷慨奮激。為國家盡忠義。以驚余。亦未可知也。明治十二年七月。與宮庸人援筆于東都愛宕下街寓室。

雅潔簡勁。年少人。而有此文。余豈得不驚乎。敬字評

○哭安藤君棟

齋藤幹

十載論交住學宮。平生知己憶遺風。騷壇未展縱橫志。筆陣方爭翰墨功。慟哭斷絃蹤既遠。幽冥求友事終空。半宵殘月三更夢。鬢鬢離亭小別中。

又
嗟君一逝遂無還。唯有遺編似笑顏。夢斷礫川沈曉月。魂迷波嶺戀家山。史書曾伴明窗下。詩酒相携煙水間。春去秋來花自發。每思宿昔淚潸潸。

朋友交篤者。邦國勢力之萌芽也。其圈愈大。而國愈強矣。傷時懷友之作。以他日爲社中典故。錄之。敬字評

字々嗚咽。惻々感人。不啻伯牙斷絃矣。仁卿磊落。兼厚人倫。書齋常掛君棟之墨蹟。曰。猶見君。今又欲刻其遺稿。以謀不朽。君棟擇友之功。果不虛。吾妻升僭評

○雜說二 書靖獻言卷後

吾妻兵治

慷慨悲憤。發於志士憂世傷時之餘。於人事原屬不幸。而僻學陋儒。視以爲吉德。養之生平。不祥孰大焉。和氣泱泱。四邊無虞。將安

所用此輩。是故無惡乎。慷慨悲憤。而惡乎。其故養之。無惡乎。故養而惡乎。托以飾愚。墮政化。苟中心愛國。哀樂悲忻。惟其時。何必於邑感慨。然後爲得哉。我邦人心與霸政俱滅。十數年前。忠義壯烈之風。今則爲巾幗婉柔之態。所謂慷慨氣節之事。不可得而望。偶有言之者。群聚笑之。不罵則怒。曰。文明開化。不拘人道。唱和成俗。恬不知其爲非。此亦僻學者流之罪人也。夫德義之與氣節。邦國之元氣。今元氣既委于內。歐亞之交不堅于外。一旦有警。其何以禦侮乎。爲今之計。公私試業。及教科之書。參用此書之類。立以爲例。則庶乎其有所觀感興起。此亦救時之急務。吾欲問之於世之識者。

○論處士

全

學藝法律ノ完備ハ、以テ一國ノ文明ヲ致スヘキ乎、山海鑛田

ノ饒裕ハ、以テ富國ヲ期スヘキ乎、百万ノ衆ハ、以テ強兵ヲ期スヘキ乎、斯三者ミナ非ナリ、學藝法律トイヒ、山海鑛田トイヒ、兵衆トイヒ、要スルニ、死具ナリ、苟モ其人アリテ、之ヲ運用スルニ非ラサレハ、死具竟ニ自動スヘカラズ、然ラハ則チ、何物カ能ク國家ヲシテ隆盛ナラシムルヤ、曰ク、處士トイフコト過キサルノミ、予ノ所謂處士トハ、凡ソ學德智才ヲ始メトシ、一技一能ヲ抱キテ官位ナキ者ヲ謂フナリ、余支那史ヲ讀ミ、未ダ嘗テ處士ノ不幸ヲ嘆ゼズンバアラサルナリ、以爲ラク、亞細亞洲ノ大弊、ソレ此ニアル乎、古ハ大小ノ權、舉テ政府ニ歸シ、人民ノ秀傑ナル者、朝ニ得ラレサレハ、終身ソノ才ヲ用フル所ナシ、故ニ士ノ上焉ナル者ハ、著書誥後ニ、中焉ナル者ハ、山林若クハ謀反コ、下焉ナル者ハ、放肆若クハ棄暴ニ變勃ノ

餘生ヲ終ヘサルヲ得ズ、今ソレ水性善ク下ル、堤堰ノ之ヲ濬濬スルアラサレハ、横潰四出、盧舍ヲ壞リ、人畜ヲ殺シテ制スヘカラサルニ至ル、彼秀傑ナル者、有爲ノ才、滿腔ノ經綸ヲ抱持シナガラ、志ヲ仕官ニ得サルノ一途ニ斷念シテ、山林陋里ノ間ニ湮滅スルニ堪ヘンヤ、故ニ道德ノ堤堰ナキ者ハ、滔々ノ禍チ一世ニ流シ、無辜ノ生靈ヲ溺盡スルニ至ル、此レ支那古ヨリ異姓更起リ、大小ノ反賊踵ヲ接スル所以ナリ、湯武ハ天下ヲ治ムルノオアル者ナリ、桀紂ヲシテ早ク其驥足ヲ宰輔ニ伸サシメハ、夏殷ノ祀未必ズシモ絶サルヘシ、科舉ノ外尙ホ士ヲ取ルノ法アラシメハ、唐末黃巢ノ亂ナク、明季ニ牛金星ノ叛ナケン、惜哉、舉用チカノ御シ易キノ賢良方正ニ限り、制シ易キノ排偶駢麗ノ徒ニ局シタルヲ以テ、踳踈負俗ノ士、隴

畝ニ歎息シテ時變ヲ待テ、遺賢野ニ交錯シテ歸スル所ヲ知
ラズ、而シテ歷世君相尙ホ以テ其謀ヲ得タリトス、亦悲シカ
ラスヤ、戰國ヨリ秦漢ノ際ニ至ルマテ、多少ノ才力辨術アリ
テ、口ヲ力作ニ糊スルヲ能ハサル者、競テ王侯貴權ノ門ニ客
遊シ、從衝談天ノ流ヨリ、鷄鳴狗盜ノ徒ニ至ルマテ、勝テ數フ
ベカラス、盡ク其志ヲ得ズト雖モ、苟モ生命ヲ饋稟ニ全フス
ヘク、時ニハ則テ僥倖ヲ博スヘキ望アル以上ハ、終身仕途ニ
就カザルモ、其抱負ヲ不得已ニ歛メテ、一生ヲ無事ニ終タリ
ト雖モ、養客ノ風、一旦迹ヲ絶ツニ及テ、此輩一變シテ清節放
議ノ政黨タリ、(漢末)再變シテ清談放恣ノ僞仙タリ、(魏晉ノ際)
三變シテ區々仕官ヲ求ムルノ進士トナリテ、(隋唐以來)而シ
テ伏龍鳳雛渭濱版築ノ徒、此數中ニ與カテサルヲ見レハ、其

大器ヲ抱テ、空シク巖穴ノ間ニ朽死スル者、幾千百人ナルヲ
知ラズ、嗚呼處士ノ無用ニ終ヘシハ、處士ノ罪ニアラス、時勢
コレヲシテ然ラシムルナリ、泰西ニ在テハ則チ然ラズ、蓋シ
其今日ノ隆盛ヲ致ス所以ノ者ハ、究竟スルニ、人々各其欲ス
ル所ニ從テ、力量丈ノ働ヲナシ得ヘキ一種ノ良俗アリテ、實
ニコレガ基本ヲ成セリ、夫レ欲スル所ニ從テ、力量丈ノ働ヲ
ナシ得ヘキ世界ニ在テハ、人々皆其志欲ニ就テノ全權君主
ナリ、上ハ政府ニ依ラズ、下ハ人民ニ求メス、獨立特行、身ヲ立
テ道ヲ行フニ於テ、譬ヘハ大鵬ノ垂天ノ翼ヲ振ヒ、扶搖ニ乘
シテ、九萬ノ上ニ翱翔スルカ如ク、又健兔ノ曠野ニ逸シ、一物
ノ之ヲ妨碍スル者ナキカ如ク、綽々ノ自由、優々ノ自主ヲ享
有スルヲ以テ、韓蘇ノ文章議論アル者ハ、哀ヲ時宰ニ訴ヘ、逐

隊從行ノ辱ヲ受ケズシテ、宇内ノ政策ヲ衽席ノ上ニ動カス
 ヘク、毒霧瘴氛ノ域ニ憔悴セズシテ、瑤臺高堂ノ上ニ鼾睡ス
 ヘシ、賈龍ノ經綸達識アル者ハ、遠竄棄市ノ慘ニ挫碎セズシ
 テ、鬚ヲ國會ノ上壇ニ掀ケ、君相ノ眉ヲ願指ノ加減ニ伸縮シ、
 士民ノ臂ヲ嘖笑ノ機合ニ開闔スヘシ、王公ノ實權ヲ執リ、泰
 斗ノ重望ヲ收メ、食前方丈モ致スヘク、乘堅策肥モ弁スヘシ、
 其外文學ノ士ハ文學ノ政府ヲ開キ、演舌ノ士ハ、演舌ノ朝廷
 ナ起シ、理化鑛地ヨリ、醫書詩書等ニ至ルマテ、苟モ得意ノ業
 ナ挾サム以上ハ、價相當ノ榮利ヲ享ケ、權利ト力量ノ及バン
 限リハ、何程ニ跋扈スルモ不可ナルコトヲ定メナレバ、
 處士タル者、皆正々ノ旗ヲ張リ、堂々ノ陣ヲ構テ、活世界ノ間
 ニ角逐シ、思考ニ、事業ニ、術藝ニ、各十分ノ力ヲ伸シテ他人ニ

凌駕センコトヲ是レ務ム、大ナ語レハ、寸ヨリ尺ニ、尺ヨリ尋ニ、
 尋ヨリシテ宇内萬國日月星辰ニ遞進シテ止マル所ヲ知ラ
 ズ、小ナ語レハ、微奧ヨリ又其奧ニ、可見ヨリ不可見ニ、可測ヨ
 リ不可測ニ奮前シテ足ルコトヲ知ラス、父祖如是、子孫如是、累
 世ノ久ナ積テ今日ニ至レリ、其至盛ヲ致スモ亦宜ヘナラス
 ヤ、以上、歐亞盛衰ノ關鍵ナリ、國、依民、民、依處士、邦國ノ盛衰ハ、
 處士ノ盛衰ノ返照ナリ、歐ハ處士ノ燈火ヲ焚燃スルニ任シ
 テ、亞ハ之ヲ抑蔽ス、此レ其明晦ノ由テ別ル、所ナリ、我皇國近
 年ニ至ルマテ支那ト同一般ノ状態ナリシカド、開港以來、俄
 然豹變、上下銳意シテ開進ノ針路ニ向テヨリ、其速力ノ神ナ
 ル、炮弹ヲ嘲ケリ、電光ヲ凌クノ勢ヲナシ、僅々十餘年ヲ經テ、
 就中泰西ノ秘訣、開進ノ元素タル處士ノ燈火ハ、閃然トシテ

光燄ヲ放チ、官民一體、朝野情ヲ合スルノ盛運ヲ見ルニ至レリ、此レ吾人が天下ノ爲ニ誠祝賀シテ已サル所ナリ、然リト雖ヒ、隴ヲ得テ又蜀ヲ望ムハ、人情免カレサル所、余ハ此亘古未曾有ノ盛運ニ際スルニ因テ、更ニ處士ニ望ム所ノ者アリ、曰ク、宜シク佛國ヲ鑒戒トシ英國ニ效フヘシ、西儒ノ言ニ曰ク、佛ノ俗「プレース、ハンター」官職ヲ獵佃トイヒテ、仕官ニ汲々スル者比々トシテ皆然リ、夫レ仕官ニ汲々スルハ、官府ニ依頼スル心ノ深キ者ナリ、此依頼心ノ深キハ、明カニ自家ヲ重ンセサル者ナリ、英國ノ紳士ハ則チ之ニ反シ、官府ヲ視テ官府トシ、各自ヲ視テ各自トシ、又官民ヲ以テ一ニシテ二、二ニシテ一ナリトス、此レ英ノ君治政、ソノ實ハ民治政ニシテ、佛ノ民治政、ソノ實ハ君治政ノ最モ下レル者ナリト、嗚呼、官

獵ノ一事、邦國ノ大勢ニ關係スル者は、如シ、我國ヲシテ幸ニ此大弊ナカラシメン乎、有力大用ノ處士、並ヒ起リ、民權從テ大ニ振ヒ、日本一變シテ英倭利ニ至ランコト、期シテ待ツヘキナリ、若シ夫レ然ラズ、爬羅剔抉、光ヲ磨キ、英ヲ揚ルノ目的ハ、仕官ノ一途ニ外ナラズトセバ、亦タ何ソ處士ニ望ム所アラシヤ、嗟、官獵耶、官獵耶、汝、竟擠ニ一世於秦漢ニ者也、

編輯長兼印刷人 吾妻兵治

官准明治十二年四月 毎月二回發兌

東京小石川江戶町十八番地

本局同人社

東京小日向第六天町同人社外塾	東京神田美土代町四丁目立花屋作太郎
達兼 石本長造	同虎ノ門外琴平町二番地霞堂
東京兩國藥研堀町三十三番地	同春木町三丁目中屋民次郎
別方 報知社	同牛込肴町九番地深野彌兵衛
同本町三丁目洋書問屋瑞穂屋卯三郎	同濱辨天通四丁目中屋銀次郎
同室町三丁目中外堂	同所 池田幸吉
同神田鍛冶町壹丁目拾壹番地	越後長岡 大橋佐平
珊瑚閣 富士屋金十郎	姫路俵町十六番地山野長兵衛
大坂心齋橋通道修町	上州高崎田町三丁目文心堂
全 本町四丁目河內屋真七	越後國龜田町二十七番地佐々木儀平
甲府八ヶ町壹丁目內藤傳右衛門	東京芝新櫻田町十一番地新井源吾
武州熊ヶ谷本町文堂	
阿州德島中通町貳丁目坂井萬吉	
東京芝日影町一丁目一番地永盛堂池田	

同人社文學雜誌

第四拾五號



明治十四年第一月廿五日發兌
定時刊行

增評續八大家讀本序
清米條約改正之辨論
送和田垣君之歐洲序
大膽(前號之續)

中村敬宇
橫尾東作
大野太衛
吾妻兵治

- 1 Nature sets every thing to sale for labour.
- 2 Art and science have no enemies but those who are ignorant.
- 3 By reading we enrich the mind, by conversation we polish it.
- 4 Success makes a fool appear wise.
- 5 If misfortunes make us wise, they recompense us for our losses,
- 6 Liberty must not be a boon of the government,

- 1 天道具物以待勞者之需。
- 2 學藝無仇。第仇無學之人。
- 3 讀書以富心。交晤以磨心。
- 4 成功使愚人有智者之觀。
- 5 艱難使人賢則償吾所失。
- 6 自由決不容爲政府恩賜。

文學雜誌第四十五號

○增評續八大家讀本序

中邨敬字

去年之夏。北海翁得篤疾。殆死而幸痊。今茲四月。翁來謂余曰。續八家文讀本。先子之所校正也。不肖頃又應書商之求。施訓黠。加以諸家批評。請子作之序。余喜翁之健強復故。而精神尙壯也。欣然諾之。翁乃掀髯微笑。喜溢于眉宇間。余因謂翁曰。是書既已有。檀字一齋侖庵山陽諸先生之序。高文典冊。魚々雅々。余何敢有所復言哉。無己則有一焉。書中所收。多空靈飄虛。奇矯變化之文。乃沈選之所遺也。夫文之尙誠實。斥浮虛。固也。夫人而知之矣。雖然。勃窣理窟。語錄家言。如太倉之粟。陳々相因者。比諸叙景述情。如鏡中之花。水中之月。如太虛廓然洞豁者。吾又未知其孰虛孰實也。五穀之爲用大矣。然有時乎不若野蔬林果。況於其紅腐者。

乎。今夫物之虛莫_二水_一若_レ焉。然三伏炎熇。喉中吐_レ火。一掬冷泉。甘如_二玉醴_一。于此時而使_二吾腹_一實_レ者。非水弗能也。八家文之堂々正々。論_レ學議_レ政者。後學固不可_レ不_レ究_レ心焉。然如_二南豐_一過_レ闕上_レ殿。蔬_レ臨川上_レ仁宗_一言_レ事書_レ往々讀_レ未_レ半。而神疲意倦。於是俄把_二東坡赤壁_一二賦。若_レ喜雨亭記。承天寺夜游等篇。朗讀一過。則襟懷頓開。兩腋風生。不_レ啻如_二玉川子_一之七碗喫_レ茶也。然則所謂空靈飄_レ虛奇矯變化之文。與_二格致誠正_一。修齊治平之作。各有_二其用_一。相須而並行者。非邪。莊叟曰。樂出_レ虛。蒸成_レ菌。又安_レ知_レ其虛者之_レ不_レ爲_レ實。而實者之_レ不_レ爲_レ虛邪。翁之拳_レ々於是書。顧其意亦在_レ茲乎。翁於是又掀髯。嘻々而笑曰。善。閱_二數月_一。翁一夕來。時余已就_レ眠。翁見_二余婦_一促_二序文_一而去。後間_二二三日_一。翁之計至_レ矣。余驚愕無措。且悔_レ不_レ接_二最後之_レ聲音_一也。當_二翁之修_レ是書_一。次子達之介。日往_二淺艸文庫_一。就_二異本校_一。雖_レ謄寫。不_レ遺_二餘

力。蓋祖孫三世。書香連綿不絕。可敬也。己。翁姓柴田氏。名清樾。通稱權之進。性忠實。博通_二文藝_一。沒年五十六。頃者刻告_レ竣。余因_レ救_レ淚。理_二前言_一。以付_二干延陵挂劍_一之義云。

重野成齋曰。比喻疊出。魏水叔最得意處。

○先頃清國_一フウチウ、ニ在_レテ暫ク傳道シタル、「ミソデスト、イペスコパル」宣敎使神學大博士イス、エル、バードウエン氏、本國ニ歸リテ清米條約改正談判ノ模様ヲ話_レタルヲ、ニウヨルク、刊行、「インデペンデント」新聞ニ載ス

横尾東作

米國委員

- ミチガン人エンデル氏 甲某
- 南カロリナ人プレスコット氏 乙某
- カリホルニア人スウフト氏 丙某

ピンクヤン氏 秉氏ト假定ス

清國委員

リハンチヤン氏 李氏

ウエンシン氏 文氏ト假定ス

右六名北京ニテ談判ス

甲某曰。合衆國大統領ハ。我等ニ命ジテ。現今兩國間ニ存スル
條約ノ改正ヲ乞ハシム。秉氏曰。我等此言ヲ聞キ喜甚シ。清
米ノ條約ハ。抑テ寬ニ過ク。大ニ改メザルヲ得ズ。我等久レク
改正ヲ望ム所ナリ。貴政府ノ特ニ改正ヲ乞ハル者何ノ條
件ソヤ。甲曰。我主トシテ改正ヲ要スル者ハ。清人縱マニ合衆
國ヘ移ルノ件ナリ。李鴻章曰。予ハ此事ヲ聞キ。頗ル驚カサ
ルヲ得ズ。元ト我政府ハ。臣民ノ異邦ニ遷住スルヲ大ニ嫌
惡シ。只貴國ヨリ我工人ヲ強招シ之ニ申証スルニ

保護ノ厚。酬金ノ貴ヲ以テスルニ頼リ。我民多ク本土ヲ去テ
貴國ノ海濱ニ向ヒクルナリ。丙某曰。然リ。我國太平鐵道ヲ
作スニ方リテ。夥多ノ工人ヲ要セリ。故ニ乞フテ貴國人民ノ
援ケヲ得タリ。今ヤ則之ニ異ナリ。我國既已ニ剩餘ノ工人ア
リ。而ノ貴國人民ノ到ル絡繹絶エズ。文氏曰。子ハ誠ニ人ヲ
シテ大ニ感ハシム。某久レク意ヲ貴邦ニ用ユルニ。貴邦尙數
百万ノ工人ヲ要シ。之ヲ招クニ似タリ。一週ノ間。歐洲ヨリ適
ク者數千人ニ下ラズ。而メ之ヲ止ムルヲ聞カズ。乙某曰。我
國東方。工人未ダ普テカラズ。獨リ多クニ難ム者ハ。太平瀕海
ノ地ノミ。秉曰。毋果シテ然ラバ。太平瀕海ニ工人溢レ。勢ヒ
勞金ノ賤キヲ知ル。丙曰。否。然ラス。其實濱土ノ工金ハ。東方
ヨリ貴シ。唯貴國人民大ニ輻湊シテ。我民ノ職業ヲ奪フノ殆

キアリ。文曰。何者チ貴國ノ民トナス。即貴國ニ生レタル者
ヲ謂フカ。予嘗テ之ヲ聞ク。貴國ノ工業ヲ執ル者。過半ハ異邦
ノ人ナリト。就中愛蘭土人多シト云フ。丙曰。我作工ノ大部
ヲ執ル者。誠ニ愛蘭土人ナレト。彼今合衆國民ナリ。李曰。若
シ彼人。太平濱土ニ在テ。多ク工金ヲ収ム可ラズンハ。意ノ欲
スル處ニ去ル。亦善ナラスヤ。彼將ニ紐育^{ニヨク}又ハ阿海^{オハイ}ニ往キテ
尚能ク得ル所アラントスルカ。甲曰。否。彼等ハ東方向ノ處
ニ往ク。厄^{カリフォルニア}加里福尼ニ得ルノ多キニ及ハサルナリ。乘曰。然
則子ノ我民ヲ訟ントスル。予甚タ其意ヲ視ルニ苦ム。我民加
里福尼ニ勤勞シテ。幸ヒニ未ダ他方普通ノ賤價ヲ收ムルニ
至ラス。子愛蘭土人。日耳曼人。紐育^{ニヨク}ニ在ル者ヲ訟ヘズシテ
我民ノ加里福尼ニ在ル者ヲ訟ントスルハ。抑何リヤ。丙曰

是ノ謂ニアラサル也。其實我國已ニ貴國ノ民人ヲ好マズ。我
民忌テ之ヲ逐ハントレ。屢蜂起セリ。文曰。貴國政府ハ。固ヨ
リ一揆ニ降ラサルナリ。法ヲ操テ我民ヲ治ムルト。子ノ明言
ニアラスヤ。我國亂民アリテ。宣教使ヲ襲撃シ。基督禮拜堂ヲ
打破ス。此時ニ方リ。我官吏言フ。民其忿怒ニ乘ジテ暴行セリ
ト。而シテ貴國理事官言フ。國民ヲ統治シテ條約ヲ守ラシム
ルハ。祇子等ノ職務ナリト。我常ニ其言ニ服シ。犯約ノ因テ生
スル所ノ損害ヲ賠償セリ。倘レ貴國人民ニシテ同ク無法ヲ
行ハ。子何リ之ヲ罰セザル。乙曰。我固ヨリ無法ノ者ヲ罰
スルナリ。然レ厄外人來テ之カ業ヲ奪ハ。子焉リ其民ノ安
キヲ望ン。文曰。我民嘗テ風帆ニ乘リ。貨物ヲ運漕シテ生計
ヲ港津ニ營ム者。其幾千人ナルヲ識ラサリシ。而シテ其業ハ久

ク已ニ貴國、火、輪、船、ノ、奪、フ、所、ト、ナ、ル、我、敢、テ、是、事、ヲ、貴、國、ニ、訟
 ヘ、サ、ル、者、ハ、約、ヲ、照、ラ、シ、テ、貴、國、其、權、ア、レ、バ、ナ、リ、於、是、乎、放、棄
 ノ、者、去、テ、他、ニ、生、計、ノ、道、ヲ、求、メ、サ、ル、ヲ、得、ズ、或、者、ハ、阿、米、利、加
 ニ、往、ケ、リ、甲、曰、予、ハ、其、事、ヲ、多、ク、論、ス、ル、能、ハ、ス、唯、條、約、ノ、改
 正、ヲ、求、ム、ル、ノ、ミ、子、之、ヲ、欲、ス、ル、カ、乘、曰、異、邦、ノ、人、貴、邦、ノ、濱
 ニ、居、テ、求、ム、ル、ア、レ、ハ、之、ヲ、斥、ケ、ザ、ル、ハ、貴、大、國、ノ、本、理、ニ、非、ス
 ヤ、甲、曰、然、リ、是、我、本、理、ナ、リ、然、ル、ニ、我、條、約、ヲ、改、正、ス、ル、如、何
 シ、テ、可、ナ、ラ、ン、乘、曰、子、ノ、爲、サ、ン、ト、欲、ス、ル、者、何、リ、ヤ、各、國、交
 人、氏、ノ、移、住、ス、ル、ヲ、盡、ク、停、止、セ、ン、ト、ス、ル、ニ、ア、ル、カ、子、若、シ、之
 ヲ、欲、セ、ハ、誠、ニ、我、意、ニ、適、ス、久、シ、ク、我、カ、貴、重、シ、タ、ル、政、体、ナ、リ、
 子、ノ、商、賈、及、ビ、宣、教、使、ヲ、以、テ、選、レ、我、吾、ガ、人、民、ヲ、率、并、テ、歸、ラ
 ン、向、後、我、ハ、恒、ニ、安、シ、タ、ル、如、ク、總、テ、國、中、ニ、住、マ、ル、ベ、シ、子、ハ

我、ト、俱、ニ、古、昔、支、那、政、体、ヲ、建、立、セ、ヨ、我、子、ノ、效、ハ、ン、爲、メ、我、長
 城、ハ、離、形、ヲ、呈、ス、ベ、シ、乙、曰、否、我、願、ニ、反、セ、リ、我、ハ、貴、國、ト、貿
 易、ヲ、絶、ツ、ヲ、欲、セ、ス、我、商、賈、亦、之、ヲ、棄、ル、ヲ、好、マ、サ、ラ、ン、又、宣、教
 使、ヲ、還、ス、ト、宜、キ、ニ、似、ズ、教、ヲ、信、ズ、ル、者、ハ、果、シ、テ、之、ヲ、拒、マ、ン
 乘、曰、然、ラ、ハ、子、ハ、制、ヲ、立、テ、之、ヲ、限、ラ、ン、ト、ス、ル、カ、兩、國、後
 ニ、幾、多、ノ、徙、住、ヲ、受、ケ、ン、ト、ス、ル、カ、子、若、シ、之、ヲ、受、ケ、ハ、民、ヲ、擾
 ス、ノ、輕、重、ヲ、秤、量、シ、テ、我、民、一、万、人、ヲ、貴、國、一、宣、教、使、ニ、當、ツ、ベ
 シ、貴、國、我、ニ、一、宣、教、使、ヲ、遣、ラ、ハ、我、亦、貴、國、ニ、一、万、人、ヨ、リ、多、ク
 ハ、移、サ、ン、ル、ト、約、セ、ン、是、ヲ、基、ト、シ、テ、議、ス、ル、如、何、甲、曰、予
 ハ、此、件、ノ、大、ニ、果、敢、ド、ラ、サ、ル、ヲ、見、ル、大、統、領、ニ、稟、告、シ、テ、然、後
 之、ヲ、議、セ、ン、ト、ス、又、至、善、至、要、ノ、國、論、中、其、一、二、ヲ、等、閑、ニ、シ、タ
 ル、ノ、憂、ア、ル、ヲ、覺、フ、希、ク、ハ、少、間、退、テ、此、事、ヲ、合、議、セ、ン、乘、曰

固ヨリ子ノ自由ナリ。但子未起サルノ前ニ一言ノ問フベキアリ。清國ヨリ貴國ニ移リタル者、其實アリヤ。丙曰。子何ヲ言フカ。清國數千ノ人我米國ニ在ルハ。子ノ已ニ識ル所ナリ。秉曰。然リ。彼等ハ清國ヨリ移リタル者カ。丙曰。觀ヨヤ彼等ハ香港ヨリ航セリ。秉曰。然ラハ香港ハ大英ノ属地ナリ。子務テ該港ノ移民ヲ制セント欲セバ。蓋リ之ヲ大英政府ニ請ハザル。子若シ大統領ニ稟告スルアラハ。幸ニ此意ヲ致セ應接終ル。

吾妻升曰。文山之答伯顏。子與之辨。許子。語々剴切中。歎。千古快人意。自非義理分明。曉暢事體。安能至於此哉。觀篇中清米兩官所辨論。秉氏之言尤痛快。出於人々所欲言而未_カ能。使米官汗背屏息不暇。自救清廷有_レ人如是。何怪其駭々

日上。終將至_レ與_ニ歐米諸邦_一爭_ト雄乎。我議者徒以_ニ萎靡_一慢_レ之者。觀_ニ此篇_一。亦_レ可_レ以_レ有_レ所_ニ自悲_一也。

米人拒_レ支_レ那人_一之移住。到底私論。今被_ニ清人_一喝破。讀罷稱_レ快。敬_レ字評。

○送_ニ文學士和田垣謙三君_一之_ニ歐洲_一序 大野太衛

今茲七月。大學文學部書生卒_ニ其業_一。得_ニ文學士之稱_一者八人。而獨和田垣謙三君爲_ニ官所_一選。今將_ニ遠遊_ニ于歐洲_一。余知_レ君久矣。故於_ニ此行_一。有_レ欲_レ言而不能_レ己者_ト焉。外則宇宙之形勢。內則財政之困難。是也。夫智者役_レ人。愚者見_レ役_ニ於人_一。勇者闢_レ國。怯者削_レ地。此宇宙開闢以還_レ形勢也。嗚呼。弱之肉。果強之食歟。嗚呼。天錫_ニ智勇_一乎。白哲人種。而賦_ニ愚怯_一乎。黃色人種。歟。俄國古昔。蓋爾小國。而今則闢_レ地。東西數千里。南北殆一千里。而其志未_レ變。動輒將_ニ事_一我北門。而英之

本國與我邦相伯仲。今乃其屬地大於本國五六十倍。富强甲於天下。而黃色人種爲其狹獮所魅。瞠乎若後。無復一人能制遏其治外法權者矣。顧視我邦。則彈丸黑子之一孤國。而弱且貧。漫自稱文明國。又見我內狀。非比年不登。非工事不盛。非貨財不生。非政府懶惰。而士庶帶菜色。銀貨日騰。月減。紙幣隨賤。物價隨貴。梅子僅三個。其直一錢。米一石幾十四圓。醬一罇十五錢。乃至二十五錢。其他倣之。金融亦極其澁塞。需要貨幣者居十之九。供給貨幣者居十之一。供給者愈減。息子愈騰。以今之勢。不變更不移。經過數年。則餓殍累々。將不絕于野。萑苻夜々。將滿于道路。頃日官雖消滅紙幣幾分。以救治之。未見其効。加之。政府內外負債之大。不知幾千萬圓。而外國貿易。亦權衡不得其平。輸入常超過輸出。故金貨常溢出而不已。蓋米國嘗設保護貿易之法。振起其民。以立

興產殖品之基。而救此弊。未知此法果能適經濟真理。周到詳悉乎否。又不知今日我且行之外國許之。予否嗚呼。入則內地之財。政如此其危也。出則宇宙之形勢。如彼其險也。豈果無察之之術耶。凡天下之香塞。唯人智可以舒泰之。而人智之深淺。則係于學問之厚薄。與聞見之廣狹。君往矣。察于歐洲之大勢。其必有所所得焉。余深期之於異日。

時局財政之難。輕々叙去。不見苦心。憂世之文。才子之筆。吾妻升借評。

○大膽(前號ノ續)

吾妻兵治

大抵人ノ性情ニ於テ愚分ハ智分ヨリモ多シ故ニ或ル能力ニシテ心中ノ愚分ヲ除キ去ラレ者ハ尤モ有力ナルヲ要スルナリ大膽ノ吏務ニ於ルモ亦甚々之ニ類スル者アリ何

チカ吏務ノ最要ト謂フヤ曰ク大胆ナリ再問三問皆大胆ト
 答ヘンノミ然ト凡大胆ハ他ノ性分ニ比スレバ迥ニ劣等ナ
 ル夫ノ無識ト卑陋トヨリ生スル者ナリ然而レ此德ハ夫ノ
 決斷ニ淺ク氣力ニ弱キ決斷ト氣力トハ最モ人ヲ激勵シ其
 手足ヲ繼フ者ナリ是レ誠ニ然リ故ニ智者ハ弱心ノ發スル時
 能ク擇テ此德ニ從フ是故ニ大胆ハ自由國ニ於テ驚異スヘ
 キ事業ヲ做ス上院若ハ君主ヲノ權ヲ專ラニスルノ國ニ於
 テハ差然ラズ天資大恒ノ人ト雖モ其大恒ヲ用フルハ始テ
 事務ヲ執ルハ際ニ強ク少シク時日ヲ歴ルニ從テ漸ク弱シ
 是レ吾人ノ親見スル所ナリ蓋シ大胆ハ約束ノ不好看守者ナ
 リ食言常人ニ詭詐アル如ク官吏モ亦詭詐アルヲ疑ヒナシ官吏
 者ハ大ニ一國ヲ救濟セントノ志ヲ懷キ恐ラクハ二三ノ

經驗ニ僥倖スルトモアリト雖凡學問ハ素ナキヲ以テ遂ニ
 其言ヲ保ツ能ハズ且讀者必ズ屢穆罕默德ノ術ヲ施行スル
 夫ノ大胆者流ヲ見シナラン穆罕默德人民ニ語テ曰ク「吾能
 ク丘山ヲ招來シ其巔ニ坐シテ吾信者ノ爲ニ上帝ニ祈ラン」
 ト信徒之ヲ信ジ群集來リ會ス穆起テ丘ヲ招クト數遍丘依
 然トシテ動カズ穆爲ニ少クモ慙ル色ナク泰然トシテ「丘若
 シ穆罕默德ニ來ラズンバ穆罕默德當ニ丘ニ往クヘシ」ト高
 言セリ斯種ノ徒ハ人ニ大事ヲ約シテ未練ニモ全ク之ヲ誤
 ルト雖凡大胆ノ極ニ達シタル者ナラハ敢テ之ヲ放棄シテ
 復タ願ミサルヘシ
 大英斷ノ人ハ大胆ノ者ヲ見テ之ヲ玩喜シ俗人ハ多少之ヲ
 笑フ蓋シ其之ヲ笑フ所以ハ其妄昧ナルガ爲ナラン怪ム勿

大○胆○ニ○シ○テ○多○少○妄○昧○ナ○ラ○サ○ル○者○幾○ト○希○レ○ナ○リ○大○胆○ノ○徒○
 ハ○顔○色○ハ○外○ニ○在○リ○之○ヲ○看○破○シ○去○ル○ハ○殊○ニ○愉○快○ナ○リ○ト○ス○彼○
 レ○時○宜○ニ○應○シ○テ○面○目○一○ナ○ラ○ス○時○ニ○ハ○三○縮○シ○時○ニ○ハ○木○ノ○如○
 シ○卑○怯○人○精○神○微○々○往○來○ス○而○メ○大○胆○ノ○人○之○ト○同○一○ノ○時○ニ○值○
 ヒ○毅○然○ト○シ○テ○立○ツ○譬○ヘ○バ○ス○テ○一○ル○ノ○象○棋○ニ○於○ル○如○シ○メ○一○
 ト○ナ○ケ○レ○バ○奕○事○尙○ホ○起○ル○能○ハ○ズ○譯○者○云○西○國○象○棋○ノ○語○考○ラ○フ○
 存○シ○テ○後○日○ノ○此○事○ヤ○精○密○ニ○觀○察○セ○ン○ヨ○リ○ハ○寧○口○嘲○笑○ニ○附○
 解○譯○ヲ○待○ツ○ス○ス○ル○ヲ○允○當○ト○ス○大○胆○ハ○常○ニ○盲○目○ナ○リ○何○コ○ト○ナ○レ○バ○彼○レ○危○險○ト○不○便○ト○ナ○見○
 サ○レ○バ○ナ○リ○此○處○權○度○ス○ル○太○タ○好○シ○是○故○ニ○大○胆○ハ○謀○議○ニ○宜○
 シ○カ○ラ○ス○シ○テ○施○行○ニ○宜○シ○故○ニ○大○胆○ナ○ル○人○ヲ○任○用○シ○テ○其○當○
 ヲ○得○ン○ト○欲○セ○バ○決○シ○テ○元○帥○タ○ラ○シ○メ○ス○シ○テ○次○將○ト○ナ○シ○長○

官○ノ○命○ニ○動○カ○シ○ム○ヘ○シ○蓋○シ○謀○議○ニ○於○テ○ハ○危○險○ヲ○見○ル○ヲ○善○
 ト○シ○施○行○ニ○於○テ○ハ○其○甚○ク○重○大○ナ○ラ○サ○ル○以○内○ハ○危○險○ヲ○顧○ミ○
 サ○ル○ヲ○善○ト○ス○

正誤前號第二葉裏面三行斷々當作斷々第六葉表面六行
 願字當在相字下

編輯長兼印刷者 吾妻 兵治
 官準明治十二年四月 每月二回發兌
 東京小石川區江戶町十八番地
 本局同人社

○社告

本誌之儀次號ヨリ洋紙ニ仕立テ紙數ヲ増シ編輯ノ體載ヲ改良シ一冊定價四錢ニテ毎月十日二十日ヲ以テ發兌スヘシ但其都度新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ從來本誌合本四方ノ注文陸續絶エサリモ何分不揃ニテ其需ニ應シ兼テタリ因テ此般讀者ノ便宜ヲ計リ更ニ缺本ヲ摺立テ左ノ期日ヲ以テ發賣致スヘシ但日本仕立

自第一号	合本	二月十五日出來	定價三十錢
自第二号	合本	二月廿五日出來	定價同
自第三号	合本	三月二十日出來	定價同
自第四号	合本	四月二十日出來	定價四十五錢

賣捌處ハ次号ニ掲載スヘシ

定時刊行

明治十四年第四月十日發兌

中村敬字

壽細川君令堂七秩序

長谷川次因

北米大統領ノ佳話

中村敬字

重野成齋君詢堯齋文鈔後序

全

拿破列翁放言序

吾妻兵治

內藤耻叟君積理歌

中島雄

記額蘭德君夫人之話

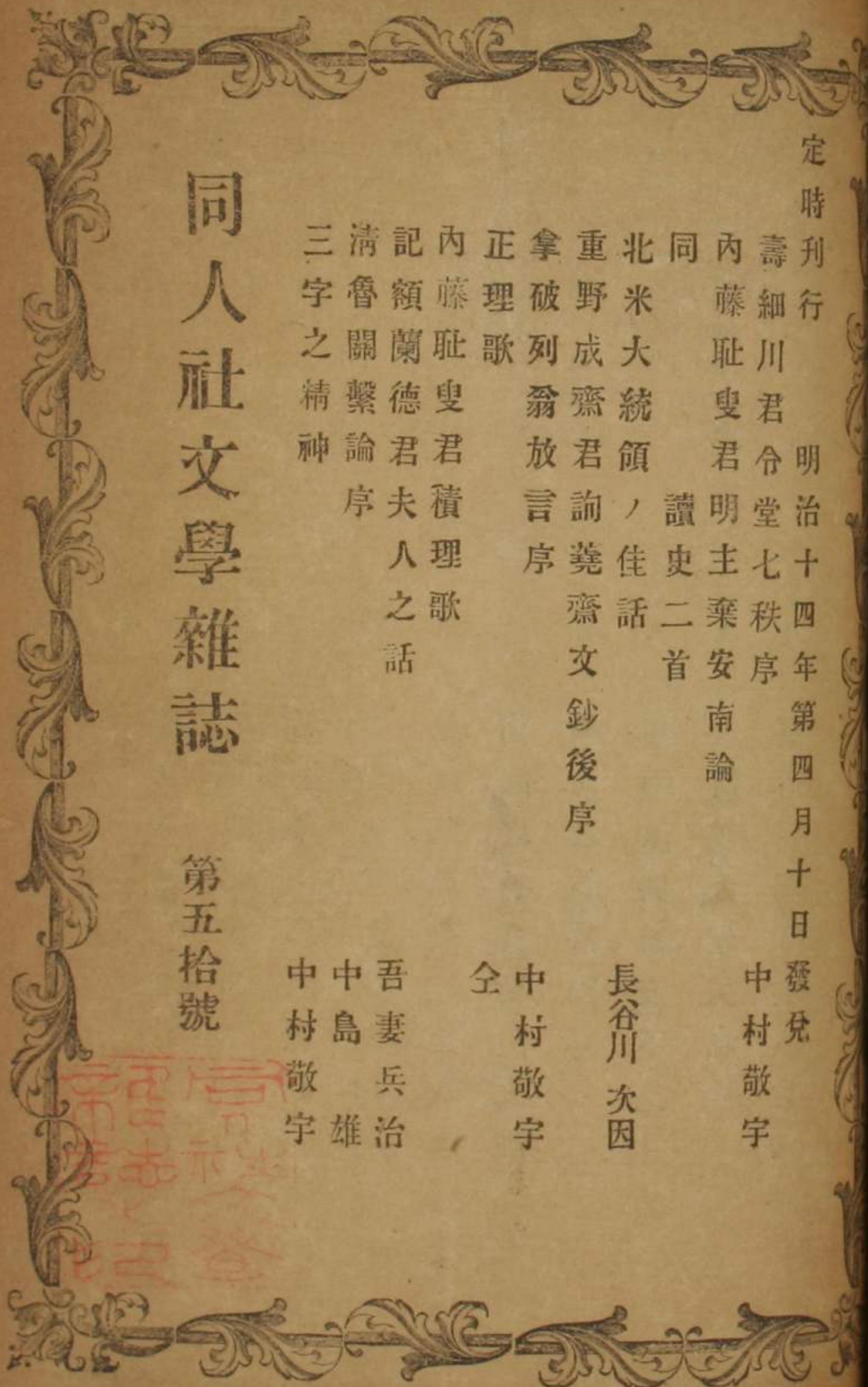
中村敬字

同人社文學雜誌

第五拾號

清魯關繫論序

三字之精神



1. Applause is the end and aim of weak minds.
2. Secrecy is the soul of all great designs.
3. A bad wound heals; a bad name kills.
4. A bad workman quarrels with his tools.
5. A bitter jest is the poison of friendship.
6. A flatterer is a most dangerous enemy.
7. A fool's heart is ever dancing on.
8. A full purse never locks friends.
9. A great fortune is a great slavery.
10. A guilty conscience needs no accuser.

- | | | | | | | | | | |
|--------------|-----------|------------|-----------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|---------------|
| 十 | 九 | 八 | 七 | 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| 良心認罪。不要人之告訴。 | 大富者。大奴隸也。 | 囊中滿。則朋友不乏。 | 愚人之心。常踊舞。 | 諂諛之人。爲至險之敵。 | 戲謔爲虐。交友之荼毒。 | 拙工。與己之器械相鬪。 | 惡傷可瘳。惡名殺身。 | 大謀。以秘密爲其神髓。 | 心之軟弱者。所期只在得譽。 |

○壽細川君令堂七秩序

明治十二年己卯。細川君太君。七秩初度。將卜良日。以開壽筵。上作啓文。具述母德。儉勤清白。訓子有道。及今迎養。爲天倫樂事。許多頭緒。自儉勤清白。等句。以乞言于四方名士。君又枉駕弊廬。以此爲請。嗚呼。余之罪也大矣。今十四年三月。既閱二歲。而因循未果。其將何顏以見君哉。雖遲矣。而聞太君益康健。則烏可無一言乎。得罪大數。句覺文勢。余聞儉者壽。蓋不多費。不安用。則贏餘自不。得存。故富厚者。節儉理財之贏餘也。壽考者。保嗇養生之贏餘也。勤者壽。戶樞不蠹。流水不腐。周公作無逸。稱殷周先王之壽。歸于勤勞。不敢荒寧。蓋人無不有職分。勤勉盡力。以自慊于其心。則浩然之氣生矣。井臼之勞。訓子之勤。有至樂存焉。是蓋太君之所

以得壽也。此一段可當余又聞子者他日之我也。此謂子自能肖其親。故當自慎也。余未謁太君。然由君以察之。太君靜重而無躁容。溫和而無厲色。靜重溫和。無非所以得壽也。且夫君之孝養。無所不至。舉凡天下悅其親之事。皆足以供之。而所謂亶爲天倫之樂。抑又人世之祥者。尤足以使太君之壽悠久而无疆矣。所以分作三段。猶記己卯五月。余携內人往墨堤。觀菖蒲花。是日天氣和靜。遊人駢闐。偶見君偕太君同車而過。匆遽相揖。無暇交言。然而余心亦若有樂油然生者。曩時之情景宛然在目。不謂既經二二年之久也。多願。

何公使曰。義理精粹。此應酬作中。極有根柢之文也。

細川十洲曰。誦此文。如食防風粥。口香三日矣。

黃參贊曰。雖曰讀此。如食防風粥。口香三日。然其理皆如三枝。

粟布帛。日々用之。不厭其質。真乃儒者之文也。

○明主安南ヲ棄ツ 內藤耻叟

今ノ安南ノ地ハ、漢ノ交趾ノ地。元來支那ノ版圖ニ屬セリ。唐末ノ亂ヨリ獨立國トナリ。明ノ初年マデ。凡四百餘年ヲ經テ。永樂ノ時ニ至リ。其國大亂アルニ乘ジ。兵ヲ發シテ之ヲ平ゲ。二十年ノ征討ヲ致シテ。四十八州。一百八十縣。三百十二萬。余戸ヲ支那ノ版圖ニ復シ。交趾布政司ヲ設ケテ。其地ヲ統治スルヲ得タリ。未ダ一年ナラズシテ。其民復叛キ。屢大軍ヲ發シテ之ヲ征スレド。管ニ功ヲ成スヲ得ザルノミナラズ。兵ヲ勞シ。財ヲ費ス。幾鉅萬ナルヲシラズ。宣德年間ニ。幸ニ其內臣ノ中ニ。僞リテ舊主ヲ復立センコトヲ謀リ。之ヲ明ニ請フ者アリシカバ。安南ノ棄ベキト。棄ベカラザルトヲ大臣ニ諮詢

セラレシニ、武臣張輔尙書蹇義ナドイヘル人々ハ、之ヲ棄ツル
ノ名ナクシテ、大ニ弱ヲ四方ニ示シ、國威ヲ損センヲ論ジ、猶
此上ニ幾鉅ノ兵費ヲ要スルモ、遂ニ討平ヲ期スベキヲ陳請
セシニ、時ノ名相ナル楊榮楊士奇ハ、務テ其棄ツベキヲ首唱シ、
明君國內ノ民命ヲ撫卹センガ爲ニ、荒服ノ地ヲ棄ルハ、決シ
テ無名トハイヒガタシ、且彼ハ蕞爾タル一小國ノミ、今之ヲ
得ルモ我ニ益ナク、之ヲ棄ルモ亦敢テ損スル所ナシ、昔漢ノ
元帝賈捐之ノ議ニ從ヒ、朱崖郡ヲ棄タルハ、前史以テ美談ト
ナス、元帝ハ中主ニシテ猶コレヲ能ス、況ヤ今陛下ハ天下ノ
父母トシ、何ゾ如此、小國ト得失ヲ比較スルヲ用ンヤ、宜シク
斷然之ヲ棄テ、以テ内外ノ民命ヲ安ンジ、財ヲ無益ノ遠征ニ
費スベカラズト奏セシカバ、明主逸ニソノ言ニ從ヒ、安南國

ノ自立ヲ許セリ、其後兵費ヲ省キ、民命ヲ安ズルヲ、年々幾鉅
萬ナルヲ知ラズト、明史ニ此事ヲ評シテ、楊士奇楊榮二人ノ
老練ニメ、國體ニ通達スルヲ稱セリ、然ルニ後世ノ論者其時
勢ヲ察セズ、事ノ輕重ヲ知ズシテ、妄リニ之ヲ非議シ、四百年
來我ニ叛キタル國郡ヲ討平シタル武功ノ終ラザルヲ怒リ、
自是中國兵威ノ大ニ誦シ、遠夷ノ朝貢至ラザル者多シナド
、論ジ、或ハ云フ、永樂以來、久ク版圖ニ隸シテ、其國ノ叛臣兵
ヲ弄シ、敢テ天朝ニ叛ク、王誅ノ必ス加ル處ナリ、敗衄相尋ト雖
モ、豈中途兵ヲ罷ルノ理アラシヤナド、虛矜輕躁ノ議論ヲ發
スルモノアレドモ、畢竟少年推鋒ノ論ニシテ遂ニ楊士奇ガ
議論持重、大體ヲ知レルニ及バザル萬々ナリ、若レ此時前ノ如
キ少年推鋒ノ論ニ從ヒ、猶大兵ヲ發シテ之ヲ征服センヲ謀

ル也、其成功ハ固ヨリ容易ナラズ、又如何ナル内訌外釁ヲ生
ズベキモ測ルベカラズ、試ニ其時勢ヲ察スルニ、倭寇アリ、北
虜アリ、其兵ヲ用テ掃鋤スベキ者ハ甚多シ、獨リ安南ノミナ
ランヤ、其制シ難キ者ニハ屈膝シテ、兵威ヲ伸ブルコトアタハ
ズ、只彼ノ之ヲ得テ利ナク、之ヲ失フテ害ナキ、小國ニ向ヒテ
勝敗ヲ争フカ如キハ、豈之ヲ策ノ得タル者トイフベケンヤ、
又武威ノ強キ者トイフベケンヤ、譬ハ南隣ノ貧者ニ向ヒ、其
老母弱子ヲ恐嚇スルハ、勇アルニ似タレ、北隣ノ暴人ニ遇
フテ、其鼻息ヲ仰キ、其奴隸トナルノ耻ゾベキヲ知ラザル者、
豈之ヲ眞武トイフベケンヤ、先年或親藩ノ大國ト隣比ノ小
藩ト、其民原野ノ境界ヲ争フコトアリシニ、大藩ノ吏人大ニ之
ヲ憤リ、其境界ニ臨ミ、小藩ノ家老ヲ喚召シテ、嚴シク之ヲ詰

問シタルニ、其家老ハ有名ノ武勇ナリテ從容トシテ言フ、隣ハ、弊
藩ノ貴大藩ニ於ルハ、恰モ弱子ノ慈父ニ於ルガ如シ、平時ニ
其救助庇蔭ヲ仰クベキハ勿論、一旦緩急アルニ臨ンデハ、一
ニ貴藩ノ命ニ從テ進止ヲ決シ申スベキ事ナレバ、區々タル
原野無用ノ地ヲ争ヒ、徒ラニ紛紜ヲ生ジテ、大藩ノ歡心ヲ失
ハンコトハ、決シテ一藩ノ好ム所ニ候ハズ、故ニイカントモ貴
意ノ如クニ取計ラハレシコトヲ請フト、穩ニ答辨セシカハ、大
藩ノ吏人モ流石ニ其言ノ理アルニ服シ、入モ互ニ争競ノ念
ヲ止メテ、正シク境界ヲ定メタリ、コレ畢竟其人ノ民望ヲ得
タル故トハ云ヒナガラ、無益ノ争論ハ爲ニ歡ヲ大國ニ失ハザ
ランコトヲ求メシハ、實ニ人望ニ負カズトイフベシ、凡ソ國ノ
強弱ヲ争ヒ、兵ノ長短ヲ較スル時ニ臨ミテハ、老成持重ノ論

ハ常ニ少年銳氣ノ説ニ敵シ難ク、動モスレバ容易ニ兵端ヲ開キ、遂ニ兵連リ禍結ビ、鄰敵間ニ乘シ内証之ニ應スルノ日ニ至リ、千萬悔悟スルモ、既ニ及ビ難キ者ナレバ、國ノ經濟ヲ議スル者ハ、能ク其利害輕重ノアル所ト資力ノ及ブベキト否トヲ測量シテ、而ル後チ事ニ從テ屈伸斟酌スベキナリ、彼明主安南ヲ棄ルガ如キハ、實ニ其時勢ヲ察シ、輕重ヲ量ルノ明カナル者トイフベシ、三楊ヲ以テ有明一代ノ名相トシ、漢ノ蕭曹、唐ノ房杜ニ比スルヲ宜ナルカナ、編者曰此篇非泛

讀史

全

解、向、日、南、止、戰、端、老、臣、謀、議、自、平、安、至、今、心、事、無、入、識、謬、作、荆、秦、一、樣、看、荆、指、王、荆、荆、指、秦、秦、指、秦、槍、
解、向、日、南、止、戰、端、老、臣、謀、議、自、平、安、至、今、心、事、無、入、識、謬、作、荆、秦、一、樣、看、荆、指、王、荆、荆、指、秦、秦、指、秦、槍、
解、向、日、南、止、戰、端、老、臣、謀、議、自、平、安、至、今、心、事、無、入、識、謬、作、荆、秦、一、樣、看、荆、指、王、荆、荆、指、秦、秦、指、秦、槍、

疑人看。

○亞米利加合邦大統領ヘイス氏下座ノ椅子ニ坐ス
阿里昂留學生長谷川次因氏ヨリノ來書ニ曰ク、過日當合衆國大統領ヘイス氏ハ其細君及ヒ書記官二十名ト共ニ西方ニ巡回シ、阿里昂ニ來レリ、其日午前瀛車着シ、直ニ休息所ニ入ル、此日數多ノ人皆大統領ノ來ルヲ今ヤ遲シト待チ請ケ、其來着スルヤ否ヤ當校ノ内外ニ羣集セリ、ヘイス氏ノ細君ト共ニ堂内ニ入り、十分時許ニシテ又細君ト共ニ戶外ニ出テ高聲ニ衆ニ語リテ曰ク、余今日此ニ來リ、諸君ニ面スルハ幸甚ニ堪ヘズ、諸君ノ奮勵ニ由テ、當地ノ教育、其盛大ヲ致スヲ欣喜ノ至リナリ、抑、人間ノ事ハ教育ヲ始トス、教育ノ事タルヤ、天理人道ニ隨ヒ、能ク其才力ヲ展ベ、以テ天賦ノ自

由、ヲ、啓發ス、ベキ本源ナリ、開化ノ要領ナリ、印甸人ノ如キ、今日ハ白人ノ下ニ坐スト雖、實ハ比肩スベキ兄弟ナリ、他人ノ痴愚暗弱ト不幸トヲ扶ケ導キ、其道ニ由ラシムルハ、人ノ職分ナリ、願ハ諸君能ク印甸人ヲ教導愛視セラレヨ云々、其外短話ヲ以テ教法ノ事ヲ勸諭シ畢リテ曰ク、今日ハ至急ハ、ンコーパー島ニ向テ往ザルヲ得ズ、残念ナレ、諸君ト談ズル此ニ止ル、又再會ヲ期スト言ヒテ、誰レ彼レヲ論セズ、一々握手禮ヲナシ、加フルニ親切ナル言語ヲ以テセリ、時ニ書記官一名、余ノ傍ニ來リ、語リテ曰、君ハ我大統領ニ面スルヲ欲スルヤ、吾ト共ニ來レト、余コレニ從フ、時ニ大學教師傍ニ在テ、此人ハ日本ノ學生、當校ノ生徒ナリトイヒ、余ノ姓名ヲ陳ス、ヘイス氏直チニ余ノ手ヲ握リ、コレハ、君能ク我國ニ

遊學被致、他日ノ成業ヲ樂ミ、マストイフ、細君モ亦余ノ手ヲ握リ、莞爾トシテ懇ニ成業ヲ望ムヲ言ハル、是日余及ヒ他ノ生徒五六名、食堂ノ掛ヲ命ゼラル、晝飯ノ用意成ルニ及テ、ヘイス氏下座ノ椅子ニ坐セントセシカバ、或人玉座ハ彼ニ在リト上座ヲ指セシニ、ヘイス氏、否々何ニテモ宜敷御坐ルトイヒテ、自ラ末座ニ坐シ、生徒ト同食ス、遂ニ印甸人ノ學校ニ至リテ演説ス、畢リテ再ビ瀛車ニ乘リ、バンコーパー島ニ向テ發出ス、

○詢堯齋文鈔後序

重野成齋

余少在郷里。獲津侯與安中侯往復書牘。觀其論事。鑿々中窾。以謂。二侯蓋當世賢豪。而其藩又皆幕府勳舊。異日柄用。施諸行事。者可期也。戊申歲。負笈游江戶。則津版通鑑適成。津侯自序之云。

王安石害君實在位。投之史局。不得參廟議。遂流新法之毒。故通鑑。在當時。則為不祥書。在後世。則為一大龜鑑。不幸乎君實。而幸於天下。余讀而心益躋之。居數年。外舶踵至。朝野紛擾。幕府大臣。拜黜相望。以及丁卯還政之舉。安中侯先已歿。津侯雖名績烜著。終亦不得一柄國。嗚呼。方幕府未造。稅政百出。誠得賢而有學。如二侯者。則或將有所矯正。而津藩資望最崇。號稱西岳。不幸弗得効力於國家。而區々從事乎校書刊本之末。得無與君實史局事。相類邪。雖然。津版通鑑。校訂精核。諸本莫能及。自此版出。至舶齋殆絕。天下學者受其賜。則不幸乎君實。而幸於天下者。殆侯自道也。夫侯以藩政餘暇。命其儒臣。刊此書。豈汲々欲以之傳天下後世者哉。然而天下後世之受其賜。乃在乎此事。固有出意料之外者。今夫諸侯之用事幕府。大權在手。宜功業可傳者矣。然余觀近

時事。或職陞元老。一朝危禍。身蒙名辱。或受守關大任。變起忽卒。兵敗國滅。此皆與津藩資望相若者。向使津侯當路。其能保無二者之禍邪。且此二者亦欲立功濟時。豈有它意。而及事敗。禍竟延家國。然則禍福幸不幸之際。未可以一概論也。幕府既廢。津侯亦納茅土於朝。文酒風流。以自消遣。屬者整理其所為文。命曰詢薨齋文鈔。徵余一言。余受公知。雖為日猶淺。自少觀公文。於其心事。遭際竊有所窺。故敢以此說進。不知公以余言為有合否邪。若其文。安中侯以下名賢碩儒。贊評悉備。故不復及。

立言有體。而立言各有其人。僕若以是立論。則若近乎諛。而且世人不甚信。而且老侯亦不甚喜也。必至于地位名望族籍。如吾成齋兄者言之。而世人信之。老侯甚喜之。而僕亦為麻姑抓痒之想。蓋此序於老侯。尤不可少矣。敬字評

○拿破列翁放言序

中村敬宇

拿翁自少年時修身潔行。絕聲色之慾。勤敏精細。不厭勞苦。深疾懶惰。蓋其志在于榮名。而能得其可進于此之道。毋怪乎其功名輝映一世也。諺曰。有心志。斯有道路。拿翁愛此語。亦善踐之矣。或有議其末路蹉跌者。余曰。英雄猶名花。須當在爛熳盛時觀之。過此不當議也。

川田甕江曰。英雄比名花。絕妙好評。拿翁應含笑於九原。

○內藤大人長古至理名言。不堪感嘆。走筆次其韻。題曰正理歌。

中邨敬宇

治國有本。問如何。我今試為正理歌。外正理而語富強。滔々不異。逐逝波。莫哀乎心死而身次之。莊周此言勿勿々看過。天理人情。以為政。反之而行禍必多。自反而縮。吾往矣。卓見我深喜。孟軻遂

過非難。改過難。逆理悖情。必悔。嗟。譬如前醫誤。治瘵不改。恐遂誤。生涯。又如一事欲文過。十事罪過陸續加。古曰自勝之謂強。利欲貪心是惡魔。又曰驕泰以失之。胸中須防此毒蛇。遷善改過。是上策。不然到處窶網羅。願我虛心聽正理。務存信實。去浮華。碧眼終非我族類。亞細宜合為同家。寄語世上愛國者。慎勿顛狂逐風花。

○讀敬宇先生正理歌有感 愚亦做響作積理歌。

內藤耻叟

聖人治民。果如何。我今試唱積理歌。真積力久。光輝發。煥爛旭日。映海波。有物有則。民秉彝。所好惟德。勿漫過。天之所祐。人所附。只在理民感。尤多。理義悅心。如駕象。至言我深服。孟軻後人。不察理所在。興利釀害。不勝嗟。先見鈔楮濫發。害黃金。生翼飛天涯。又見文書煩密。害事冗費。冗稅歛加。又見改作好事。害廢置。併省如瘋。

魔。又。見。驕。矜。文。飾。害。虛。扮。龍。鱗。走。枯。蛇。其。他。弊。害。不。可。言。筆。端。一。々。難。駢。羅。是。皆。坐。人。不。知。理。尙。名。棄。實。崇。虛。華。嗚。呼。若。欲。四。方。民。心。服。惟。須。理。義。安。國。家。請。看。橐。駝。移。樹。術。培。養。根。本。開。百。花。

○記額蘭德君夫人之話

吾妻兵治

北米前大統領額蘭德與其夫人。歷遊四方。明治十二年某月。來我日本。朝廷以皇族待之。禮數有加。於是自公侯薦紳。以至士庶人。爭先迎謁。大者特力徵逐。小者類求招享。如空谷見佳人。如子弟慕父老。事皆發于中心。不須文飾。君甚樂之。留一月而去。其歸北米也。同鄉女學校生徒數十人。相議設茶會。以請夫人。坐始定。生徒交口問諸邦風土人情。且曰。何國最樂乎。夫人感嘆良久。曰。莫如日本也。心樂如彼。豈可復得乎。皆曰。何爲其然。對曰。卿等年少。恐未及知矣。夫婦人之樂。莫樂於見其良人。怡々之顏也。此

行足跡遍宇內。文物則英佛日煥。奇古則羅馬希臘西班牙埃及。亞弗利加之蠻陋也。亞細亞之半開也。上尋創始神聖之跡。中吊羣雄興亡之處。下觀凡百事業日進之實。到處值殊遇。所欲無不得焉。自外面見之。當有可樂而無可憂。然而良人顏色。皆陰晴不常。而吾心亦從伸縮矣。獨於日本。則不然。留月餘。融々其神。藹々其容。未嘗頃刻見無聊不平之色。吾侍之。常有春風和氣。騎鶴遊帝卿之想。蓋諸邦待我以禮貌。日本以誠實故也。

至外國而良人顏色陰晴不定者。以交於名士俊傑之間。其胸中常有所警戒也。其曰日本待我以誠實者。豈非反言以諷之乎。愧甚。敬字

○清魯關繫論序

中島 雄

鄰人火ヲ失セハ、我ガ屋上ニ登リテ之ヲ防禦セザルベカラ

十八
ズ、我が屋上ニ登リテ之ヲ防禦スルハ、隣人ヲ助ケテ之ヲ撲滅スルニ如カズ、鄰人ヲ助ケテ之ヲ撲滅スルハ、鄰人ニ勸メテ之ヲ失セシメザラント欲セバ、ソノ竈ノ直突スル歟、ソノ積薪ノ傍ニアル歟。ヲ平生ニ察セザルベカラズ、コレ余ノ清魯關係論ヲ譯スル所以ナリ、清魯關係論ハ原名ヲロスツ。チアイニース。クエスシヨント云ヒ、本年八月上海セルシチアル。エンパイア新聞社ニ於テ印行セシモノ、僅々ノ一小冊子、固ヨリソノ委曲ヲ知ルニ足ラズト雖ドモ、マダソノ概略ヲ察スルヲ得ベシ、苟モ之ニ由テ更ニ曲突ヲ爲ラシムルヲ知り、遠ク積薪ヲ徙サシムルヲ知り、終ニ牛ヲ殺シ、酒ヲ置キ、頭ヲ焦シ、額ヲ爛スルモノヲ、上行ニ請フヲ爲サシムルニ至ラザレバ、豈タゞ鄰

人ノ幸ト云ノミナランヤ

編者曰。頃得此書。通讀數過。覺兩國關係躍出眼前。且如其地圖。最詳密。多他書不載者。宜其致一時洛陽紙價貴也。

敬字曰。于役中。有此譯述。其勤學可想。

○三字之精神

中村正直

有レ人焉。或能自振於功名。起自草澤。致位卿相。或學識淹通。今古舉世賴以定方向。或創造新事新器。利用溥於後世。凡如此之人。身歿後。汎覽其生平。則莫不具一己之精神氣象。流通於其紛絮錯雜之中者。非如下庸碌者流。一生散漫無統。其面目性情。不可得而識也。一人且爾。况於能自創大業。立洪基。以致垂統綿延於數百年之久者乎。伯夷。聖之清者也。伊尹。聖之任者也。柳下惠。聖之和者也。孔子。聖之時者也。所謂清任和時者。道四聖人之精神

氣象者也。夏尙忠。殷尙質。周尙文。所謂忠質文者。道三代之精神氣象者也。善畫人者。不過阿堵一點。頰上三毛。而通體皆靈。全身皆動矣。如孟子之評四聖。董子之論三代。謂之傳神之筆。可也。余倣此意。通覽德川氏數代之事。察其精神氣象。而唯以三字下評。曰。納直諫。蓋東照宮之常汲々于開言路。通下情者。世人之所知也。吉宗公患有冤獄。設日安箱。親開封書之緘者。膾炙人口矣。其他子孫之裂土受封。如三藩之祖。尤能師法此意。而諸藩有納諫之君。多直言之臣。亦莫非職是之由也。於戲盛矣哉。余猶及見天保改革弊政之時。誹謗新令者。滿于朝。作俳調毀大臣者。溢于野。然而不聞有一人之被告訴。見囚繫者也。天保之季世。而尙如此。可以想見其盛時之風也。吾故曰。納直諫三字者。德川氏之精神氣象。流通于數世之間者也。

同人社紀事 辛巳第二月

○朝野紀事大要 明治十四年辛巳三月下半

布哇國王歸。

是日春季皇靈祭。會俄羅斯帝之喪改日。

日闕 日本鐵道會社成。

二十日 文部省新置內記局。

九日 東京小石川江戶町十八番地

每月本局同人社
二回編輯長 中村敬宇
發兌印刷 吾妻兵治 佐藤昭德

○社告 發兌日每月十日二十日

從來本誌合本四方ノ注文陸續絶エザリシモ何分不揃ニテ其需ニ應シ兼子タリ因テ此般讀者ノ便宜ヲ計リ更ニ缺本ヲ摺立左ノ期日ヲ以テ發賣致スヘシ但シ日本仕立

三月十日行一月次小試驗其優等
進級者千三百餘人
期進見十郎太前須中自融細科四等
等乙進同十郎太前須中自融細科四等
隆仙乙進同十郎太前須中自融細科四等
島又四山森二小村田貢自融細科四等
甲進野一矢崎郎林晉勸之助橫科一
二同野一矢崎郎林晉勸之助橫科一
太造藤平俊讓乙新由郎高田銀等
雨次自豫科長正藤崎山榮助和武正
代清風木村科二忠三郎進同田昌福甲
延官藏一自豫科長正藤崎山榮助和武正
村官藏一自豫科長正藤崎山榮助和武正
藤郁二一自豫科長正藤崎山榮助和武正
尾幸吉二一自豫科長正藤崎山榮助和武正
箕田長吉二一自豫科長正藤崎山榮助和武正
砂野村吉助正英竹原溝清治三玉野二
小野寺助正英竹原溝清治三玉野二
自正野寺助正英竹原溝清治三玉野二
自漢學五等進同四等能勢頼介福

1. Faithful friend is a strong defence.
2. A libertine's life is not a life of liberty.
3. A little neglect may breed great mischief.
4. A needy man's budget is full of schemes.
5. A stitch in time saves nine.
6. A small leak will sink a great ship.
7. A soft answer turneth away wrath.
8. A wounded reputation is seldom cured.
9. Abundance, like want, ruins many.
10. A poor freedom is better than a rich slavery.

- 一 信友者堅城也。
- 二 放肆之生非自由之生。
- 三 小怠可以養大禍。
- 四 貧人囊中滿計策。
- 五 一縫針投其機則省九針。
- 六 細罇可沈巨船。
- 七 溫柔答言縱回人之怒。
- 八 名譽受傷痊治者鮮矣。
- 九 物之過多猶缺乏其誤人夥。
- 十 貧窶自由愈於富厚隸屬。

○近藤君壽藏碑銘

中村敬字

嗚呼。今世師弟之誼。日以偷薄。吾憂其蕩然不返也。如近藤君及其門人。豈易得哉。君名直藏。姓近藤氏。字季邦。文政五年生。于下總國北相馬郡中谷村。父曰安清。邃算法。多從學者。母市田氏。有五男二女。君長子也。性孝順。幼好學。師寺田林直。每日歸自校。則服事稼穡。及壯爲里正。師伊豫人黑川良平。益研學。明治五年縣令河瀬秀治。建共立校於區內三所。君選爲中谷村校教員。誘迪子弟。極懇篤。八年罷職。其子臺吉代之。明治十三年三月君又選爲學務委員。無何兼衛生委員。今年六十。門人將立碑以表師恩。請余文。余以其事之關于世教。欣然諾之。因系以辭。曰。

帶經而鋤。漢有兒寬。晉皇甫謐。耕讀俱勤。

明、吳、康、齋、夙、志、聖、賢、弟子、甚、衆、並、往、于、田、
雨、被、蓑、笠、春、耕、夏、耘、耒、耜、爲、卦、共、談、乾、坤、
嘆、今、之、人、釋、耒、就、師、學、未、及、成、田、卒、汗、菜、
游、手、浮、食、有、何、異、哉、視、君、少、時、先、賢、同、歸、

重野成齋曰。拈手成韻語。吾兄獨擅。

又曰。結末語句。微覺不足。加以矯時俗。昭告來茲。等句如何。

○狙詐使トナル論

中村敬字

古人云。御ツノ道ヲ得レバ。天下ノ狙詐皆使トナル。御ツノ道ヲ失ヘバ。天下ノ狙詐皆敵トナル。ト味アルカナ。此言ヤ。狙詐トハ。奸才邪智アリテ。詭謀詐計ヲメグラスモノナリ。蓋シ此狙詐ノ者。モトミナ氣ヲ稟クルト厚クシテ。才智秀テタルモノナレバ。田畝ニ耕稼スルヲ甘ンセズ。何ニテモ事ヲナサズ。シテハ。己ム。トアタハザルモノナリ。タトヘバ。虎豹ノ肉ヲ求テ得ザレバ。草木ヲ噬齧シ。終日叫號シテ。ソノ怒ヲ洩スガ如シ。東坡曰ク。國ノ姦アルヤ。猶鳥獸ノ毒螫アルガゴトシ。區處條理。各ツノ處ニ安ゼシムルハ。則チ之アリ。鋤テ盡クコレヲ去ルハ。則チ是道ナシ。コノ姦民ナルモノハ。皆智勇辨力ノ其一ヲ具フルモノニシテ。天民ノ秀傑ナルモノナリ。トイヘルハ。誠ニ達識ノ論トイフベシ。シカラバ。此姦民ノ狙詐ナル者ハ。上ニアリテ。器幹アル人ノ必ズ得ント欲スル所ノモノナリ。苟モ能クコレヲ區處シ。ソノ所ヲ得セシメ。能クコレヲ駕馭シテ。ソノ才ヲ盡サシノバ。吾ガ不世ノ偉勳モ建ツベク。天下ノ危難モ拯フコトヲ得ベキナリ。昔シ曹操許子將ニ問フ。我ハ何如ナル人ゾト。子將對ヘテ。子ハ治世ノ能臣。亂世ノ姦

雄ナリ。トイヒケレハ。曹操犬ニ笑ヒシトナリ。凡ツ亂世ニテ
姦雄ト稱スルモノ。若シコレヲ用フル人アラハ。皆能臣タル
ベキモノナリ。タゞ其才アレトモ。コレヲ用フル人ナキニヨ
リ。空ク草莽ニ老死スルヲ口惜シク思ヒ。甘シテ姦雄トナル
ノミ。豈獨リ曹操ノミナランヤ。余コレニ因テ感ズルアリ。
武則天ノ時徐敬業義兵ヲ舉。駱賓王ヲシテ討武氏檄ヲ作ラ
シム。則天后コレヲ讀ミ。一抔之土未乾。六尺之孤安在。トイフ
ニ至リ。其文才ニ感シ。誰カ之ヲツクルト問フ。左右ノモノ。駱
賓王ナリト答ヘタレバ。則天曰ク。奇才ナリ。宰相何トテ此人
ヲ失シヤト。余毎ニ嘆ジテ已マズ。嗚呼則天女中ノ英雄ナル
カナ。夫レハ才ヲ用フルハ。宰相ノ任ナリ。才ヲ失フノ罪。コレ
ヲ宰相ニ歸シテ。而シテ。オオ愛シ。人ヲ用フルノ意ハ。言外
ニ從レタリ。宋ノ文帝何尙之ヲ詰リテ曰ク。孔照先ヲシテ年
三十ニナラントスルマデ。散騎郎ニ沈滞セシム。豈ニ賊ヲナ
サズシテ己ムベキヤト。是又ソノ賊ヲ爲スヲ咎メズシテ。ソ
ノ才ヲ盡サバ。ルヲ恨ム。八君トナリ。宰相トナルモノ。コノ識
見ナカルベカラズ。人才ハ火ノ如シ。能クコレヲ用フレバ。日
用飲食。少シモ缺クベカラスシテ。其利益勝ゲテ言フベカラズ。
シカルニ。一モコレヲアヤマリテ失ナヘバ。大屋ヲ燒キ人民
ヲ殺シ。其害マタ舉テ言フベカラズ。マタ人才ハコレヲ風ニ
タトフ。同ジクコノ風ナリ。我ニ風ヲ得バ。ソノ利。我ニアリ。我
ニ風ヲ失ヘバ。ソノ利彼ニアリ。漢ノ時。洛陽ニ劇孟ナルモノ
アリ。任俠ヲ以テ顯ハル。シカルニ。博ヲ好ミ。少年ノ戲ヲナス。
吳楚ノ反スル時。周亞夫大尉トナリ。河南ニ至ル。劇孟ヲ得テ

喜テ曰ク。吳楚大事ヲ舉テ劇孟ヲ求ズ。我ツノ能ク爲ルナキヲ知ルノミト。司馬遷游俠傳ニ。ソノ事ヲ載セテ曰ク。天下騷動シテ。宰相コレヲ得ル。一敵國ヲ得ルガ如シト云トイヘリ。ソノ劇孟ハ一人ナリ。吳楚コレヲ求メズシテ敗レ。條侯コレヲ得テ利アリ。コレ吳楚ハ。火ヲ失シテ。漢ハ火ノ用ヲ得タルナリ。吳楚ハ。風ヲ失ヒ。條侯ハ。風ヲ得タルナリ。一人ノ身ニシテ。大國ノ勝敗ニアツカル。カクノ如シ。豈游俠ヲ姦民トシテ輕ンズベケンヤ。余マタ季布ノ傳ヲ讀テ感ズル。トアリ。高祖季布ヲ恨ミ。千金ニ購求セラレシ時。魯ノ朱家ナルモノ。季布ヲ己ノ家ニ藏シヨキ。滕公ニ謂ヒテ曰ク。今上始テ天下ヲ得玉ヒ。ヒトリ己レノ私怨ヲ以テ。一人ヲ求ム。何ゾ。天下ニ示ス。トノ廣ク。ザルヤ。且。季布ハ。賢ヲ以テ。漢コレヲ求ム。トハ急ナル。此ハ。如シ。コレ北。越。走。ハ。南。越。ニ。走。テ。夫レ。壯士ヲ忌ミテ。以テ敵國ニ資助ス。此伍子胥ガ荆ノ平王ノ墓ニ鞭ウツユヘンナリト云ヒケレバ。滕公アルトキ。朱家ノ申セシ如ク。高祖ニ言ケレバ。高祖乃チ季布ヲユルサレタリ。ソレ朱家ノ如キハ。大俠ニテ無頼ノ徒ヲ藏活シ。所謂姦民ノ雄ナルモノナリ。シカルニ。高祖コレヲ度外ニ置カレ。ソノ法禁ヲ犯スヲ罪サレズ。藤公モ之ト聲氣ヲ通シテ交ハリ。タレハ。コレ季布ノ賢ヲ失ハズシテ。コレヲ用フル。トヲ得タルナレ。然ラバ。四民ノ外ニアリテ。職掌ナキ游俠ノ如キモ。吾ノ用ヒ様ニヨリテ。大用ヲナス。トカクノ如シ。コレニ由テ觀ルトキハ。姦雄何ゾ。天下ニ負カンヤ。或ハ我コレニ負クノミ。河

西ノ趙元昊反セシ時。張生李生ナルモノアリ。策ヲ以テ韓琦

范仲淹ニ干^{モト}メント欲シテ。自ラ媒スルコヲ耻^ハテ。詩ヲ碑ニ刻^ス。
 ミ。人ニ曳^ヒセテ過シメタリ。コレハソレニ怪マレテ自^ラ達セ
 ノトノ謀ナリ。シカルニ韓琦范仲淹。疑テコレヲ用ヒズ。シバ
 ラクアリテ。西夏ニ走リ。張元李昊ト名ヲ變ジ。到ルトコロニ
 詩ヲ題セリ。元昊聞テコレヲ怪シ。招キ致シテ與ニ語り。大
 ニ悦ビ。奉ジテ謀主ト爲シ。大ニ邊患ヲナセリ。ア、何ゾ元昊
 ノ智ニシテ韓范二公ノ事ヲ觀ルノ遲キヤ夫レ天下ニ棄才
 ナシ。皆用フル所アリ。毒ヲ以テ毒ヲ攻メ。盜ニ因リテ盜ヲ捕
 へ。奸雄ヲ以テ奸雄ヲ制シ。敵國ヲ以テ敵國ヲ攻ム。如此ナレ
 ハ盜賊奸雄敵國皆吾ガ用ヲナス。矧^シンヤ其他豈ニ吾ガ用ヲ
 ナサイルモノアラシヤ。堀左衛門家ニ哭^キ面^シノ武士ヲ扶持ス。
 人無用ノ物トイフ。左衛門日吊ヒニ遣ハスニ然ルベシ。人ノ
 家ニシカ^ラバ善ク人ヲ用フルモトイヘリ。余毎ニツノ確言ニ服
 ス。シカ^ラバ善ク人ヲ用フルモトイヘリ。天下ニアマ^ル棄才ハア
 ルマジキナリ。矧^シンヤ天下ノ狙詐甚毒劇能アルモノニ於テ
 ヲヤ

○讀宋史

中村敬宇

君不知張李二生抱奇才。欲策干之耻自媒。作詩刻碑使人曳。自
 表^シ恠^シ要^シ人知。韓范二公疑不用。一朝奮身走河西。變名張元又
 李昊。到處縱橫遍題詩。元昊聞之延與語。大喜急奉爲謀主。自是
 邊境益多事。羽書日々告旁午。吁嗟乎張李二生何代無我材。收
 之供驅馳。彼材用之爲謀主。吁嗟乎張李二生何國無。

善菴先生遺稿序

內藤聰叟^{名直}

昔者會澤先生著新論。首唱攘夷之說。當天保弘化之間。天下之

士聞風而起者先後輩出。或拾其餘論以爲己說。雷同附和。頗傾動天下。而至於先生憂憤報國之誠。與忠愛惻怛之念。則實未深究之也。嘉永中。米艦入于江戶海。天下騷然。時論無所歸宿。士之憂國者奮然而起。雜然而集。亦皆不過聞先生之餘論而效其轍者矣。時先生猶生存。我烈公與藤田戶田二臣參贊于幕府。與聽其密議。則所以審時勢而綏外內者。蓋既有定算矣。議皆未遑施行。二臣暴歿。公亦得譴于幕府。退居水戶。未幾薨逝焉。於是乎海內不逞之徒。素懷憤怨。以謀傾幕府者。始得行其私矣。時如我水藩。少年兇妄之徒。亦專唱尊王攘夷。以爲公之遺志。附會擴張。大唱虐亂暴戾之說。自稱爲正論。讜議。視其異己者。則指公與會澤先生併爲老廢不辨時勢者。則其他可推耳。於是乎君臣之禮。奉上之義。一切措之。不問要皆悖亂無道。爭是非於君臣之間。詎曲直於倫理之外。履霜堅冰。亦何所底止。終之驅常野之惡徒。無賴之稗民。嘯集山澤。以張兇焰。橫行肆虐。無所不至。因以謀劫我君。引及幕府。以濟其私。亦且憂舉事之無名。推東湖先生二子小四郎爲首。老臣某等亦竊助其謀。是以疑似之說。暴戾之行。或足以惑世人視聽。而動姦雄之心。東西不良之徒。亦隨而附和煽動。世之學士大夫。或首鼠持兩端。獨我善菴國友先生。措身於此間。終始一節。誓死不撓。以至於沒焉。先生諱尙克。字□□號善菴。初學於高橋子大。與會澤東湖二先生交誼尤厚。嘉永安政中。擢爲學校教授。烈公之旣薨。海內不良之徒。與一國兇暴之徒。內外相應。以謀作亂。先生慨然自任。以道義之重。屢與之抗論。爭辯不遺餘力。故兇徒視先生爲邪首姦魁。百方謀除之。先生嫡子某旣嬰兇鋒而死。先生志氣愈壯。不少屈撓。益唱其說。一藩忠義之士。賴以

爲重。幸得不變其節。以維持名分者。先生之功。可謂甚偉也。初會澤先生憂下一藩。兇妄之士。或有中謀。傾幕府者。慨然上書。痛辨折之。識者稱爲一世之至論。而亦善繼其志。以維持禮教。獎勵忠義。正直不肖。自幼受業於先生。常服其教養。而進退去就。奉以周旋。于艱難之間。爲之擯斥數年。殆死而僅生者。不知其幾回。而先生亦屢辱書簡。以賜誨責。正直幸得免於陷不義。而至于今日。實賴於先生誨責之力也。今者先生之二子。□□。集其遺稿。編爲二冊。將行之世。使正直序之。正直之於先生。蒙其教誨。如此其厚。而先生之於國家。矯救獎勵之功。如此其大。則集序之作。豈敢以不文辭之哉。乃略叙當時天下之形勢。與先生之大節。以爲之序。若其文辭之足。以維持名教。風勵節義者。則讀者自宜知之云。

敬字曰。讀者唯聞其大聲壯語。侃々議論。而不見文字。乃是

文字之至者。

○讀下鳥尾君見寄敬字先生長篇疊韻卻寄。

棚橋嘉忠

得。菴先生近如何。思君遙寄疊和歌。許國豈非平生志。何事一擲付烟波。千鐘難繫冥鴻足。百年宛如駿馬過。有玄可談壞可擊。萬法一如不厭多。魚忘江湖人忘道。勿言魯叟遂轍軻。月映萬川皆自得。入海何須空歎嗟。脩身以俟。非外朝聞夕死。可生涯。春風貽蕩未嘗老。秋月玲瓏亦何加。何苦營々年又歲。唯我所招佛與魔。一身甘受名利縛。眞妄誰辨杯中蛇。醞雞世界時一顧。多少英雄入雀羅。請君自愛垂天翅。莊叟寓言非空華。我曾訪君君記否。觀岳坊中舊時家。美人一去春寂々。思入浪華城南花。

敬字曰。知道者之言。津々有餘味。

○上古教育ノ沿革 教育辭林中

木村一步

教育史上最初ニ地位ヲ占領スル者ハ、埃及支那印度及ヒ伯
 斯ノ學校是ナリ、此諸國ニ於テハ社會ノ制度ヲ變革セス、
 テ之ヲ後世ニ傳フルヲ以テ、其本旨トス、故ニ教育者モ亦少
 年ヲ教育シテ、其從屬スル社會ト性質ヲ同ウセシムルヲ以
 テ、其本旨トセリ、而シテ當時ニ在テハ、固ヨリ獨一個ノ權利
 アルヲ知ルコトナク、威權ノ確立セル者ヲ崇尊シ、其命ニ從順
 スルヲ以テ教育ノ基礎トセリ、然レモ此諸國ノ教育景况ヲ
 比較シ視ルニ、各國少ク異ナル所ナキニアラス、支那ニ於テ
 ハ家庭ノ教育ヲ主トシ、印度ニ於テハ四姓ノ教育ヲ主トシ、
 伯斯ニ於テハ政府ノ教育ヲ主トシ、埃及ニ於テハ宗教ノ教
 育ヲ主トセリ、支那ニ於テハ各戸ノ兒童、其戸主ニ隸屬シテ、
 家庭ノ養育ヲ受ケ、其戸主タルモノハ、國帝ニ隸屬シ、之ヲ仰
 テ、衆庶ノ父ト爲セリ、且此國ニ於テハ祖先ヲ重ニスルノ心、
 程度ニ過クルヲ以テ、人民ノ性質自ラ停滯不流ニ陥リ、教育
 ノ性質亦無氣ノ演習ニ近シ、印度ニ於テハ國內ノ兒童生レ
 ナガラニシテ各々其特種ノ姓ニ隸屬ス、是ヲ以テ兒童ヲ教
 育スル者ハ、之ニ教フルニ已レ、タレスト姓ノ權利ト義務トヲ以テスル
 ヲ先務トセリ、伯斯ニ於テハ其國王、各種ノ權力ヲ收攬シ、兒
 童タルモノ其政府ニ隸屬シテ其父母ニ隸屬セス、埃及ニ於
 テハ其兒童、皆僧侶ニ隸屬シ、獨リ僧侶ノ一種屬、兒童教育ノ
 事ニ擔任シ、教師タル者ハ蓋ク此種屬ヨリ出テタリ、希臘羅
 馬ノ二國興テヨリ、教育史中ニ新紀元ヲ立テリ、抑、東洋諸國
 ニテハ、其教育ノ本旨タル兒童ヲシテ、家庭種屬政府若クハ

宗教ノ教育ヲ受ケシメ、以テ順良ノ人タラシムルニ在リト雖、希臘羅馬ノ二國ニ於テハ然ラズ、獨自教育ノ主義ヲ執リ、其人民タル者、其身ヲ家庭種屬政府若クハ宗教ノ範圍内ニ適合セシムルノミヲ以テ足レリトセズ、尙且其自己ノ職業ヲ撰擇シ、或ハ官途、或ハ藝術或ハ文學ニ於テ高等ノ地位ヲ占領シ、以テ其祖先ノ右ニ出ントスルノ希望ヲ懷ケリ、是ニ於テカ、心ヲ教育ノ事ニ留ルモノハ、兒童ノ心身ヲ偏頗ナク暢發スルヲ以テ其主眼トシ、利固爾厄蘇倫ハ立法者トナリ、比撒固拉蘇克刺底ハ實地教育者トナリ、伯拉多亞里斯的多ハ教育論者トナリ、各夥多ノ新思想ヲ説明傳播シタリ、此新思想ハ古代他國ニ於テハ未ダ曾テ知ラレサル所ニシテ、教育上ニ影響ヲ及ス、甚大ナリ、希臘人ハ美麗ナル獨一個ノ

氣象ヲ以テ、人類生活ノ正鵠トシ「カロガチヤト」云フ語ヲ以テ教育ノ軌範トセリ、「カロカガチヤト」ハ美且善ナルノ義ナリ、羅馬ニ於テハ常ニ戰爭ヲ事トスルヲ以テ、其人民幼稚ノ時ヨリ心ヲ國事ニ留メ、教育者ハ、兒童ヲシテ實地敏捷ノ人タラシメ、其獨一個ノ氣象ヲ實地ニ暢發セシムルヲ以テ其正鵠トシ、文學技藝ノ研究ニ時日用井ル、少ナク、又心ヲ之ニ留ル、少ナシ、然レ亦家庭ノ教育ヲ重ニスル、厚ク、國內父母タル者皆兒童ヲ教育スルヲ以テ其義務トナシ、母ハ兒童教育ノ端緒ヲ開キ、父之ニ繼テ其事業ヲ執リ、兩親協力同心シテ、兒童ノ心田ニ愛國ノ心ヲ播植シ、且之ヲ教育シテ國家ニ有用ナル剛毅穎敏ノ人タラシメント欲セリ、蓋シ羅馬人ガ善論學國史兵學等ノ如キ專ラ實地ニ利益アルノ學

科ニ留意スルヲ視テモ、其貴顯子弟ノ才能アルモノハ、政事家若クハ將軍トナリ、名譽ヲ得ルニ志スヲ推知スヘキナリ、共和政治衰頹ノ以前ニ在テハ、羅馬人道德ニ厚ク、殊ニ官途ニ在テ剛直不撓ノ美德アリ、然レ自國ヲ重スルノ心ニ厚クシテ外國ヲ重スル心ニ薄キカ爲ニ、其知識及道德ノ志望、頗ル狹隘ナリ、其後希臘ヲ征略シテ、其制度ノ美ナルヲ視、殊ニ其知學技藝文學ノ三科ニ於テ、未曾有ノ大進歩ヲ爲シタルヲ視、之カ爲ニ自國ノ文藝ノ煉修ヲ一層高上ノ域ニ達セシメントノ渴望ヲ起シタリシガ、不幸ナル哉、此國ノ制度ハ既ニ解弛ノ兆ヲ顯ハシ、高貴ノ家ニ於テハ高等教育ノ備アリ、又文學技藝ヲ煉修スル者アリト雖レ、家庭教育ノ衰頹ヲ維持スルヲ能ハス、羅馬ノ自由制度ヲ壓倒スル弊風ヲ防遏ス

ルヲ能ハス、終ニ皇帝政治トナルニ至テ、普通教育ノ模範全ク滅ヒタリ、羅馬城建築ノ時ヨリ、其帝國滅亡ノ時ニ至ル迄、此國ノ教育ハ專ラ實理ヲ主トスルカ故ニ、亞利斯的^{アリス}多伯拉多ノ如キ教育論者ノ曾テ其國ニ出テシヲ視ズ、然レ亦西魯^ルノ著書、殊ニ塞捏^{セネ}加克温^{カク}的^テ里安^{リアン}ノ著書ノ如キハ、實地ノ教育ニ益アル意見ヲ含蓄スルヲ多シトス、

上帝政治ノ國タル猶太ハ、一種特別ノ地位ヲ教育史上ニ占領セリ、其兒童ヲ教育スルノ本旨ハ、家庭若クハ種属ノ爲ニスルニ非ズ、政府ノ爲ニスルニ非ズ、又文學技藝ニ高名ヲ得セシメンガ爲ニ非ス、只是レ耶何華^{ヤホウ}ノ以色列^{イスラエル}ノ從順ナル臣僕タラシメンガ爲ニスルモノナリ、耶何華ハ其人民ノ君主ニシテ、又其人民ノ教師ナリ、故ニ此國ニ於テハ教育ヲ以テ宗

○社告 發兌日每月十日二十日

從來本誌合本四方ノ注文陸續絶エザリシモ何分不揃ニテ其需ニ應シ兼子タリ因テ此般讀者ノ便宜ヲ計リ更ニ缺本ヲ摺立左ノ期日ヲ以テ發賣致スヘシ但シ日本仕立

- 自第一號 合本 二月十五日出來 定價三拾錢
- 自第十號 合本 二月廿五日出來 定價三拾錢
- 自第十一號 合本 三月二十日出來 定價三拾錢
- 自第三十號 合本 四月二十日出來 定價四拾五錢

本誌十號合本ノ郵稅八錢十五號合本ノ郵稅十錢二冊以上五冊迄一割引五冊以上十冊迄二割引
本誌壹冊定價四錢○半ケ年前金四拾二錢○壹ケ年前金七拾二錢○府外遞送ノ分ハ壹冊ニ付別ニ郵便稅壹錢ヲ受クベシ且ツ前金相切ノ候ハ廢止ノ報告ナシト雖モ送致セサルモトス

大取次

藥研堀町三拾三番地	報知社支店
虎ノ門外琴平町二番地	青霞堂
神田雉子町三十二番地	巖々堂
内幸町一丁目六番地	龍郵印行社

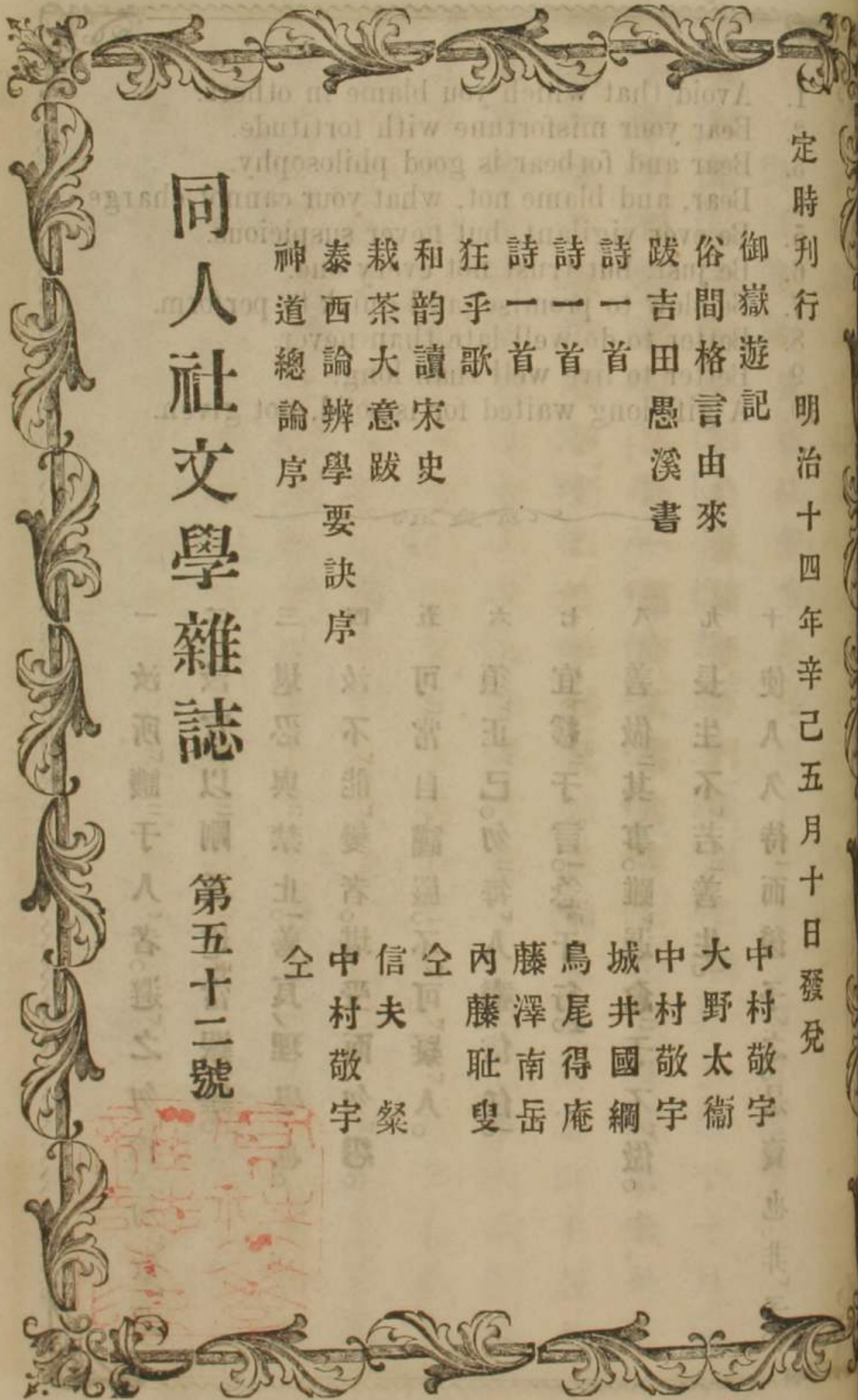
中村敬字先生著

- 西國立志編 西洋仕立 壹冊
- 自由之理 日本仕立 五冊
- 西洋品行論 同 十二冊
- 敬字文 同 二冊
- 西禪雜纂 同 二冊
- 中島雄譯述
- 清魯關繫論 西洋仕立 壹冊
- 神田鍛冶町十一番地 發賣書舖 珊瑚閣

定時刊行 明治十四年辛己五月十日發兌

- 御嶽遊記 中村敬字
- 俗間格言由來 大野太衛
- 跋吉田愚溪書 中村敬字
- 詩一首 城井國綱
- 詩一首 鳥尾得庵
- 狂乎歌 藤澤南岳
- 和韻讀宋史 內藤耻叟
- 栽茶大意跋 全
- 泰西論辨學要訣序 信夫 榮
- 神道總論序 中村敬字

同人社文學雜誌 第五十二號



1. Avoid that which you blame in others.
2. Bear your misfortune with fortitude.
3. Bear and forbear is good philosophy.
4. Bear, and blame not, what your cannot charge.
5. Be ever vigilant, but never suspicious.
6. Be just, but trust not every one.
7. Be slow to promise, and quick to perform.
8. Better to do well late than never.
9. Better to live well than long.
10. A gift long waited for is solid, not given.

- 一 汝所譏于人者。避之勿爲。勿效尤。
- 二 汝宜以剛勇。堪當艱難。
- 三 堪忍與禁止。善良理學也。
- 四 汝不能變者。堪受而勿怨。
- 五 可常自謹嚴。不可疑人。
- 六 須正己。勿每人盡信任。
- 七 宜緩于言。急于行。
- 八 善做其事。雖遲愈于不做。
- 九 長生不若善生。
- 十 使人久待而後予之。是賣也。非予。

御嶽遊記 安政戊午歲作

中村敬宇

余自在江戶日久。已聞御嶽新道之勝甲於嶽矣。丁巳十一月。蒙命督學。缺。翌年二月至任。屢欲往遊。輒爲事所礙。經歲未果。蓋余之於御嶽。若有鬼神靳之者。石野鳳岳。嶽人也。常謂曰。子若行。吾請爲導。杉浦子基亦以爲言。遂以戊午正月某日。與依田某。鳳岳子基偕行。質明發寓。出府城北門。行數里。地勢坦夷。方北有衆山。不甚高峭。而重沓回互。隱秀有致。中通一條路。彎環可登。老松蒼蔚。彌滿山谷。曰和田嶺。比至嶺頭。朝暾漏輝。天氣清朗。顧視芙蓉秀色。隱見亂松。鬱鬱間矣。踰嶺北望。眼界忽濶。行田塍間。數峯當前。如拱如揖。中有玉立瑩徹如戴雪者。曰高砂山。漸近。則山皆白石。而碎爲沙者。遍布徑間。余與依田某攀而上。沙流不堪受。足。

一足將舉。一足已透。引手攀旁邊石。則石轉而下。鳳岳子基慣山行。早已在上頭。俯視吾輩顛頓狼狽之狀。指以為笑也。川田甕江得細微。蓋學自是繞山麓而行。左右回環。不辨東西。忽得一潭。兩崖皆石。蒼黝有皺。小松交絡其罅。直下數仞。水勢甚峻。旁溢為潭。曰長潭。余連呼奇。不己。鳳岳曰。猶未也。猶未也。三字。胎更數折。為不動。瀧水中大石橫焉。可坐十人。前有巖崖。高低相錯。曰獲岩。曰寒山。拾得岩。皆由形得名。水經其下。淙々有響。行數折。嶺斷望開。一水當前。有橋可渡。曰有一年橋。又迂迴而進。有水自巖足而來。有橋。曰柴橋。遙見左有一峯。突兀雲表者。曰覺圓峯。渡橋而左。水益駛。巖益奇。鳳岳曰。自是而至石門。為最奇絕處。繞巖足。沿水而行。一路蒼崖如束。對峙數丈。翠松賴石。延蔓歷落。丹青綺繡。明淨可愛。而向所見。覺圓峯。時左時右。不知路之迂徐宛轉。而以為降。

之遷轉不定者也。奇哉。行數百步。有接待亭。左臨深澗。右迫岩壁。登亭而望。景極多。不遑縷記。傍有碑。刻七十許老人像。骨格匪凡。乃所關新道。圓右者像也。圓右為里。叱。自捨錢財。闢斯道。豈巨靈假手于斯人。以扶千年未發之奇歟。碑亡。友淺野梅堂所撰。今尙可讀。路又左右轉。度巖腹而下。石壁突出當道。若壓復倚。左有巨石。受之。其中可通。數人來往。青苔紫草。縈絡石上。不知幾千年物。是所謂石門也。過石門而左。大石磊砢。橫溪上者。不知其幾。而石壁峻絕。如削成。仰視不計丈。左有奇峰。拔起。壓頭上。猿鳥亦不能攀。乃覺圓峰也。過此而北。巖徑狹深。蜿蜒而上。有華表。曰朝天門。自是而下。左入林中。披荆榛而進。觀雪虹瀑。又少北而左。岩石突怒。水流交衝。左邊石激。響震林壑。岩曰眩岩。瀑曰仙娥。余欲攀石上。以觀其注射之勢。而苦無置足之所。鳳岳以雙手握吾趾。揪而上。予抱石而上。

激湍飛流。澎湃怒溢。大者如珠。小者如沫。毛髮為悚。近日土
 新道。架橋溪上。尤宜觀瀑。名曰朝。又行數折。則地忽夷。景忽曠。田
 天橋。恨不使作者再遊。寫其狀。又行數折。則地忽夷。景忽曠。田
 疇繡錯。遠山數片。如畫圖。茅舍竹屋。處々點綴。曰猪符村。一路曲
 々。引入入勝。所謂千巖競秀。萬壑爭流者。已屬厭矣。至是忽見遠
 山淡宕。田家蕭散。反覺風光一新。造物者布景之妙。一臻乎斯。險
 入夷。野人籬。嘗讀左氏紀大戰。龍戰虎鬪。風雨交馳。讀者色動。而
 未段以間淡之筆。結之。何等神品。豈以此等山水為粉本邪。予嘗
 謂文章之妙。在一轉字。今觀新道之勝。其妙亦然。行里忽見石磴
 數百級。廟宇嚴整。掩映於樹林間。乃嶽祠也。歸路取故道。故道者。
 未闢之前。至嶽祠之路也。風景淡冶可愛。右望信濃衆山。如列翠
 屏。而左則為新道所經之山。而覺圓峰時露其頂於林樹間。余體
 羸弱。不堪遠行。此日健步。不甚疲。歸舍則初更矣。嗟余宦於饒。殆

且一歲。而御嶽之勝。今日始落吾手矣。任滿東歸。無復憾己。是夜
 頽然就寢。而夢魂徇視。猶繞巖壑間也。

川田甕江曰。諸勝中。覺圓峰尤為奇絕。篇中屢揭出。寫其狀。非
 實踐者。不能知此文之妙。

又曰。圖右所闢道。經久壞圯。近者。甲人相議。釀金修之。更開新
 路。以便行旅。請予作碑文。去冬。予應招往游。而未及執筆。今讀
 斯篇。詳記諸勝。吾意所欲言。皆既言之矣。予欲告甲人。刻斯篇。
 以免西蛇足之譏。不知作者首肯乎。否也。

○俗間格言由來並序

大野太衛

世之稱諺者。其為言不必方柄圓鑿。不必塵鈔土蕘。決非龜毛
 兔角。繪夢圓影之類也。至其最善者。不唯為勸善懲惡。或有關
 於撥亂濟溺之術者焉。蓋諺者。俗間之俚語也。而其言之合道

理如此。余抱五里霧之想。嘗矣。今撫其最善者。考證諸漢士羣書。而後始知其言本出於賢哲也。乃世之人不察。而徒以為俚諺。余則斷謂之格言而不疑。於是作俗間格言由來。聞泰西諺語亦多出賢哲之人云。

○同氣同類相求ルヲ「牛ば牛ばれ馬ば馬ばれ」ト云フ由來

列女傳ニ云ク。齊襄王曰。牛鳴而馬不應。非聞牛聲也。異類故也。

○貪欲ノ者ヲ「欲に目見へ」ト云フ由來

呂氏春秋ニ云ク。齊人有欲得金者。清且被衣冠。往鬻金者之所。擢而奪之。吏搏而束縛之。問曰。擢人之金。何故。對曰。殊不見人。徒見金耳。

○此ノ物ヲ他ノ物ニ替ユルヲ「馬れ牛にかゆる」ト云フ由來
事林廣記ニ云ク。得一牛還一馬。

○反對ノ功用ヲ「毒藥變じて良藥」なるト云フ由來
淮南子ニ云ク。蝮蛇螫人。傳以和董。則愈。ト蓋シ和董ハ野葛ニテ毒藥ナリ。

○物ノ縁アル事ニ「もゑくゐに火つきやす」ト云フ由來
周易乾ノ卦ニ云ク。水流濕。火就燥。

○十分ニ意ノ如クナラザルヲ「かゆき處に手がとゞかす」ト云フ由來

無門關ニ云ク。押捧打月。隔靴爬痒。

○大ニ善惡ニ感スル者ヲ「惡にもつゝよければ善にもつゝ」ト云フ由來

○說苑ニ云ク。惡惡道不能甚。則其好善道亦不能甚。
○酖漢狂者等ガ事ヲ過ラザルヲ「ものぐるひ水こぼさば」ト

云フ由來 淮南子ニ云フ。狂馬不觸木。獬狗不自投於河。雖雙蟲而不自淫。又况人乎。

○威權アル者ニ又威權ヲ付クルヲ杯ヲ虎に翼おつくるト云フ由來

楊子方言ニ云ク。或問酷吏。虎哉虎哉。角而翼者也。

○酩酊ノ甚キハ醉て泥となるト云フ由來

○李白ノ詩ニ云ク。三百六十日。日々醉如泥。

○細君ノ跋扈スル時牝鷄うたへば家ほろぶト云フ由來

○周書ニ云ク。牝鷄無晨。牝鷄之晨。惟家之索。

○世帯ノ世話ヲ「みそ」ハの世話ト云フ由來

○前漢書ニ云ク。咸宜爲左内史。其治米鹽之事。小大皆關其手。

○武人ヤ好酒家杯ノ常助ニ「死」ての長者より生ての貧人ト云フ由來

○晋書ニ云ク。張翰曰。使我有身後名。不如即時一杯酒。

○康熙字典ニ郎ハ男子ノ稱或ハ婦謂夫爲郎トアリ然ルニ

世ニハ女子ヲ(女郎)ト云フ由來

北夢瑣言ニ云ク。一日見一女郎。白樂天ガ詩ニモ。木蘭曾作女

郎來。杜牧ガ詩ニモ。女郎擦亂送秋千。

○下婢ノ歳ニ一二回歸省スルヲ(敷入)ト云フ由來

唐書ニ云ク。詔婦人爲官者。歳一見其親。又温大雅カ傳ニ。火禁

中野狐落トアリ。野狐落ハ唐ノ官名ニテ。宮人カ聚ル所ナリ。

郭氏玄中記ニモ。千歳之狐爲淫婦。百歳之狐爲美女トアリ斯

婦人ヲ野狐視スルガ故ニ。敷入ノ辭起リシナラン。

○妻ヲ女房ト云フ由來
瑯琊代醉編ニ云ク。家室女房。奩五百千。以禮遣之。

○人ヲ瞞着シテ咲フヲ「乾咲」ト云フ由來
能改齊譏ニ云ク。世言咲之。不情者。爲乾咲。宋范曄謀逆。就刑於市。妻來別罵。曄曰。身固不足塞罪。奈何枉殺子孫。曄乾咲而已。乾咲自此始。

○自己ノ長技ヲ自己ノ物ニ使用セザルヲ「紺屋の白袴」ト云フ由來
說苑ニ云ク。良醫之子。多死於病。良巫之子。多死於鬼。ト蓋シ此

語ヨリ一變シ來リシナラシ。
○跋吉田愚溪書
凡技必有出於技之上者。然後其進不可已。而妙處可得而臻焉。

中村敬字

如吉田愚溪之於臨池。是也。愚溪嘗在望月毅軒塾。學漢籍。然以性嗜筆札。暇輒學之。一旦慨然曰。毋老待養。我其專於所嗜。早成名以慰親思哉。自是刻意學書。手不離案。夜不就寢者數年。始師佐瀨得所。既得。所謂愚溪曰。吾書不足復學也。因出懷素歐陽詢帖。授之。愚溪益勉強不已。又學二王書。今則楷行草三體。無不佳妙。折衷古人。自出機軸。可與方今以書名家者。比肩而無愧矣。嗚呼。孝弟之至。通於神明。愚溪之孝于親。乃所謂出於技之上者。其齡尙少。而至于此境。豈足恠哉。試使愚溪一於嗜書。而無孝親之心。其何得至此乎。今愚溪出其書於博覽會。令堂往而觀焉。其喜當何如也。余深望令堂之康彊無恙。而及見愚溪之聲名彌隆。福祿並至也。於是乎言。
小品之文。亦足爲技藝者勸。吾妻生評。

○余欽慕得庵居士久矣。而未接警咳。頃訪中村敬字翁。

見示居士唱和之什感吟之餘叨汚瑤璫以呈。

城井國綱

安石不出。奈何。蒼生何志。士慷慨。又悲歌。得庵居士今安石。夙以世務付烟波。一臥東山呼不起。門外謝絕高軒過。靜夜時來真如月。獨讀般若波羅密多。心海清澄不起浪。何省世路有轍軻。吾儕欽慕多年此。趨陪無路空長嗟。尺素欲以付歸鴈。暮雲望斷天一涯。一朝玉詩忽落手。感吟反覆情更加。元知詩法出兵法。筆陣堂々驅妖魔。險韻布來現長城。首尾相應常山蛇。吁嗟今日廟堂諸物具。憾致居士無網羅。請見我邦問大國。東有魯米西中華。宜以信義相來往。四海之內如一家。此是畢竟居士任。戀々休看東山花。敬字曰。今世詩文集多行于世。而城井君所輯明治名家詩選。實爲巨擘。余思君必善詩。不然。則不能成是集也。今此詩至。而余深服其用韻自在。如不經意而成者。七古之能事畢矣。

余與城井國綱君。未相識。辛己四月。次余寄中村敬字詩韻。介岡本監輔來贈。監輔於余莫逆友。乃知君爲高逸之士也。如詩中所云。余所不敢當。今步前韻。述所懷。以報其厚誼云。

鳥尾得庵

治亂興亡果如何。草堂。涵唱飲酒歌。身履薄冰追古德。一死一生涉世波。書劍空懷濟時志。半生得喪夢裡過。慷慨自甘墮鬼窟。不問人間危險多。吾猶人豈不求達。轉悲人窮致轍軻。蒼天蒼天幽且遠。獨有孤臣仰面嗟。憶昔神祖立皇極。有物有則生無涯。三千年來君子國。國步一跌艱難加。艱難加兮大道喪。大道喪兮現妖魔。雖云時運及澆季。安知有人放毒蛇。思之一日魂九折。卜居又

當投汨羅。幸有漁父。嘗救我。擲棄離騷。讀南華。南華離騷。均幽憤。不如飲酒。效陶家。耳冷心灰。生如死。萬事一醉。付眼花。

敬字曰。一氣盤旋。不加雕琢。而意自到。勿做尋常詩家看。

讀得楚敬字二君唱酬詩有感。乃步其韵。錄呈敬字君。

藤澤南岳

奈此滿胸磊塊。何日仄西窓。鼓缶歌。迷海渺茫人習溺。澆世誰能挂額波。薄俗偷風眼中變。春敷秋落容易過。五癸九法方將敦。愛悶只向此際多。辨論豈敢比髡。爽文章又何攀。卿軻將欲濟世亦無力。大蓋之儼獨自嗟。忽聞學士與居士。唱和琅璅恣無涯。一則杞憂憂曷已。一則莫哀哀更加。筆鋒俊邁誰得敵。情事却憐心即魔。悲憤到底愛國語。杯中恐無辨弓蛇。肝膽傾吐真豪傑。言語不。怕觸網羅。精誠凜冽人感動。便知詞藻非空華。吾也瞠若徒慚愧。

涓埃曷日報。那家一路。春風草香處。徘徊且探。荔枝花。

敬字曰。余耳南岳先生久矣。忽有此寄。恍如見其面。所謂精誠凜冽。詞藻非空華。則僕何能當。唯有愧恥耳。

○陪加藤老國手祝宴作狂乎歌國手善醫瘋癲病

內藤耻叟

狂乎狂乎。吾愛狂。愛狂吾亦性成狂。加藤先生哀世狂。善用靈藥醫羣狂。狂乎狂乎。吾愛狂。為君列舉三代狂。手脚胼胝大禹狂。版築北海傅巖狂。荆蠻文身梅里狂。採蕨餓死西山狂。鬢髮垂釣渭上狂。吐哺握髮周公狂。乘桴浮海孔聖狂。制挺撻甲孟叟狂。陋巷飲瓢豈非狂。軍門結纓果亦狂。舟載西施五湖狂。身沈汨羅三閭狂。義不帝秦魯連狂。椎擊祖龍子房狂。千古名賢多是狂。今日難起九原狂。狂乎狂乎。吾愛狂。羨君一堂會衆狂。今日誰似古人狂。

羣客一々無非狂。明目張膽各鬪狂。裂冠解帶裸程狂。噉垢飲污
 圍溷狂。捫虱坐學王。猛狂。怒髮衝冠荆軻狂。慷慨又見南八狂。垂
 涕如訴包胥狂。御風冷然禦冠狂。雄辨縱橫儀秦狂。豎白異同騶
 夷狂。主人有術能掣狂。恰如神明伏羣狂。寸匙能醒千萬狂。萬狂
 一醒頓忘狂。對人自言未曾狂。先生又能恤貧狂。千金不惜救窮
 狂。磔水之鄉無貧狂。一鄉施及四海狂。一杯銀盞賞濟狂。先生拜
 賜喜如狂。開宴高樓會雅狂。醉來又發狂。狂乎狂乎吾愛狂。
 愛狂吾未愧古狂。日蝕月虧天之狂。風雨雪雷出沒狂。山崩水涸
 地之狂。桑田碧海瞬息狂。天地既見萬象狂。百花生時蜂蝶狂。蟲
 秀之微猶善狂。人生何獨醉不狂。請君休醫吾此狂。吾醉不覺言
 太狂。明朝君能醒他千百狂。今宵幸能容吾一言狂。
 敬字曰。狂字用得縱橫自在。非胸羅千古不能。敬服敬服。

○讀宋史和敬字先生韻

內藤耻叟

君不聞。經國古今嫌多才。薄德常為禍亂媒。新參當日舉朝賀。姦
 萌只有獻可知。趙宋國勢果何狀。北有強虜衰在西。休養幸賴仁
 宗仁。楚人不解關雎詩。泉府附會周官語。三不足說誤英主。元祐
 紹聖徒多事。堯且一傾不復午。吁嗟乎。多才擾世何世。無鷹鷂。竟
 為金人驅。必世後仁聖。猶然吁嗟乎。新法誤國何國。無。敬字曰。多才擾世。謂才之小也。若夫如周公之才之美。則培八
 百歲之洪業。謂之大才經國可也。杜陵曰。古來才大難成用。亦
 是有激而言之。非通論也。司馬溫公曰。才勝德者小人也。德勝
 才者君子也。所謂小人。豈非暗指新法誤國者乎。此詩憂深思
 遠。三復愈有味。

天栽茶大意跋

信夫榮

余天資疎狂。不能從物俯仰。自謂天下可畏者絕鮮矣。而其不得
 不異者。今獲數人。敬字之品行。甕江之文章。姑置焉。田島子寧之
 於養蠶。中山士美之於製茶。是也。子寧養蠶。余為屢稱之。而士美
 則未嘗舉諸口。蓋余非有意於不舉士美。無意於舉也。尤見其可
 畏焉。頃士美著栽茶大意一卷。示余曰。序屬之甕江先生。跋則煩
 子一言。嗚呼。士美以茶為命。四十年于茲矣。其所獨見。不一而止。
 是蓋示其一隅耳。然由是心契意會。有所發明於栽培摘葉之際。
 則不使子寧擅美于前。而富國之實。亦可庶幾焉。其可畏不亦大
 乎。敬字氏嘗叙子寧新論曰。人心之痼疾。在于守舊不變。而世道
 之上進。在于修善日新。讀此篇者。其亦體斯意可也。

○泰西論辨學要訣序

中村敬字

吾之意中先有七八分者。一經他人提撕警覺。則犁然當于心。灑

然喜于色。譬猶花蕾欲綻。半含半吐。春風一至。千林競發。如此活
 機。每遇之。快豈可勝道哉。余讀是書。指示論辨學要訣。曰。拿定真
 理。曰。推究事實。曰。先質後文。曰。宜吐自家意見。出于真情熱心。此
 皆吾意中既有七八分者。故一過目。便覺水乳交合。磁鐵相吸矣。
 其他多聞所未聞。如得異寶。余之喜可知也。刻成高君索叙。因力
 疾。題以是言。

吾妻升曰。比喻絕妙。短篇中情理充溢。此是先生獨擅。蓋自
 南華瞿曇來也。

○神道總論序

中村敬字

余嘗謂奧野君曰。嗚呼。如君者天下之幸民哉。君曰。何也。予曰。君
 與余共生于開闢以來。未曾有之時。值于新舊代謝。開明變化之
 辰。其所閱歷。治亂安危。禍福休戚之故。雖百歲老人。有不能及者。

蓋怪々奇々之活演劇也。紛々擾々之大賭博也。而皆與傍觀焉。亦屢脫乎艱難焉。非天下之幸民。而何。君曰。是則然矣。今日之少年。豈非更幸於吾儕乎。曰。難必也。余竊抱杞憂焉。短綆汲深井。近火仰遠水。螳螂覬鳴蟬。蚌鹵利漁人。是也。且夫。人民之俄得自由。猶小兒之弄火。焚燒家屋。觀之以爲快。試思。如此小兒。幸耶。不幸耶。聞之。曰。眞理。使。人。得。自由。曰。免罪之謂自由。君言行誠篤。諄々教人不倦。屢刻勸善之書。施訓黜。屬後學。以余觀于君。豈非欲警醒小兒之弄火者。使免乎罪耶。救人之不幸。而導之於幸。果然。即君之爲幸民者。決矣。君謝曰。不敢當。雖然。請從事于茲。頃神道總論刻成。使余題一言。方君校訂。是書。每有疑義。必就余而問焉。其虛己下人。與作事不苟。皆可敬也。時。如。幸。而。曰。難。必。眞。自由。者。如。在下。專。任。條。理。論。抑。君。相。權。而。曰。眞。理。免。罪。治。自。由。之。任。如。在。論。客。辨。士。而。反。曰。在。誠。實。教。道。者。此。所。當。深。思。也。

○同人社紀事 明治十四年 辛巳第四月

朝野紀事大要 辛巳第四月

四月二十九日 行野久米小試驗其
 優等進者矢野五郎 後期夫木本圓科
 五等進者矢野五郎 後期夫木本圓科
 八等進者滿尾幸太郎 中山貞夫 原村
 時之進者木尾幸太郎 中山貞夫 原村
 常鈴木進者一尾幸太郎 中山貞夫 原村
 一等進者木尾幸太郎 中山貞夫 原村
 三吉飯島敬宗 藤丸信次 藤野與田
 進同飯島敬宗 藤丸信次 藤野與田
 寺崎和田藏 淺田慎六 柴田鶴三
 及川武藏 新井由太郎 小島科松
 二川政藏 櫻田助乙田代清 風富郎
 小兼雄 自藏 櫻田助乙田代清 風富郎
 田兼雄 自藏 櫻田助乙田代清 風富郎
 甲本太輔 櫻田助乙田代清 風富郎
 衛山本太輔 櫻田助乙田代清 風富郎
 同二山本太輔 櫻田助乙田代清 風富郎
 特三初等乙計三自豫信乙進同太兵
 論三初等乙計三自豫信乙進同太兵

日七	始置農商務省以文部卿 以河野敏謙爲農商務卿 以福岡孝弟爲文部卿 以河村純義兼海軍卿
日十五	暹邏國皇族知蒙根君來遊
日廿八	乘輿幸相州厚木
正誤	

東京小石川江戶町十八番地
 本局
 編輯長 中村敬宇
 印刷 佐藤昭德

○社告

今般本誌台本出來ス御望ノ方左ノ表ニ照シ前金ニテ御申込アラハ直ニ遞送可致但郵便爲替ヲ以テ代價遞送ノ儀ハ小石川區小日向水道町郵便局宛ニテ御振出シアリタシ

自第一號 合本一册 定價三拾錢
自第十號 合本一册 定價三拾錢
自第二十號 合本一册 定價三拾錢
自第三十號 合本一册 定價三拾錢
自第四十五號 合本一册 定價四拾五錢
右十号合本一册ノ郵稅八錢十五号合本一册ノ郵稅十錢二册以上五册迄一割引五册以上十册迄二割引

本誌壹册定價四錢○半ケ年前金四拾二錢
○壹ケ年前金七拾二錢○府外遞送ノ分ハ壹册ニ付別ニ郵便稅壹錢ヲ受クベシ且ツ前金相切レ候ヘハ廢止ノ報告ナシト雖モ送致セサルモノトス

大取次

藥研堀町三拾三番地 報知社支店
虎ノ門外琴平町二番地 青霞堂
神田雉子町三十二番地 巖々堂
內幸町一丁目六番地 龍郵印行社

中村敬宇先生著

○西國立志編 定價金二圓 西洋仕立 壹册

○自由之理 定價金壹圓 日本仕立 五册

○西洋品行論 同 金三圓 十二册

○敬字文 同 金二十錢 二册

○西稗雜纂 同 金二十錢 二册

中島雄君譯述 同 六十錢 西洋仕立 壹册

○清魯關繫論 同 六十錢 西洋仕立 壹册

神田鍛冶町十一番地 發賣書舖 珊瑚閣

定時刊行 明治十四年第六月二十日發兌

皇朝蒙求序

中村敬宇

讀朝鮮論

全

石河公恕傳

內藤耻叟

詠物四首

內海 鉄

助字ノ事

中村敬宇

雜詩七首

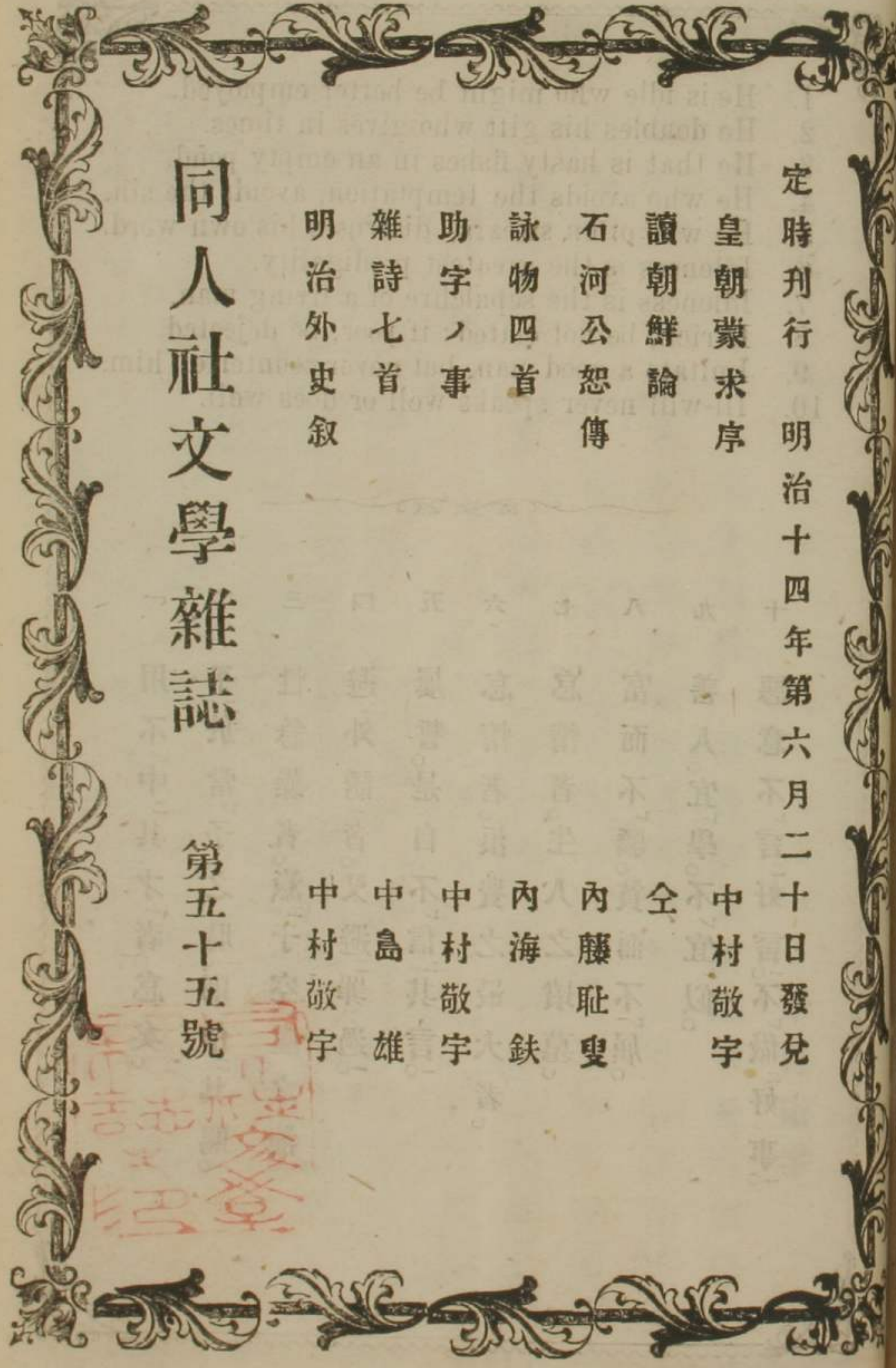
中島 雄

明治外史叙

中村敬宇

同人社文學雜誌

第五十五號



1. He is idle who might be better employed.
2. He doubles his gift who gives in times.
3. He that is hasty fishes in an empty pond.
4. He who avoids the temptation, avoids the sin.
5. He who often swears, distrusts his own word.
6. Idleness is the greatest prodigality.
7. Idleness is the sepulchre of a living man.
8. If rich, be not elated; if poor, be dejected.
9. Imitate a good man, but never counterfeit him.
10. Ill-will never speaks well or does well.

- 一 用不中其才者。怠矣。
- 二 予於當予之時。則倍其賜。
- 三 性急躁者。漁于空虛之池。
- 四 避外誘者。又避罪過。
- 五 屢誓。是自不信其言。
- 六 怠惰者。浪費之最大者。
- 七 怠惰者。生人之墳墓。
- 八 富而不驕。貧而不屈。
- 九 善人。宜學。不宜似。
- 十 惡意不言。好言不做。好事。

○ 皇朝蒙求序

中村敬宇

今茲辛巳三月。五十嵐子敬携下一部書。題皇朝蒙求者。示余曰。此吾師山下仁里所著也。仁里自幼至老。精神所寓。屢欲梓行。不果。近者或人竊取爲己著。將刻之。其子叔洵。訟於官。事得伸理。遂鏤版。工竣在近。請幸賜一言。余聞之。未及披卷。慨然曰。余可以序之矣。夫其精神所存。心思所積。五十年之久。藏於筐笥。又殆被他人攘奪。而幸發覺。若促刻以公世者。窮極而通。晦極而顯。若有天意存焉。余可以叙之矣。及披卷。讀其自叙。覽其標題。然後赧然曰。吾何足以序之。端緒識段錦。一斑窺全豹。仁里之自序。命意超卓。議論精確。而文章尤渾厚。非余之所能及也。矧其標題。對仗工妙。如天造地設。不可移易。由是推之。仁里人品之高。學問之優。出於尋

常萬々矣。蓋隱君子也。夫入之有德。有文。猶美玉也。雖韞於石中。未_レ有_レ久而不_レ顯者也。仁里潛修晦養。而肆力於著作。如此書。以_レ吾邦二千年間史籍。約_レ之於僅々三卷中。韻語既便於童習。而其註又雅醇可誦。較諸世之割裂成編。網_レ一時之利者。不_レ啻霄壤之別也。吾知_レ此書之出世。爭先購_レ之。或授_レ諸子弟。或用_レ諸學校。不出_レ數月。而遍行於海內也。如是乎。仁里積年之苦心。得_レ以_レ白_レ于世。而其名亦由以大顯矣。此則天意之所使然。豈區々鄙言之所能輕重也哉。吾何足以序_レ之。遜謝不敢。子敬固請不_レ己。乃次第其語。以贈_レ之。是舉也。叔洵能耐_レ紛難。以成_レ父志。子敬奔走依助。以酬_レ師恩。皆可_レ附書也。

重野成齋曰。未_レ披卷之前。意想一段絕妙。以_レ顯晦歸_レ于天。立意亦高。

○讀朝鮮論

中村敬宇

英人韋廉臣ウイレムソン朝鮮ノ事ヲ言テ曰ク、朝鮮ハ「グレイト・カパシテイス」大本領（大能力）アル國ナリ、ソノ入民ヲ論ズレハ「インテリジエント」才智アリ「アキユート」聰明銳敏ナリ「インジニアス」技巧（機巧）アリ、而メソノ上ニ「リツト・イス・ベシタ」最上ナル者ヲ有セリ、即チ「レゾリユート」カラクテル（剛毅）「堅忍」ナル品性ヲ有セリ、風土ハ「サリユブリアス」身體ニ保益アリ、コノ國ノ產物足ラザル所ナシ、米穀果蔬、木材鐵礫等、要用ノ物、皆具備セリ、コノ國ノ開進ニ欠ク所ノモノハ、獨リ西國ノ「シペライゼーション」開化（開化）ノミ、今地球上、開港互市セザル者ナシ、僅ニ此國アルノミ、今若シコノ國ト互市セバ英國ノ產物ノ進口スルヲ、必ズ饒多ニシテ、ソノ利益勝テ言フベカラズ、普魯社久

シク東洋中ニ於テ、一境界ヲ所有セシコヲ希望セリ、臺灣ヨ
 リハ更ニ此國ヲ望マン、カ、ル時變ノ至ラシニハ、豈ニ英國
 ノ憂ニアラズヤ、
 杞憂子曰、羅馬人嘗テ源白石ニ對シ、清國人ヲ方ニ喻ヘ、日
 本人ヲ圓ニ比シ、以テ日本人ノ善ニ遷リ易キヲ稱セシニ、
 白石ハ反テ謂ヘラク、清國ハ流石禮義文物ノ邦ナレバ、守
 ル所アリテ變ゼザルナリト言リ、然ルニ今日ニ至リテハ
 清人博ク他邦ノ美ヲ采リ、蒸々トシテ日ニ上ル、羅馬人ヲ
 シテ之ヲ觀セシメバ、亦方亦圓、亦堅確、亦靈變、ト稱讚スベ
 キコ必セリ、我邦人ハ、圓ニ一ニシテ返ラザルノ恐アリ、宜
 シク方ナル者アルベキヲ要ス、韋氏ノ朝鮮人ヲ評スル、才
 智ノ邊ヲ重ンゼズンテ、剛毅ノ邊ヲ重ンジ、ソノ圓ナル所

ヲ稱シ、尤モクノ方ナル所ヲ稱スルハ、議論ノ權衡、善ク其
 中ヲ得タリトイフベシ、○又曰、甚シイカナ、西洋人ノ貪婪
 狡猾ナルヤ、未ダ開手セザルノ先ニ當リ、東洋ノ境土ヲ、已
 等ニ割付タル所有物ノ如クニ、彼此ト計算スルハ、豈ニ東
 洋人ノ切齒扼腕スル所ニアラズヤ、

○石河公恕傳

内藤耻叟

石河公恕。名忠幹。稱德五郎。常陸名族平大掾之裔。水戶士人也。
 少而志操不群。性忠純。有氣節。天保初。水戶烈公新立。公固英武。
 既繼大封。欲大有所釐革。以風勵海內。最重治民之官。撰賢能任
 之。藩制遊倅子弟。年不滿四十。不得拜官。在當時實時公恕之父
 未致仕。公破格擢公恕任郡宰。衆莫不駭愕。適異論者在江戶邸。
 陰冀得志。合謀構譏。欲擠君子。誣以朋黨。公感之。政府書記會澤

安等既疏斥為閑官。公怒與同僚藤田彪、川瀨教德、吉成信貞、上書論辨。頗忤公旨。彪等引疾不出。公震怒。急召公恕。教德於江戶邸詢以事實。且責其偏黨。有私。二人侃侃辨疏。不遺餘力。公不聽。拂衣而入。公怒引裾切諫。左右竦動。公齊怒。納之。因大感悟。臣有此也。公真英明。其相得如此。即擢彪及戶田忠敬。居要職。俱參機密。自是忠賢日進。姦偷屏息。一藩竦然。改觀忠義之士。莫不激勸。當時烈公臨位日淺。情偽未明。姦邪乘間。搆陷忠正。殆誤國事。而公奮不顧身。直言極諫。竟回公聽。進君子。退小人。水藩天保之政。風聲動天下者。未必不由公恕忠諫之力也。前一段何等筆力。弘化元年。幕府忌公賢明。遽命退居駒籠邸。傳國世子。於是姦邪復得志。君子之徒廢退相踵。公恕亦投閑職。時戶田藤田二人同蒙幽禁。會澤以下亦禁錮於城西廢宅。人心恟懼。不知所為。一一君子之免

禍者。亦皆備々畏罪。無敢一人出力。以雪公冤者。適有少年激許之士。不忍憂憤。妄發訟寃。圖謀不臧。徒激禍變。獨公恕智慮縝密。謀不失機。宜陰上書。烈公屢陳忠懇。公始得知內外情形。既而戶田藤田二人放還水戶。公恕深夜往來。就謀。雖家人不知之。又密往江戶。就諸侯。有名望者。及所在忠義之士。謀雪公之冤。議論痛切。言淚俱下。聽者莫不感動。皆協力贊助。達之於老中阿部侯。竟得回將軍之聽。以開烈公之寃者。抑非公恕忠誠感人。則孰能如此哉。二段何等筆力。嘉永中米艦入江戶。海迫求互市。物情恟々。議論紛起。幕府起公參修攘之政。以鎮衆心。公乃召戶田藤田為參畫之臣。先是公恕既為政府掌書記。俱參密議。與天下之士往來謀議。時稱水戶三英。當是時。天子叡聖。銳意外攘。而幕府有司素察外情。最懼其啓釁速禍。議論不合。猜忌日積。禍殆不測。好事

之徒乘之煽動。上下相疑。公大憂之。慮其東西沮格。或生大變。欲遣人西上。居間調護。有所彌縫。殊難其人。意屬公恕。戶田藤田亦贊之。公憫公恕年老。難言之。公恕奮然請當其任。意將以身徇國。公大喜。乃命為鷹司公夫人傅。臨發有密命。手解佩刀賜之。公恕感激。既至京師。納交諸公卿。特受知於三條內府。公有所關說。東西情意始通。藤公稱其忠良。辱得達天聰云。安政乙卯。東京地大震。戶田藤田二臣暴沒。公恕獨膺重事。盡瘁幹旋。用心尤苦。蓋以之得疾。以安政四年七月十六日沒。年六十二。沒而未幾。朝議與幕旨違。扞格拂亂。姦偽乘之。竟至於不可支。至是人服公恕調護得道。要之。數年之間。補苴缺漏。不至潰溢者。謂之公恕忠誠之所致。亦誰有異辭邪。二句截住。以收余嘗見公恕容貌清癯。意氣俊爽。謹沈不妄言。臨事侃々正議。不少屈撓。惟其忠誠出於天性。可以

感鬼神。可以貫金石。居家儉勤。謙虛接人。平生潛心理義。名節自勵。幼受業於宇佐美嶺亭。々々。幽谷先生門人。學有淵原。公恕孜孜勉學。自少至老。手未嘗解卷。至古人忠孝大節。則尤深致意焉。蓋其終身大節。一本之於至誠。而忠義確乎。生死不可奪者。多得之於學問云。余少遊會澤先生之門。又出入戶田藤田二子之家。稔聞公恕之事。常深欽之。既長。與其二子幹修幹文交最深。戊辰之變。與幹修同去國。避難於奧羽之野。每其潛居相會。追懷往昔。屢談及公恕之事。幹修具語其顛末。今也幹修既沒。余獨生存。因序次其語。以為之傳。贊曰。

水藩之政。聲振海東。藤田之學。戶田之忠。公恕之誠。蹇々匪躬。毅然風節。精明自衷。生死不渝。有始有終。陪臣之微。名達天聰。至誠感神。氣貫天虹。斯人而逝。誰啓群蒙。

敬字曰。水藩彬々出忠義大節之士。義公之澤。厚矣。抑三河武士之氣移於東方。而萃于此耶。

又曰。以忠誠二字爲關鍵。而橫說豎說。無所不可。文之光芒。上薄香漢。

○墨水看花

丙海鈇

歌聲酒氣滿隅川。醉客賞春狂欲顛。我亦暫忘貧與老。名花世界美人天。

謁神宮次煙字先生韻

以下三首係游晃之作

山川壯麗護神宮。往事茫茫感豈窮。成此經營全國力。獻他材器列藩雄。松杉鬱矣瑞雲外。金碧燿然紅日中。縱是滄桑逢世變。明君德澤到今豐。

敬字曰。典重肅穆。

霧降瀑

下崖好就瀑邊看。數級飛流落一端。踞石暫時衣袂濕。滿山白霧撲人寒。

觀背瀑

崖腹嵌空石徑危。玲瓏百尺玉簾垂。晃山四十八飛瀑。此瀑獨傳觀背奇。

○助字ノ事

中村敬字

古人ノ文中ニ助字ヲ用フルヲ觀テ。二様ノ考思ニ導ビカレタリ。第一様ハ。コノ處ニテハ。コノ助字ニ限ルトイフコナリ。第二様ハ。コノ處ニテハ。此ノ助字ニテモ可ナリ。彼ノ助字ニテモ可ナリトイフコナリ。史記高祖本紀ニ。高祖常繇成陽。縱觀秦皇帝。喟然太息曰。嗟乎大丈夫當如此也トアリ。漢書ニ

テハ。嗟乎大丈夫當如此矣トアリ也。ノ字ヲ改メテ矣ト爲ス。矣ノ字モナリト訓シテモ宜シキヤト思フトコロアリ也。ヨリハ少シ強ナルヤウニ覺ユ。漢書ノ方ガ善キ譯ニハアルベケレドモ。コノ處杯ハ。何レニテモ聞ユルナリ。又高祖紀ニ。呂公女ハ乃呂后也。生孝惠魯元公主トアルヲ。漢書ニハ。呂公女即呂后也。生孝惠魯元公主トアリ。乃即ニ改メタリ。イカニモ。即ノ字ガ穩ニ見ユ。然レモ乃ニテモ通ズベキヤウナリ。又同紀ニ。沛令共誅令。擇子弟可立者立之。以應諸侯。則家室完。不然父子俱屠。無爲也トアリ。則ノ字ヲ。漢書ニ即ノ字ニ改ム。コレハ史記ノ方ガ宜敷ヤウニ覺ユ。然レモ即ニテモ通ズルナルベシ。又同紀ニ。且卜筮之。莫如劉季最吉。於是劉季數讓。衆莫敢爲トアリ。漢書ニテハ衆莫肯爲ニ作リ。敢ヲ肯ニ改ム。コ

レ等ハ。何が宜キヤ。甚タ決シカスル所ナリ。陳丞相世家ニ。平曰。嗟乎使平得宰天下。亦如是肉矣トアリ。漢書ニハ。亦如此肉矣ニ作ル。漢書ノ方ガ宜キヤニ覺ユ。又史記ニ不ノ字ヲ用フル處ニハ。漢書ニ弗ノ字ニ作ル。假如不用ハ弗用トシ。不如ハ弗如トセリ。又史記ニ無ノ字ノ處ニ漢書ニ亡ノ字ニ改ムル所アリ。又史記ノ母ヲ無ニ改ムル所アリ。假如何以得母行也ヲ無ニ作レリ。コレ等ハ通用ノ類ニシテ。論語ノ無友ニ不_レ如_レ已者ノ注ニ無_レ母ト通_ス禁止辭トアルノ類ナリ。淮陰侯傳ニ。漢王以爲治粟都尉。上未之奇也トアリ。漢書ニハ上拜以爲治粟都尉。上未_レ奇_レ之也ニ作ル。一ハ之ノ字。奇ノ上ニ在リ。一ハ奇ノ下ニ在リ。何ニテモ宜シキモノト見ユ。何曰臣不敢亡也。臣_レ亡者トアルヲ何曰。臣非敢亡_レ追亡者耳ト改メタルハ。愈_レル

ニ似タリ。叔孫通傳ニ。二世召博士諸儒生問曰。楚成卒攻。斬入
 陳。於公如何。トアルヲ何如。ト改メタリ。又ソノ下ニ。博士三十
 餘人前曰。人臣無將。將即反。罪死無赦。トアルヲ。漢書ニテハ即
 ノ字ヲ則ニ改メタリ。以上助字ノ用法ヲ察スレバ。人各ハ即
 意ニ任セテ。妄用スルハ。固ヨリ不可ナレド。拘泥ニ過グルハ。
 亦不可ナルガ如シ。昔シ百歲ニ滿ル老人ノ語ニ。喫食モ些シ。
 飲食モ些シ。養生モ亦些シ。コレニ由テ長生セリト。夫レ養生
 ハ善キコナレド。世ニ養生ニ汲々トシテ。反テ虛弱ナルヲ致
 スモノアリ。文ヲ學ブモ。亦當作^{ナス}如是觀^ル。

○壇浦懷古

中島 雄

周防西去下之關。聽說平家滅此間。回首不堪頻借問。海風吹浪
 打沙灣。

蔡舉人伯昂先生評。望古憑吊。無限低徊。

別後寄宮崎駿兒君

宮崎駿兒君。嘗救余於極窮極苦之病時者。可謂余之知己
 也。先是既再航海。聞其向在厦門。余之繫舟於長崎也。遇君
 在焉。曰。數日前以事到此。將畢事。又入清。余因大喜。談論一
 晝夜。盡歡而別。翌日船中賦詩一編。寄之。

吾言之而聽者誰。吾唱之而和者誰。一船寂莫倦冬日。往登舵樓
 獨支頤。雲悠悠兮水泮泮。東望崎陽天一方。吾今懷君既如此。君
 又懷吾如何情。何日議論傾江東。相見共喜非阿蒙。此事與君期
 胸裏。眼前別離休痛衷。

○楊子江口憶大禹

君不見楊子之水西藏發。屈曲百折長江出。自是汪洋三千里。直

向扶桑海底沒。維昔帝堯御宇時。降水逆行汜中國。蛇龍居之民無所。下者爲巢上營窟。降水警余帝者懼。歷訪四嶽咨治術。神禹此時起身來。欲代乃父碎心骨。八載九州乘四載。隨山刊木大川掘。遺民于今三千年。不葬魚腹是誰力。嗚呼事業文章有輕重。文章空言事業實。堪笑儒者韓退之。漫推七編配禹績。

客中逢母忌日

三遷嘗被斷機呵。學業依然愧孟軻。海外忌辰心記日。膽瓶聊薦水仙花。

蔡先生評薦此清品。足昭淑德。

獵浦東戲似同行諸君

既駕長風破驚浪。餘豪未散試游畋。非龍非虎君知否。山兔一頭掛在肩。自注。浦東隔申江。與上海相對。風物天秀。頗有我還水之趣。

蔡先生評。趣甚。

早發上海

一從滬尾繫征艘。六夜忽々臥客窓。北去寒水漸凝結。片帆趁早下申江。自注。余以是月五日。船達上海。留六日。再搭英船。新南陸號。向太沽。實明治十一年十二月十二日也。

黃海逢颶口號

余之辭品川總領事也。總領事屈指語余曰。自今三日船近山東岬。則漸動搖矣。既發未至黃海之半。忽然逢颶。殆有天柱裂。地維摧之勢。余以爲死生有命。不足畏也。口占一絕。晏然就枕。翌朝夢覺。起開蓬窓。船已入渤海。海上平穩。細波如縠。山東諸山迤邐在船後。家山此去三千里。渺々單身委白波。由颶慰情殊不惡。馮夷擊鼓舞龍鼉。

○明治外史序

中村敬宇

明治之史者。書生之史也。或問。何也。曰。試觀今之居顯職。秉鈞軸者。有不能操觚染翰者乎。今之爲鉅商。握利權者。有不能游學負笈者乎。今之企大事。利民用者。有不能盤雪積功者乎。今之創會社。興善舉者。有不能究心洋學者乎。曰。雖有而寡也。曰。然則吾之言信矣。夫乾坤爲父母。而六子中坎離最用事。造語最覺有味。昔之書生。爲不中用。要是一隅之見。非通論也。古人曰。益人神智。莫如讀書。余閱明治之活史。而始知書生之爲用。如此其大也。蓋前代無比云。

信夫恕軒曰。疎々着筆。有露氣雨聲之趣。非老手決不能焉。今朝庭前芍藥放二花。不知與此篇風韻孰清絕。

明治十四年前期

英漢算學生徒日課本及時間表

本科第一等	同	氏論理書講義	自下午一點至四點鐘	英學正則	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
本科第二等	同	氏代議政體論講義	自上午八點至十二點鐘	科第一等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
本科第三等	同	氏經濟書講義	自上午十點至十二點鐘	科第二等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
本科第四等	同	氏性理書講義	自下午一點至四點鐘	科第三等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
本科第五等	同	氏修身書講義	自下午一點至四點鐘	科第四等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
豫科第一等甲	同	氏代議政體論講義	自下午一點至四點鐘	科第一等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
豫科第一等乙	同	氏經濟書講義	自下午一點至四點鐘	科第二等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
豫科第二等甲	同	氏性理書講義	自下午一點至四點鐘	科第三等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
豫科第二等乙	同	氏修身書講義	自下午一點至四點鐘	科第四等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
豫科第三等甲	同	氏代議政體論講義	自下午一點至四點鐘	科第一等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
豫科第三等乙	同	氏經濟書講義	自下午一點至四點鐘	科第二等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
豫科第四等甲	同	氏性理書講義	自下午一點至四點鐘	科第三等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘
豫科第四等乙	同	氏修身書講義	自下午一點至四點鐘	科第四等	同	氏希臘史書取	自上午十點至十二點鐘

1. Contend not with thy friend, lest thou make him an enemy.
2. Condemn not poor acquaintance, nor flatter rich friend.
3. Deliberate long on that which you can do but once.
4. Do not in prosperity what may be repented in adversity.
5. Delay in punishment is no privilege of Pardon.
6. Every delay of repentance is a cheat upon ourselves.
7. Experience, (with instruction,) is the best way to Perfection.

- — — — —
- 一 莫^レ漫^ニ與^レ友^ニ爭^ニ恐^ニ其^ハ敵^ニ視^ス我^ヲ。
 - 二 勿^レ侮^ル貧^ニ友^ヲ勿^レ媚^ル富^ニ友^ヲ。
 - 三 不^レ可^レ再^レ之^事當^ニ熟^シ思^フ而^レ行^フ。
 - 四 當^ニ福^テ運^之時^テ勿^レ作^ル逢^レ禍^ニ而^レ悔^ム之^事。
 - 五 延^ル刑^ヲ非^レ寬^ニ。
 - 六 猶^ニ豫^ス於^レ悔^ニ自^ラ欺^ク者^也。
 - 七 經^ニ驗^ス於^レ教^ニ成^ル事^之善^道也。

文學雜誌第九十二號

讀杜僧房記

中村 敬宇

成齋曰舊作符何如
 恕軒曰其哉云々得客一
 詰隨勢遂拂將去靈心妙
 腕
 又曰達者卓識之言有出
 尋常意外者此二句是也
 又曰五時八教字面見夫
 台四教儀先生博雅多識
 如此
 又曰打丸韓杜名句來成

余友寺田望南。舊名其齋曰讀杜草堂。近改草
 堂爲僧房。而請記于余。有客嘲之曰。甚矣望南
 之嗜杜也。今尙不能以誦經易讀杜耶。余曰。噫
 子作此言。非知佛者。非知杜者。又非知望南者。
 以余觀之。佛杜同是一物也。僧俗同是一望南
 也。夫五時八教之佛說。開元天寶之杜詩。均是
 致廣大而極精微矣。有一念不哀憫衆生者乎。
 有一時不痾瘵斯民者乎。至其文辭之妙。則雖
 不可比。而論豈亦非所謂異曲同工而光焰
 萬丈。不廢江河萬古流者乎。望南自幼嗜學。通

此母句法真，是大家手段。

又曰：拘形而讓龍蛇者，滔々皆是，可不歎乎？

成齋曰：俗者之者刪，焉刪亦不妨。

恕軒曰：好引証，得此一證。

全篇活動。

又曰：收得餘情不盡。

成齋曰：天_上加如_下踈石三字，何踈石之於足利。

氏猶天海崇傳之於德川。

氏故補之。

忠孝大義，好讀杜詩，遊世多變，彷彿仕途，今雖

歸于佛，而膂力方剛，正所謂勳業頻看鏡，行藏

獨倚樓之時也。余又安知其不復變邪？雖然，潛

見飛躍，不過一龍之變，拘外形而岐僧俗者，非

知望南者也。抑余有感于蘇氏之論少陵焉，曰：

此老詩外大有事在。昔者高僧如空海，如文覺，

晚近如天海，豈皆非禪外大有事在乎？嗚呼，望

南嗜杜益甚，則禪益深。他日入佛出佛，大有

事在者，將不可得而測也夫。

重野安釋曰：尺幅中，轉換自在，殆不可思

議。得昌黎雜說之妙訣，在吾兄近作中，僕

竊推傑構，是無他，吾兄熟杜詩，兼通佛典

故隨手拈出，自然語雋意透，盤空撰出者。

豈能至此哉？故曰：言有物，此謂至文。

信夫。恕軒曰：高文如柳絮舞風降，讀去覺

無限風趣，何等才情。

鳥尾得庵曰：知望南之不可得而測，即是

謂之知佛知杜知望南，至于先生文章之

妙，不待余言之而天下已既知之，故不呈

一辭。

龜谷省軒曰：此種之題，極難着手，今把瞿

曇少陵併論，題始有關係，非力挽萬牛者

不能。

又曰：驟讀之，耽詩愛禪，太似澹泊蕭散者。

得庵曰：佛杜一物之句，是本來無一物。

執雁牽羔，日儀禮士相見禮。○所夕與旦夕同。○附驥史記伯夷傳，伯夷叔齊雖賢，得夫子而名益彰。顏淵雖篤學，附驥尾而行益顯。○續紹晉書趙主倫傳，倫黨皆登卿相，並列大封。至於奴卒厮役，亦加以爵位。每朝會，貂蟬盈坐，時人為之諺曰：貂不足，狗尾續。○榜櫟，日莊子。

而細視之。牢騷鬱抑，激昂蒼涼之氣，溢乎筆墨，幾抉離騷之髓。

○與中村敬字書 陳允頤

敬啟者。自來東游，即仰高山，久擬執雁牽羔。一修士相見禮，徒以官守所限，案牘勞形，卒夕抄聽夕之暇，頃從姚君子棟處，領到文學雜誌一分，猥以蛙蟬之鳴噪，媿諸鸞鳳之階，附驥雖榮，續紹彌慙。伏念執事詩才文筆，昭曜瀛壖，而宏獎風流，兼收博採，固宜士林之望。奉若斗山，匠氏之門，不遺榜櫟也。允頤傾襟徒切，捧手尚稽偶賦，俚言藉明嚮往，并附近作長古一首，唯執事教之，幸甚。

廣樂鈞，天史記趙世家，趙簡子疾，五日不知人，大夫皆懼，居二日半，簡子寤曰：我之帝所其樂，與百神遊于鈞天，廣樂九奏。○巴人下里，宋玉客有歌于郢中者，其始曰：下里，巴人和者數千人。○學步邯鄲，見莊子，與傲蟹意略同。

中村先生以文學雜誌見贈，賦謝請政。

妙筆高文，指首推東來正，悔失荆遊，忽聞廣樂鈞天奏，採及巴人下里詞。國有顏淵君殆庶，世無韓愈我誰師。褒題一語榮華衰，學步邯鄲愧曷支。

文昭院，德川六代將軍家宣公也。

陳允頤，字養元，橫濱領事官。

○借莊大吉，雲益大華軒，王二琴，僊遊文昭院作 陳允頤

佳哉殿宇，何鬱葱，壁窠巨榜，懸當中，彫楹畫壁，燦丹碧，石燈鏡塔，排重疊，上書某々敬奉獻，列候班秩，分庫崇，入門躡級，思騁步，翫鬱不辨蹊。

頭陀言僧也。翻譯名義集曰：頭陀，此言斗擻斗擻煩惱，故曰頭陀。

太阿劍名也。李斯諫逐客書云：垂明月之珠，服太阿之劍。爾雅釋親：昆孫之子曰仍孫。女々之子曰雲孫。鄧家鄧通以鑄錢財過王。

者故吳鄧氏錢布天下而鑄錢之禁生焉。出史記平準書。楊氏冰山鎔言勢之易變。唐楊國忠恃寵專橫，人爭附之。張彖曰：人倚國忠為泰山，吾獨為冰山。祖龍謂秦始皇。阿瞞魏曹操小字也。南卓目注云：上於諸親嘗自稱阿瞞。烝相諸葛亮也。

西東頭陀磬折作鄉導。禪房花木曲逕通。古梅百本守宜鶴，長松千尺盤如龍。前有經堂課功德，華嚴法界裝金容。後有丙舍極奧窳，綠垣銅以南山銅。々山高々石擲下，是誰於此營幽宮。諸君淹雅練故實，稽圖核典數始終。云是將軍德川氏，六墓藏魄期無窮。當其手柄太阿日洗兵，早挂搏桑弓。振興文教二百載，聲施表海跨源豐。九州鼓鑄易々耳，何妨壑谷羅歌鐘。呀嗟霸業頓銷歇，一坏徒爾留穹窿。日光已非湯沐邑，雲仍安得尺寸封。縱未鄧家金穴盡，至今猶先看楊氏冰山鎔。我聞此語三太息，忽然一笑舒雙瞳。君不見祖龍初作驪官役，金龜銀澥作

神工。狐鳴篝火揭竿起，牧奴一炬咸陽紅。又不見阿瞞疑塚七十二，分香買履真姦雄。漳河水涸輶仍毀，鄴城事去臺旋空。洛陽銅駝臥荆棘，昭陵石馬嘶烟烽。西蜀獨留烝相廟，錢塘有觀名表忠。營邱正首委墟葬，榜里海葬廿蒿蓬。賢達自有不朽在，借箸易地將母同。此邦健者指堪屈，崖開析木英靈鍾。武州死義惜平相，湊川歸骨哀楠公。諏訪湖邊沈夜月，桃花坂上吊春風。四姓園亭容走鹿，舊京陵寢嘆孤鴻。千秋得喪全黃壤，萬事榮枯聽碧翁。滄桑變幻直游戲，陳跡何須歎逝淙。敬字曰：亦莊重典雅，亦感慨淋漓，得此大文

錢塘吳越王錢鏐故事○

字。雜誌頓覺生光彩。

營邱正首孤死必邱其首、○楞里子秦惠王之弟也、○武州謂齊廢實盛、○諏訪湖邊云々蓋謂織田氏、○桃花云々謂豐臣氏、○四姓謂平氏足利織田豐臣、

○政治ノ善惡ハ政休ノミニ關セス

斯邊撒氏著
經世學抄譯

東條世三

結果ノ多寡ハ器械ノ良否ニ視フトノ謬見ヲ抱持スル者ハ
兎角政体ヲ信スルヲ厚キニ過ルトナリ蓋シ兒童ノ蒸氣機
械ヲ一目シテ其働ヲ裝置ノ巧緻ニ歸シ蒸氣瀛罐ナケレハ
機械ハ働ヲ逞フスルヲ得ス薪水ナケレハ瀛罐ハ蒸氣ヲ生
シ得サルノ事實ヲ認識セサルカ如キ凡テ事物ノ働ヲ有形
ノ近因ニ推委レ隱微ノ力ナル者アリテ實ニ之カ原因ヲ爲
スノ理ヲ忘却スルハ世間通常ノ事ニシテ國民ハ法度ノ編

成如何ニ由テ政治ノ善美ハ容易ニ得ラルヘキ者ト思考シ
政治機關ソノ宜キヲ得ハ萬事其欲スル所ニ從フヘシト楊
言スルニ至レリ然レモ憲法ヲ以テ所有ノ功德アリトスル
ハ彼ノ在昔ノ國王ハ自然ノ靈德アリトノ信用ト一般共ニ
無稽ノ想像ナリ古人ノ君長ニ忠ナル屢々反對ノ事實アル
ニモ拘ラス其賢德ヲ信シテ疑ハサリシガ令人ハ憲法ヲ信
スルノ厚キ其功能ノ全ク事情如何ニ關スルノ實証ヲ願ル
ニ違アラズ政体ハ國民ノ性質ニ自然ニ發生スル者ニシテ
始テ功用ヲ奏スルコトニテ人民之ニ適合スルノ性質ナケレ
ハ至善至美ノ政体ヲ採用スルト雖モ利益ナキヲハ商
社ノ内政ヲ視テモ知ルヘキナリ此處引証チテ事冗社則
ノ美ナルハ社員ノ智ナルニ若カス況ンヤ政体ニ至テハ國

民性格ノ果實ニ非サレハ價值ナキモノニテ法度巧妙ヲ極ムト雖モ未可ナリ之カ用法ヲ詳知スルモ未可ナリ其民情ニ合シテ而後全キヲ得蓋シ此民情ハ則チ社會進步ノ間ニ彼法度ヲ發育セシ者ナレハ俄カニ革命ノ力ニ依テ設立セラルカ若クハ制法劇變ノ際急進シタル制度ノ如キ稍時ノ需用ヨリモ高尚ニ過キテ彼此相ヒ符合セサルキハ必ス之ニ相應スルノ災アリ之ガ証據ヲ求ムレハ希臘南亞米利加墨是哥近代ノ史乘ニ明ナリ或ハ佛國ノ如キ政体ハ幾回ノ變轉ヲ經テ名ハ共和トナルモ其實ハ依然專制ノ舊觀ヲ存ス否近ク英米ノ現況ニ就テ之ヲ視ルモ其例証ニ乏シカラス

(中畧)

斯ク論スレハトテ敢テ政体ハ不用ナリト謂フニ非ラス政

体ノ貴重スヘキ所以ハ國風民情ノ之ヲ活動スルニ足ル者アルニ據ルト雖モ亦タ政体ハ國風民情ノ由テ効驗ヲ顯ハスノ器械トシテハ頗ル要用ナリト云フモ論理ニ於テ妨ケナシ童子ハ壯者ニ恰適ナル重大ノ器械ヲ使用スルヲ得ス壯者ハ童子ノ器械ヲ以テ十分ニ工作ス可ラス必ス其手ト力トニ適當セル者ヲ要スヘシ各之ヲ要スレモ結果ノ多寡ハ器械ノ大小良否ノミニ依ラスシテ其人ノ力ニ適スルト否トニ在リ政治機關ニ於テモマダ如斯政体ノ得失ハ國民ノ適否ニ在テ適當ナル政体ノミ要用トス乃チ結果ノ多寡ハ器械ノ良否ニ從ハスシテ之ヲ運轉スル隱微ノ力ニ關ルヲナリ

太衛曰可謂大浸不溺之論矣。

○記大石良雄事

中村 敬宇

怨軒曰女子心情口氣寫得逼真

黃石齋逸事略

岐顧氏國色也聰惠通書史撫節安歌見者莫不心醉一日大雨雪篤黃公於余氏園使顧佐酒公意色無忤諸公更勸劇飲大醉送公臥特室榻上茵枕衾各一使顧盡弛褻衣隨鍵戶諸公伺焉公驚起索衣不得因引自覆薦而命

大石良雄之陽狂耽色也遊于高原與一文字屋妓柏木狎然其實未嘗一交也一夜柏木泣謂良雄曰妾前緣不淺同衾並枕亦已久矣而終有所不釋然者何也豈君心中有所包耶良雄曰無之吾悅卿殊色雖吾妻無以過也但吾嬰疾病多年醫藥無效故務為佚遊以散鬱憂若幸得康健他日其有所釋然也後良雄復營而死柏木追思此事感泣不已立塔于瑞光院修其冥福每月忌日蔬食不接客云
贊曰馬伏波云帝王自有真旨哉言乎如此良雄之事及方望溪所記黃石齋逸事足見忠臣之真與道學之真矣而偽者贗者亦可反而知

已。

願以爾臥爾厚且狹不可轉乃使就寢顧遂暈近公公徐曰無用爾側身內向息數十轉即酣寢漏下四鼓覺轉面向外顧伴寂無覺而以體傍公俄頃公酣寢如初云々

竈江曰全篇主旨一言蔽之曰背誦暗記作者多才雖珠璣銜目亦唯發揮此一句而已

學海曰奇峭嶄絕殆似王

信夫怨軒曰方望溪有此簡健而無此清麗張山來有此清麗而無此簡健又曰此事如易而實難惟此一事可以知石大夫之堅忍不拔矣

○標註十八史略序 信夫 怨軒 史可略不可繁何以略之曰便於背誦暗記而已矣今夫二十二史浩瀚淵博學者往往發望洋之歎不卒業而止即勉強卒業亦漫然過目如行煙霧中如朦朧尋昨夢安能背誦暗記乎宋司馬君實深慮之就歷世史傳芻繁摘要作通鑑二百九十卷然當時王益柔僅一讀而已

荆公

中洲曰、背誦暗記、一篇骨

子、

學海曰、以通鑑做簡談柄、

極有結構、

甕江曰、一段文章妙甚、不

得不批點、

學海曰、層々說下、入本題、

何等老手、

其後明袁黃又就省其文為歷史綱鑑吳楚材更畧為綱鑑易知錄一變而為攬要再變而為集要愈略愈簡至於曾先之十八史畧杜紫綸讀史論畧而極矣然論畧或過簡不如史畧之繁簡得宜此書之所以獨盛行于世也近笠間益三君份門人中田生寄其所著曰標註十八史畧者前余序之有客見而問曰此書四庫全書撮要不載其目元明史亦無曾先之是其書與人固不足取又何標註以附益之乎余曰不然古書之偽撰與雖真而不精焉者何限苟益於世功於人何問其真贗精粗况史畧未必偽書乎余幼貧乏插架惟有蒙求十八史畧耳而

甕江曰、引証二條、切當本

書、

學海曰、好箇証左、

中洲曰、一收拾首段、而行
文自然不費力、何等腕力、
學海曰、收結有力、

講究研磨之久。遂得暗記歷代沿革、世次制度治亂興廢之略。後讀通鑑及二十二史覺迎刃而解。慨々乎有餘地矣。蓋此書為之根基也。昔者物徂徠之在南。綏也。家無藏書。又無師友。獲都三近四書標註讀之。因得以遍通群書。近時古賀侗庵之課生徒也。先使背誦十八史畧。而後及他書。則知標註之惠於人。此書之益於世矣。學者欲通帝王正閫。歷數長短。及治亂興亡之蹟。先自十八史畧始。而攬要而綱鑑。遂博涉溫史。二十二史。所謂自粗入細。自畧入詳。惟見史學之易。不見其難。亦何讓於王益柔哉。乃君著此書之意。蓋在於此也。余安得不振筆贊成。

乎。既以答客。遂書以爲序。

川田甕江曰。愚亦將應需作此書序。苦難
著筆。今讀此篇。文思泉湧。愈出愈妙。古人
云。有知無知。相距三十里。豈然々々。

依田學海曰。文有根柢。有結構。鋪叙之法。
疎密之度。莫格不備。不覺頓抵地也。敬々
服々。

三島中州曰。文理一貫。不支不漫。運筆之
妙。自在其間。是非文章家。則不能。

二月二日大雪。翌三日陪中村氏賢室及令
娘。觀劇于島原。用東坡聚星堂韻。信夫怨軒
寒聲細々。輕霰積。蓋地前庭。堆瑤雪。鹽耶絮耶。

大野太衛曰。陸放翁詩曰。
止酒還開愧定力。先生無
乃似此乎。呵々。

敬字曰。余試次此韻。及成。
見妍益妍。醜益醜。擲之廢
紙。埋中。悔其不知難而退
也。

亂。續。紛。梅。也。柳。也。太。清。絕。只。是。關。心。後。園。竹。或
爲。滕。六。所。天。折。急。呼。山。妻。先。命。盃。滿。身。寒。氣。悉
消。滅。忽。憶。演。劇。昨。開。場。即。促。郵。筒。伴。聯。擊。東。西
勾。欄。簇。紅。袖。生。旦。丑。淨。皆。綵。纈。中。央。涌。出。古。梵
宮。閣。洛。陽。金。池。畔。樓。臺。花。落。屑。雪。姬。白。於。白。雪。白。
榮。枯。速。乎。警。電。警。場。放。客。散。月。三。更。評。彼。品。此
互。喧。說。却。憐。車。中。人。如。玉。江。戶。川。邊。寒。斫。鐵。
敬字曰。余幼時。觀劇於木挽町者數回。爾後
絕不復觀也。是日信夫文則勸余共往。會前
夜大雪。余頭痛發。洵爲遺憾。雖然。余年已老
矣。安知非天之戒予哉。今後。絕念此事矣。

東西 ○壬午重九黎大使招飲步瑤韻以謝 三島 中洲

東西佳節與相同。詩酒陪游高閣中。今日追隨鴛鴦伴。當年遠隔馬牛風。黃花開處含殘露。烏帽飄來入落楓。休問尋盟明歲事。天涯萬里有飛鴻。

○登高會席上奉和黎公瑤韻

小野 湖山

今古何論同不同。登高寄興一盃中。寒花晚節名賢句。暝鳥浮雲逸士風。愛此紅樓臨綠水。兼之翠竹與丹楓。高人到處留佳話。豈把游蹤比雪鴻。

敬字曰五六尤妙

○梅影四律敬祈東海諸大吟壇賜和

姚文枏 農龔

不須灞岸獨騎驢。昨夜橫斜手自鋤。紙帳月明風靜後。孤山雪滿徑封初。清癯品格塵何著。消瘦丰神畫不如。猶有殘煙寒嶺鎖。一枝春早寄卿闈。

大野太衛曰。好對天然。

照來隱約誤。逋仙神韻難。致著墨傳冷。意透時鴻欲。印凍魂蘇處。鶴猶眠。疎枝澹暈三更月。瘦骨輕扶一抹烟。却笑客來迷屐齒。幾番索笑欲巡檐。

鉛華洗盡肯隨時。應識江春度未遲。流水空山無我相。冰魂雪魄有誰知。芳情欲寫昏黃候。澹墨唯描縞素姿。恍有叩門聞剝啄。携燈相賞費猜疑。

冰雪聰明一片俱。折枝且漫把童呼。憑將和靖傳神筆。迷入徐熙沒骨圖。沒骨圖。以三其無筆。寒夜香浮空。即色綺窓花發有疑無。羅浮清品原高絕。月落參橫與不孤。

敬字曰。余讀姚爾梅先生中式優貢卷。及觀風雅藝。既明經術。尤邃史學。使余驚嘆者累日矣。世之讀是詩者。誰知其發

於經史爛熟之緒餘乎。

○嶋原行

赤穗大夫多逸事。醉花折柳極猖狂。嶋原屢登一文字。擁姬柏木壓群芳。胸中一點靈光燭。暖夢竟未結鴛鴦。佳人一夜向郎泣。枕衾咫尺是參商。赤繩元有宿緣在。命薄隔在天一方。郎曰吾情何疎卿。以妻比卿失顏光。唯我久嬰幽憂病。百方無効歲月長。若保健全訂他日。解紐同上合歡牀。仇家復讐大夫死。多情艷約空茫茫。佳人感泣無已時。立塔謝客祈冥祥。嗚呼大夫此事勿謂小。赫赫鐵心與石腸。我作此詩非無意。欲託書生游冶郎。

敬字曰。余叙事之文。得此詩補足。始得無憾矣。反復誦讀。不啻情麻姑癢處搔也。

○同人社記事

前号之續

自漢學第四等進同第三等者十五人。茨城長谷川己巳次郎。東京岡本喜太郎。静岡岡村周平。石川西川直太郎。長野池田清次郎。長崎帆足倫一郎。群馬上原右京治。東京磯野清輔。静岡鈴木德。埼玉木村虎藏。長崎大渡忠太郎。千葉鈴木進。東京中井整一。新潟山口於理平。愛知中島龜之亟。○自漢學第五等進同第四等者十一人。石川山城秀太郎。茨城伊藤平助。東京宮崎保二。東京六笠八五郎。静岡神田吉三郎。長崎伊東又四郎。埼玉齋藤儀三郎。静岡竹島鏘二。愛媛島田勝雄。東京內記貞吉。鹿兒島奈良原竹熊。

數學課

自數學第三等進同第二等者一人。神奈川青木儀三郎。○自數學第四等進同第三等者四人。廣島

福岡松之助。島根廣田金吾。千葉三枝周藏。

山口谷村一佐。○自數學第五等進同第四等者四人。東京鶴岡角太郎。東京中山信實。茨城岡村司。京都飯島敬一郎。○自數學第六等進同第五等者五人。神奈川平木良助。福井武久寅二郎。大坂堀龜太郎。千葉小林清藏。東京牧山清。○自數學第七等進同第六等者十三人。山形沼澤兵次郎。東京江塚幾太郎。東京岡本喜太郎。静岡鈴木德。京都小林英太郎。茨城齋藤英太郎。東京六笠八五郎。東京宮崎保二。千葉鈴木進。静岡氣賀賀子治。長崎伊藤又四郎。(未完)

每月

東京小石川江戶川町十八番地

二回本局

同人社

發兌

編輯 千賀鶴太郎
印刷 佐藤昭德

○廣告

序記墓銘等其他酬應文字當分謝斷候事

十六年五月中村正直

中村敬字先生著

○西國立志編

定價一圓 西洋仕立 壹冊

○自由之理

定價一圓 日本仕立 五冊

○西洋品行論

定價三圓 日本仕立 十二冊

神田鍛冶町十一番地 珊瑚閣

○本誌合本廣告

文學合本自六十號至七十五号十五 五十錢
雜誌合本 册西洋仕立一部定價

本誌壹册定價四錢○半ヶ年分前金四十二錢○一ヶ年分前金七十二錢○府外遞送ノ分ハ壹册ニ付別ニ郵便稅一錢ヲ受クヘシ且前金相切レ候ヘハ廢止ノ報告ナシト雖モ送致不申候 五月休刊

大 藥研堀町三丁目拾三番地

報知社支店

取 虎ノ門外琴平町二番地

靜霞堂

神田雉子町三番地

巖々堂

次 日本橋區元大坂町

法木德兵衛

二冊

